

私立大学図書館協会東地区部会

研究部報告書

2010年度

2011年3月

研究部担当理事校

東京理科大学図書館

# 目 次

## 《2010 年度研究部活動報告》

運営委員会	1
運営委員・研究分科会代表者合同会議	3
研究会	4
研修委員会	4
研修会	6
研究分科会	6

## 《2010 年度研究分科会活動報告》

1. 分類研究分科会	7
2. 逐次刊行物研究分科会	10
3. パブリック・サービス研究分科会	13
4. レファレンス研究分科会	15
5. 理工学研究分科会	18
6. 西洋古版本研究分科会	19
7. 和漢古典籍研究分科会	21
8. 情報リテラシー教育研究分科会	23
9. Lーラーニング学習支援システム研究分科会	26
10. 研修分科会	28

## 《研究分科会刊行物一覧》

## 《2010 年度研究分科会月例会について（報告）》

## 《2010 年度研究分科会会員の更新結果（報告）》

## 《研究講演会》

## 《研究会（交流会）》

## 《研修会》

### 2010 年度研修会 2010 年 11 月 4 日（木）～11 月 5 日（金）

テーマ：本の歴史、本の未来 ―電子書籍時代を迎えて―

第 1 日（11 月 4 日）

・科学史と書物	（西脇 与作）	42
・江戸時代の読本について	（大高 洋司）	50
・漢籍 ―目録と版本―	（高山 節也）	69

第 2 日 (11 月 5 日)		
・ 大学図書館とインキュナブラ	(雪嶋 宏一)	72
・ 「紙の本」の未来をめぐって	(前田 壘)	75
・ 電子書籍と学術出版	(植村 八潮)	77
《2010 年度研修会の総括と回顧》	(研修委員長 伊原 千秋)	86
《2010 年度 東地区部会研究部決算報告書・監査報告書》		87
《2011 年度 研究部活動計画(案)》		88
《2011 年度 東地区部会研究部予算(案)》		89
《関係規程》		
研究部細則		90
研究分科会申し合わせ		92
研修委員会規則		94

## 《2010 年度研究部活動報告》

### 1. 運営委員会

運営委員（任期：2009 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日）

委 員	伊藤 富士子	（東京農業大学）
	伊藤 義裕	（青山学院大学）
	角田 浩子	（慶應義塾大学）
	金子 和代	（早稲田大学）
	川北 友美	（帝京大学）
	菊地 秀明	（跡見学園女子大学）
	久世 泰子	（東京経済大学）
	矢野 巧仁	（関東学院大学）

研究部担当理事校 東京理科大学

#### 第 1 回 2010 年 4 月 13 日（火）15:00～17:00 於：東京理科大学

1. 2009 年度研究部決算報告について
2. 2010/2011 年度研究分科会会員の更新結果について
3. 研究分科会の休会について
4. 2010 年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
5. 特別助成金の申請について
6. 2009 年度研究分科会活動報告について
7. 2009 年度研究分科会会計報告について
8. 2010 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
9. 2010 年度部会総会行事について
10. 研究分科会マニュアル 2010 年度版について
11. 2010 年度研究部運営委員会日程について
12. 2010 年度私立大学図書館協会スケジュールについて

#### 第 2 回 2010 年 5 月 21 日（金）13:00～14:40 於：関東学院大学

1. 研究分科会の廃止・休会について
2. 2009 年度 Lーラーニング学習支援システム研究分科会の会計報告について
3. 2010 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
4. 2010 年度研究分科会予算計画について
5. 2010 年度東地区部会総会・館長会・研究講演会について



6. 研究会（交流会）の開催計画について
7. 研究分科会の運営上の諸問題について

**第3回 2010年6月11日（金）12:00～12:30 於：明星大学**

1. 研究講演会最終打ち合わせについて
2. 研究会（交流会）の概要について
3. 第1回研修分科会について

**第4回 2010年7月9日（金）10:00～11:30 於：東京理科大学**

1. 2010年度研究会（交流会）について
2. 2010年度研究分科会夏期合宿（集中研究会）実施計画について
3. 研究部の予算執行について
4. 2010年度第2回研修分科会について

**第5回 2010年10月8日（金）15:00～16:30 於：帝京大学**

1. 2010年度研究会（交流会）について
2. 2010年度第2回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
3. 次期研究部運営委員の推薦について
4. 廃会分科会について

**第6回 2010年11月12日（金）11:30～12:45 於：慶應義塾大学**

1. 2010年度第2回研究部運営委員・研究分科会代表者合同会議について
2. 2010年度研究分科会夏期研究合宿（集中研究会）実施報告について
3. 2011年度研修分科会について
4. 2010年度研究会（交流会）の運営について
5. 2011年度研究講演会の講師と演題について

**第7回 2010年12月10日（金）15:00～17:30 於：東京理科大学**

1. 2010年度研究部中間決算について
2. 2011年度研究部活動計画（案）について
3. 2011年度研究部予算（案）について
4. 次期運営委員について
5. 2011年度研修分科会の会員募集について
6. 2011年度研究講演会の演題と講師について

**第8回 2011年3月11日（金）14:00～16:40 於：東京理科大学**

1. 次期運営委員及び研修委員について
2. 2010年度研究部活動報告及び研究部中間決算について
3. 2011年度研究部活動計画（案）及び研究部予算（案）について
4. 研修分科会の募集結果について
5. 研究部担当理事校の引継について
6. 更新担当理事校の引継について
7. 月例会担当理事校の引継について
8. 研究分科会マニュアル2011年度版（案）について
9. 研究分科会の課題について
10. 研修委員会の活動について
11. 部会役員会の報告について

**2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議**

**第1回 2010年5月21日（金）15:00～16:40 於：関東学院大学**

1. 研究分科会の廃止・休会について
2. 2010年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
3. 2010年度研究分科会の活動計画について
4. 2010年度研究会（交流会）について
5. 研究分科会マニュアル2010年度版について
6. 分科会関連業務の分担について
7. 協会ホームページについて
8. 2010年度私立大学図書館協会スケジュールについて
9. 運用上の諸問題について

**第2回 2010年11月12日（金）12:45～14:15 於：慶應義塾大学**

1. 2010年度研究会（交流会）について
2. 夏期研究合宿（集中研究会）について
3. 研究部報告書原稿・会計報告書の提出について
4. 次期運営委員について

**3. 研究会（交流会）**

日 時：2010年11月12日（金）

会 場：慶應義塾大学三田キャンパス 東館 8階ホール

参加数：56大学 91名

講 義：「アメリカにおける大学図書館のマクドナルド化と飲食対応」

東京農業大学学術情報課程 教授 中野 捷三

研究分科会活動中間報告

①分類研究分科会	藤倉 恵一（文教大学）
②逐次刊行物研究分科会	三上 彰（桜美林大学）
	高橋 泰行（大正大学）
③パブリック・サービス研究分科会	加藤 庸介（文化女子大学）
④レファレンス研究分科会	鈴木 学（日本女子大学）
⑤理工学研究分科会	内山 光子（日本大学）
⑥西洋古版本研究分科会	松谷 有美子（清泉女子大学）
⑦和漢古典籍研究分科会	鶴田 香織（大東文化大学）
⑧情報リテラシー教育研究分科会	林 真紀（東京都市大学）
⑨L-ラーニング学習支援システム研究分科会	小田切 タ子（麻布大学）
⑩研修分科会	西村 香（青山学院大学）

#### 4. 研修委員会

研修委員（任期 2010 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日）

委員長 伊原 千秋（中央大学）

委 員 夏井 友子（早稲田大学）

谷藤 優美子（慶應義塾大学）

金万 智昭（専修大学）

矢野 恵子（明治大学）

光富 健一（東京理科大学）（2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日）

オブザーバー 今村 昭一（早稲田大学）

第 1 回 2010 年 4 月 15 日(木)14:00～16:50 於：早稲田大学

1. 2010 年度研修委員会及び研修会の日程と会場
2. 研修会テーマ、内容について

第 2 回 2010 年 5 月 13 日(木)14:00～17:00 於：中央大学

1. 2010 年度研修会について（継続）
2. 第 3 回以降の研修委員会の日程について
3. 2011 年度研修会日程について

第 3 回 2010 年 6 月 10 日(木)14:00～17:00 於：明治大学

1. 2010 年度研修会について（継続）

2. 今後の進め方について
3. 第4回以降の研修委員会の日程について
4. 2011年度研修会日程について

**第4回 2010年7月1日(木) 14:00～17:00 於：専修大学**

1. 2010年度研修会について（継続）
2. 今後のスケジュールについて
3. 2011年度研修会日程について
4. 第5回以降の研修委員会の日程について

**第5回 2010年9月28日(火) 14:00～17:00 於：慶應義塾大学**

1. 2010年度研修会について（継続）
2. 研修会開催に向けたスケジュールについて
3. 2011年度研修会日程について
4. 第5回以降の研修委員会の日程について

**第6回 2010年10月21日(木) 14:00～17:00 於：慶應義塾大学**

1. 2010年度研修会申込状況について
2. 2010年度研修会準備状況について
3. 2010年度研修会会場・動線の実地検分について
4. 第7回以降の研修委員会の日程について

**第7回 2010年12月13日(月) 14:00～17:00 於：早稲田大学**

1. 2010年度研修会をふりかえって
2. 2011年度研修委員会予算について
3. 第8回以降の研修委員会の日程について

**第8回 2010年3月4日(金) 14:00～17:00 於：東京理科大学**

1. 研修委員会の役割と活動の再認識
2. 委員の交代について
3. 2011年度研修会のテーマ決め
4. 2011年度第1回以降の研修委員会の日程について

## 5. 研修会

日 時：2010 年 11 月 4 日（木）～5 日（金）

会 場：慶應義塾大学三田キャンパス東館 8 階ホール

参加者：74 大学 76 名

テーマ：本の歴史、本の未来 ―電子書籍時代を迎えて―

内 容：

第 1 日（11 月 4 日）

基調講演 「科学史と書物」

慶應義塾大学 文学部教授

西脇 与作

講 演 「江戸時代の読本について」

国文学研究資料館研究部・教授

大高 洋司

講 演 「漢籍 一目録と版本一」

二松学舎大学文学部教授

高山 節也

第 2 日（11 月 5 日）

講 演 「大学図書館とインキュナブラ」

早稲田大学教育・総合科学学術院准教授

雪嶋 宏一

講 演 「『紙の本』の未来をめぐる」

文芸批評家

前田 壘

講 演 「電子書籍と学術出版」

東京電機大学出版局・局長

植村 八潮

## 6. 研究分科会

次の 10 研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施した。

（2010 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日）

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| (1) 分類研究分科会         | (6) 西洋古版本研究分科会           |
| (2) 逐次刊行物研究分科会      | (7) 和漢古典籍研究分科会           |
| (3) パブリック・サービス研究分科会 | (8) 情報リテラシー教育研究分科会       |
| (4) レファレンス研究分科会     | (9) Lーラーニング学習支援システム研究分科会 |
| (5) 理工学研究分科会        | (10) 研修分科会               |

休会：2010 年 4 月 図書館運営戦略研究分科会

2010 年 4 月 企画広報研究分科会（2009 年 4 月から休会）

廃止：2010 年 4 月 相互協力研究分科会

研究分科会月例会担当理事校 関東学院大学

研究分科会更新担当理事校 跡見学園女子大学

# 《2010 年度研究分科会活動報告》

## 1. 分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：6 名（正会員 4 名、個人会員 2 名）

会 員：上條 庸子（女子栄養大学） 鈴木 学（日本女子大学）  
藤倉 恵一（文教大学） 吉澤 由美子（清泉女子大学）

以上正会員

小林 美佐（昭和女子大学） 田中 環（文化女子大学）

以上個人 ML 会員

年会費：なし

例会開催回数：10 回（合宿 1 回含む）

延べ参加者数：53 名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/bunrui/>

## 活動

### 1) 基本テーマ

件名、シソーラス、Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究を基本テーマとする。

今期は、前期後半の研究を継承し、現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の日本十進分類法（NDC）新訂 10 版の試案について検証と評価、および必要な提言をすることをメインテーマとする。また、そのために必要な理論的基盤の研究についても並行して行う。

### 2) 活動の概要

分類研究分科会は 2 年間で(1) 研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える、(2) 主たる研究テーマの研究・検証を行う、(3) 研究成果の発表および総括 の 3 つの期間に分けて活動する。

## 2. 1) 第 1 期 ネットワーク時代の分類のありよう

第 1 期の活動として、以下の文献の精読を行った（2010 年 5 月～2010 年 9 月）。

- ・ ユニコードとセマンティックウェブの基礎知識 国立国会図書館月報 564, p.18-21 2008.3
- ・ 渡邊隆弘 セマンティック Web と資料組織法--概念体系管理の今後 図書館界 58(2), p.100-107 2006.7
- ・ 永森光晴, 杉本重雄 国会図書館件名標目表（NDLSH）の SKOS 化とそのグラフィカルブラウザの作成 情報処理学会研究報告 2006 (118), p.11-19 2006.11
- ・ Lee Feigenbaum (ほか) 離陸するセマンティックウェブ 日経サイエンス 38(5), p.76-85 2008.4
- ・ インターネットはいかに知の秩序を変えるか? / デビッド・ワインバーガー著 ; 柏野零訳 エナジクス, 2008, 344p.

特に序盤は「セマンティック Web」をキーワードとして既存の索引言語（分類や件名標目表）と検索精度への影響などについて概略をつかみ、続いて「分類」の役割から現状・将来に至るまでの概説をもとに検討した。

## 2. 2) 夏期研究合宿

夏期研究合宿は、第1期に関連して「図書分類の基礎とサービス実務への応用を学ぶ」をテーマとして以下の文献の精読を行った。

- ・ レファレンスサービスのための主題・主題分析・統制語彙 / 愛知淑徳大学図書館編, 鹿島みづき著 勉誠出版, 2009, 203p.

## 2. 3) 第2期 日本十進分類法試案の検証

第2期の活動として、前期からの継続課題である「日本十進分類法新訂10版試案の概要」の検討を行う。

しかし、前期以降現時点まで公開されている試案は1つのみであるため、当面の課題として9版本表編巻頭にある「解説」について精読し、その問題点を確認することとした。

9版「解説」は、8版当時の「序説」に比べるとページ数が大幅に増え、またNDC自体のマニュアル的要素を多分に含んでいることからおおむね好意的評価をされているが、その内容に言及し批評した文献はほとんどない。

そのため、まだ公表されていない10版の「解説」に相当する部分についてあらかじめ分類委員会に意見をしておくことは意義があるという判断から、検討に着手した。

## 2. 4) 会場記録

2010年 4月23日（金） 文教大学（越谷）  
5月14日（金） 女子栄養大学  
6月18日（金） 日本女子大学（目白）  
7月16日（金） 清泉女子大学  
9月8日（水）～10日（金） 伊東園ホテル（静岡県伊東市）  
9月24日（金） 文教大学（越谷）  
10月15日（金） 清泉女子大学  
11月19日（金） 日本女子大学（西生田）  
12月17日（金） 女子栄養大学（駒込）  
2011年 2月18日（金） 文教大学（越谷）  
3月18日（金） 臨時休会

## 資料

### 1) 刊行物

特になし。

### 2) 事業

#### ア. TP&D フォーラム 2010（第20回整理技術・情報管理等研究集会）の共催

1991年に日本図書館研究会整理技術研究グループ（現・情報組織化研究グループ）により始められたTP&Dフォーラムは、第2回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2010年度は京都で開催され、分科会からは藤倉・鈴木の2名が出席した。

フォーラムの参加者は教員、図書館員、データベース業者などさまざまであり、これに分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握、(2) 分野を同じくする教員や研究者との交流、(3) この分野の研究基盤継承への貢献 であ

るといえる。

なお、2011 年度は 8 月 19・20 日に関東にて開催される予定である。

#### イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007 年度より、分類研究分科会を代表して藤倉が NDC の編纂に携わっている。これによって、分類研究分科会での研究成果を多少なりとも NDC の編纂に役立てることができるし、逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

なお、第 2 期の活動の中心となる NDC 試案に対する批評については、編纂者としての立場とは直接無関係な活動として実施・公表する予定である。

#### ウ. その他

2010 年度第 10 回例会（2011 年 3 月 18 日開催予定）は、同 11 日に発生した地震災害およびその後の計画停電による影響を考慮して、やむを得ず臨時休会とした。

（文責・藤倉恵一）



## 2. 逐次刊行物研究分科会

代表者：横山友紀（大東文化大学）

会員数：9名

会 員：横山友紀（大東文化大学） 大関 学（国立音楽大学）  
田代陽子（日本女子大学） 高橋泰行（大正大学）  
蔵本祐史（東洋学園大学） 片岡真裕子（東京農業大学）  
小林由香（文化女子大学） 田中麻巳（立正大学）  
三上 彰（桜美林大学）

年会費：2010 年度は徴収せず

例会開催回数：10 回〔夏期合宿含む〕

延べ参加人数：91 名（講演会講師含む）

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/chikukan/>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

- ・電子ジャーナル、オンラインデータベース等の導入にともなう、逐次刊行物の蔵書構成の変化
- ・電子ジャーナルを含めた雑誌の提供のあり方や利用者教育・利用促進について
- ・オープン・アクセスや機関リポジトリの今後の発展の動向について

#### 2) 活動の概要

参加会員の関心のある、電子ジャーナル、オンラインデータベース等の導入にともなう逐次刊行物の蔵書構成の変化や、利用者への提供のあり方、利用者教育・利用促進の手法などについて、参加会員の研究発表をもとに議論していき、逐次刊行物の全体的な動向等について参加者全員の理解を深めていくことができた。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

4 月例会 2010 年 4 月 23 日（金） 文教大学 湘南キャンパス図書館

- ・自己紹介と代表者・各業務担当の選出
- ・分科会運営方法について
- ・活動計画と研究テーマについて
- ・図書館見学

5 月例会 2010 年 5 月 18 日（火） 日本女子大学 西生田図書館

- ・活動計画と研究テーマについて（課題をもとに）
- ・事務連絡
- ・図書館見学

6 月例会 2010 年 6 月 17 日（木） 大東文化大学図書館

- ・業務に関する各図書館の事例報告
- ・共通事項に関する各図書館の事例報告
- ・夏期研究合宿または夏期集中研究について
- ・図書館見学

7 月例会 2010 年 7 月 15 日（木） 文化女子大学図書館

- ・『機関リポジトリ』についての研究発表①②

- ・夏期研究合宿または夏期集中研究について
- ・文化女子大学服飾博物館および図書館見学

#### 8月例会 合宿 2010年8月23日(月)～25日(水)

- ・宿泊：桜美林大学 多摩アカデミーヒルズ
- ・研究テーマ：逐次刊行物の選定基準と電子ジャーナルやオンラインデータベースの導入状況について、現状分析を行なって理解を深める

##### 1日目

- ・見学：①大宅壮一文庫 ②桜美林大学図書館

##### 2日目

- ・研究報告：①OPACから電子リソースのアクセスについて  
②リンクリゾルバの導入例と実演(2大学)  
電子リソースへのアクセス方法等について、利用支援という観点からも、議論と意見交換を行なった。  
そのほか、各会員所属の大学図書館で導入している図書館システム等についての現状報告と意見交換も行なった。  
見学①についての討議および意見交換も活発に行なえた。

##### 3日目

- ・事例報告：逐次刊行物のタイトル数の見直しや保存・管理に関する、各大学図書館での対応について(全員による報告)  
特に、電子ジャーナルやオンラインデータベースの出現・普及が冊子体の購読タイトル数に与えた影響等について討議を行なった。

#### 9月：休会

#### 10月例会 2010年10月7日(木) 大正大学図書館

- ・研究発表①『蔵書構成と資料管理；逐次刊行物を中心に』
- ・分科会交流会での中間発表について
- ・講演会と講師についての話し合い
- ・図書館・7号館新棟(ラーニング・コモンズ)見学

#### 11月例会 2010年11月18日(木) 東洋学園大学 本郷キャンパス図書館

- ・研究発表①『逐次刊行物の短期保存について』
- 研究発表②『保存(廃棄)について；コアジャーナル調査との関連で』
- ・図書館見学

#### 12月例会 2010年12月9日(木) 東京農業大学図書館

- ・講演：出版業界と電子出版の行方  
講師：星野 渉氏(文化通信社取締役編集長)
- ・事務連絡
- ・図書館見学

#### 1月例会 2011年1月20日(木) 立正大学 大崎キャンパス図書館

- ・研究発表①『利用者教育；利用促進・学術情報提供方法』
- 研究発表②『雑誌担当者からみた利用者教育』
- ・来年度の活動について
- ・報告集について

- ・図書館見学

2月：休会

3月例会 2011年3月3日（木） 国立音楽大学図書館

- ・研究発表①『電子ジャーナルの保存；海外・日本・自館をとりまく現状』
- 研究発表②『書籍の電子化・電子書籍について』

## 2) 刊行物及び事業

2010年度は特になし

### 3. パブリック・サービス研究分科会

代表者：加藤 庸介（文化女子大学）

会員数：13校13名

会 員：撰 正弘（国立音楽大学）

嶋崎 尚代（昭和女子大学・副代表）

塩瀬 雅博（女子栄養大学・会計担当）

武藤 恵子（中央学院大学）

菅原 衣可（中央大学・HP担当）

池上 道代（東洋英和女学院大学・HP担当）

生澤佳奈子（獨協大学・合宿担当）

加藤 庸介（文化女子大学・代表）

市川さやか（法政大学・副代表）

山田 裕子（武蔵大学）

田中こずえ（山梨英和大学・合宿担当）

阿部 勝樹（早稲田大学・会計担当）

杉本 正武（成城大学）

年会費：8,000円（機関会員）

例会開催回数：9回

延べ参加人数：約100人

ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/public/index.htm>

#### 活動

##### 1) 基本テーマ

知識と情報の共有化を目的に、講義を通じて図書館業務を遂行する上で必要とされる知識・技能の修得に努める。また、大学図書館を取り巻く環境の変化について、国内外の情報を収集・理解・分析し、今後の日本の大学図書館の方向性を確認する。

##### 2) 活動の概要

基本的には講義とグループ研究の2本立てで実施した。4月～7月は講義中心の活動であったが、夏期研究合宿以降は会員それぞれの問題意識をグルーピングし、研究グループを立ち上げ、各グループで研究活動を行った。また、会員が所属する図書館の見学も積極的に行った。

###### ①講義

毎回の定例会の講義テーマを決定し、そのテーマに沿った講師を招聘し、受講した。今年度は、大学図書館員のスキルアップ、業務委託の実際、米国の大学図書館基準、図書館システムのリプレイス等の講義を受講した。

###### ②グループ研究

研究テーマを絞り込み、各テーマに分かれて研究活動を行った。現状での研究テーマは下記の通りである。

- ・学士の質の保証に貢献できる大学図書館の可能性
- ・業務委託と図書館の専門性

#### 資料

##### 1) 月例会テーマ

4月例会：4月14日（水）13：00～17：00 慶應義塾高等学校（日吉）

①「PS分科会の活動について：大学図書館経営の基本原則」

慶應義塾高等学校事務長 加藤好郎氏

**5月例会**：5月20日（木）13：00～17：00 慶應義塾高等学校（日吉）

- ①「大学図書館の戦略：サブジェクトライブラリアンの養成・育成」  
慶應義塾高等学校事務長 加藤好郎氏

**6月例会**：6月17日（木）13：00～17：00 昭和女子大学

- ①「大学図書館員のスキルアップ」  
昭和女子大学大学院生活機構研究科・人間社会学部教授 大串夏身氏
- ②昭和女子大学図書館見学
- ③グループ研究テーマ絞り込み

**7月例会**：7月15日（木）13：00～17：00 法政大学（多摩）

- ①「法政大学図書館における業務委託の実際」  
法政大学図書館事務部多摩事務課課長 下澤計治氏
- ②法政大学多摩図書館見学
- ③グループ研究テーマ絞り込み

**夏期研究合宿**：9月8日（水）～10日（金） 石和温泉旅館（山梨）

- ①「大学図書館員の獲得と育成：図書館員の評価方法」  
慶應義塾高等学校事務長 加藤好郎氏
- ②山梨英和大学図書館見学
- ③研究グループ分け、グループ研究開始

**10月例会**：10月21日（木）10：00～17：00 東洋英和女学院大学

- ①「米国の大学図書館基準(ACRL)と学生アシスタント(SA)について」  
慶應義塾高等学校事務長 加藤好郎氏
- ②東洋英和女学院大学図書館見学
- ③グループ研究

**11月例会**：11月17日（水）10：00～17：00 獨協大学

- ①図書館業務について意見交換
- ②獨協大学図書館見学
- ③グループ研究

**12月例会**：12月16日（木）10：00～17：00 国立音楽大学

- ①「音楽大学の附属図書館とは」  
国立音楽大学附属図書館主任司書 松浦淳子氏
- ②国立音楽大学図書館見学
- ③グループ研究

**1月例会**：1月27日（木）10：00～17：00 成城大学

- ①「図書館システムのリプレイスについて」  
成城大学図書館運用課主任 伊藤則之氏
- ②成城大学図書館見学
- ③グループ研究

## 2) 刊行物及び事業

2008-2009 年度パブリック・サービス研究分科会活動報告書

#### 4. レファレンス研究分科会

代表者：鈴木 学（日本女子大学）

会員数：7名

会 員：井口 良子（國學院大學） 石山 光明（創価大学）  
小倉 宇思（武蔵大学） 黒田 真理（大正大学）  
鈴木 学（日本女子大学） 中田 真美子（専修大学）  
原田 暁（東洋大学）

年会費：1,000円

例会開催回数：11回（内訳：月例会10回，夏期研究合宿（集中研究会）1回）

延べ参加者数：74名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/reference/>

#### 活動

##### 1) 基本テーマ

各会員の所属する図書館の状況（図書館サービスの体制，レファレンス業務の状況など）について情報交換することから各会員間の相互理解を深めていき，事例研究，文献レビューなどを行う。その後，それぞれの興味や問題意識をできるだけ生かせるような全体の研究テーマを設定して，研究活動に力を入れる。

##### 2) 活動の概要

###### ○1年目の活動概要

2年度の期間中で，1年目は以下の活動を中心とする。

会員の基礎理解度を整える

研究課題を設定する

研究課題にとりくむ

###### ○月例会

月例会：毎月第2金曜日を原則として月例会を開催する

※8月・翌1月は休会とする

合 宿：2泊3日の日程で集中研究のための夏期研究合宿を開催する

会 場：月例会の会場は会員所属機関の施設を使用することを原則とする

###### ○夏期研究合宿：「プレゼン手法の研究：プレゼンテーション技術の強化に向けて」

利用者に提供する図書館資料が紙媒体からデジタル媒体資料，そして，契約データベースなどのオンライン情報資源，さらにはネット情報資源へと広がりを見せる中，利用者指導やガイダンスの内容もそれに沿って展開される必要がある。また特定トピックへのアプローチ手段として利用者に提供するパスファインダーにおいても，その内容へ反映するものとならざるを得ない。さらに，オンライン情報資源やネット情報資源へのアクセスは，紙媒体での提供という視点から離れる必要がある。

そのような視点から，利用者の理解・把握を効果的なものとするため，加えて視覚的効果も念頭に置きながら，ビジネスプレゼンテーションのテクニック

であるA4一枚さらにはディスプレイ画面でのプレゼンテーションモデルを導入し利用者指導やガイダンス，利用者独学のための利用案内，パスファインダーを設計しようという試みである。

課題図書として下記の2冊を取り上げて各自で分担・報告を行いながら議論・考察した。

・課題図書

- ①三木雄信著 『「A4一枚」仕事術』 東洋経済新報社 2007.11

A4一枚に収める内容にはどのようなものがあるのかを確認する。課題図書の構成は盛り込む内容ごとに章立てされているので，内容ごとに担当を割り振る。各自レジュメを作成して口頭での発表を行う。

- ②富田真司著 『A4・1枚究極の企画書：伝わる！通る！夢が叶う！』 宝島社 2007.08

具体的にA4一枚で盛り込まれた事例を実際に再現する。各自分担した事例のスライド作成を行いながら，作成のポイント，技術的な疑問点などを出し合い，問題点を共有する。実際のプレゼンテーションに当たっての改良点なども話し合う。

資料

1) 月例会テーマ [月日・会場・テーマ等]

○月例会開催について (2010年度：2010年4月～2011年3月)

開催日	会場機関 (キャンパス名等)
4月 13日	國學院大學 (渋谷)
5月 28日	武蔵大学 (江古田)
6月 11日	大正大学 (巣鴨)
7月 9日	専修大学 (生田)
9月 17日	創価大学 (八王子)
10月 8日	日本女子大学 (西生田)
11月 5日	東洋大学 (白山)
12月 10日	武蔵大学 (江古田)
2月 25日	日本女子大学 (目白)
3月 9日	國學院大學 (たまプラーザ)

○月例会研究テーマについて

・関連文献の読解

- ①事例研究として

具体的な事例研究として下記の文献を取り上げる。回答の導き方や参照する資料・ツールについて確認しながら，内容のさらなる展開が可能かを考察する。

4月～12月

浅野高史，かながわレファレンス探検隊著 『図書館のプロが教える「調べるコツ」－誰でも使えるレファレンス・サービス事例集－』

柏書房 2006.9

・文献研究

レファレンスに関連する理論的な文献を取り上げる。意見交換・質疑応答を行いながら、レファレンスに関する知識や考え方を整え研究活動の基盤を形成する。

5月～7月

齋藤泰則著 『利用者志向のレファレンスサービス：その原理と方法』  
勉誠出版 2009. 11（ネットワーク時代の図書館情報学）

11月～（2011年度継続）

『レファレンスサービス演習 ー改訂版ー』 樹村房 2004  
（新・図書館学シリーズ；5）

○今期のメインテーマの設定

月例会での課題文献を中心とした活動を進めながら、今期中心となる研究課題を設けた。さらに、取り組む具体的な課題と研究資料の探索にとり組みながら2011年度の研究活動を進めていく。

テーマ：「ネット資源の評価に向けた指針策定」の構築

インターネット上の情報を情報資源と見た場合、その信頼性を確認するためにどのような検証をすればよいのか検討する。

2）刊行物及び事業

○刊行物

・レファレンス研究分科会ニュース（月1回）

配布先：分科会会員，OBOG会員宛てに，メール添付文書にて配信  
※購読希望者のみ

内 容：事務連絡，前回例会の記録，次回例会のレジュメ，図書館  
見学記等。

○事業

・施設見学

月例会開催の他に，会員所属機関内の研究施設等の見学を行う

平成22年	4月13日	國學院大學図書館（渋谷）， 伝統文化リサーチセンター資料館
	5月28日	武蔵大学図書館
	6月11日	大正大学附属図書館
	7月 9日	専修大学図書館（生田）
	9月17日	創価大学図書館
	10月 8日	日本女子大学図書館（西生田）
	11月 5日	東洋大学附属図書館（白山）
平成23年	2月25日	日本女子大学図書館（目白），成瀬記念館
	3月 9日	國學院大學図書館（たまプラーザ）

以上



## 5. 理工学研究分科会

代表者：内山光子（日本大学）

会員数：3名（正会員：3名）

会 員：内山光子（日本大学）

平田さくら（明治大学）

伊藤親子（中央大学）

年会費：なし

例会開催回数：3回

延べ参加者数：8名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/rikogaku/>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

理工学系図書館における各種資料の研究と利用者サービス研究

#### 2) 活動の概要

- ・ 電子ジャーナルや各種データベースを中心にした理工系ガイダンスモデルについて、バージョンアップしたデータベースの内容修正を実施。
- ・ 学協会図書館のサービスや電子化の状況等の調査。
- ・ Web 環境下における理工系レファレンス資料の現状調査。
- ・ 夏期集中研究会を実施した。
- ・ 正会員が少数なため、メーリングリスト（以下ML）による活動を中心に行った。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

6月例会                  6月29日(火)  明治大学生田図書館  参加者3名

参加館現状紹介

今年度活動内容について検討

9月例会                  9月13日(月)  学協会図書館見学      参加者2名

（夏期集中研究会）

10:00～12:00  土木学会附属土木図書館

14:00～15:00  日本建築学会建築図書館

館内見学

学協会図書館の運営、電子化、情報公開等について担当者よりレクチャー有り

12月例会                12月10日(金)  日本大学理工学部図書館（船橋）  参加者3名

学協会図書館見学総括

交流会（研究会）報告

理工系レファレンス資料調査

#### 2) 刊行物及び事業

「理工学文献探索データベース Rikoo!」

<http://www.rikoo.jp/index.php>

## 6. 西洋古版本研究分科会

代表者：山岸拓郎（専修大学）

会員数：3名

会員：山岸拓郎（専修大学）

松谷有美子（清泉女子大学）

岡田勢一郎（共立女子大学）

年会費：1500円

例会開催回数：10回（夏期研究合宿含む）

延べ参加人数：45名

研究分科会ホームページ URL：[http://www.jaspul.org/e-kenkyu/early\\_p\\_book/](http://www.jaspul.org/e-kenkyu/early_p_book/)

### 活動

#### 1) 基本テーマ

①西洋古版本に関する書誌学的研究（書誌学的知識の習得も含む）

②図書館で西洋古典資料を扱う際に必要な知識の習得

#### 2) 活動の概要

西洋古版本に関する文献を読み基礎知識習得に努めるとともに、講演会や展示にも参加し理解を深めた。会員の所属機関が所蔵する西洋古版本を用いて資料整理の実践を行った。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

##### 4月例会

4月21日（水） 日本体育大学 参加者5名

①前年度からの引継ぎ

②役割分担

③図書館見学

##### 5月例会

5月26日（水） 専修大学 参加者3名

①代表者会議報告

②今年度の活動計画

③図書館見学

##### 6月例会

6月16日（水） 清泉女子大学 参加者3名

①合宿内容検討

②高野彰『洋書の話』輪読（第1章～第3章）

③図書館見学

##### 7月例会

7月13日（火） 共立女子大学 参加者4名

①合宿内容検討

②高野彰『洋書の話』輪読（第4章～第9章）

③図書館見学

## 8 月夏期合宿

8 月 3 日（火）～4 日（水） 国立女性教育会館 参加者 8 名

- ①印刷博物館(飯田橋)見学
- ②A・エズデイル『西洋の書物：エズデイルの書誌学概説』（高野彰訳、雄松堂書店、1972）輪読
- ③今後の分科会運営について検討

## 9 月例会

9 月 28 日（火） 明治大学 参加者 4 名

- ①企画展示「図書の文化史」を見学
- ②図書館運営状況等調査
- ③図書館見学

## 10 月例会

10 月 21 日（木） 専修大学 参加者 3 名

- ①研究会報告内容の検討
- ②資料整理実習

## 11 月例会

11 月 17 日（水） 雄松堂書店本社 参加者 3 名

- ①雪嶋宏一氏「新版『知の系譜』を刊行して」聴講
- ②アンティーク・ブックフェア見学

## 12 月例会

12 月 10 日（金） 清泉女子大学 参加者 6 名

- ①加藤好郎氏「グーテンベルク聖書と大学図書館経営」聴講
- ②資料整理実習

## 1 月例会

1 月 28 日（金） 共立女子大学 参加者 6 名

- ①古書店と大学における図書購入の現状等について懇談
- ②高野彰「扉を開けるピンソン (1)」(『跡見学園女子大学文学部紀要』第 45 号、2010) により 15～16 世紀の印刷物の扉ページについて学習

## 2) 刊行物及び事業

なし

## 7. 和漢古典籍研究分科会

代表者： 鶴田香織（大東文化大学）

会員数： 8校8名 + 講師1名

会 員： 鶴田 香織 （大東文化大学）  
飯泉 慎也 （専修大学）  
植苗 翔 （中央大学）  
高浜みのり （獨協大学）  
高橋良政講師（日本大学）

生田 陽子（学習院女子大学）

井形恵美子（駒澤大学）

佐藤 ゆう（大正大学）

長谷川美樹（文教大学）

年会費： 2,000 円

例会開催日数： 11 回（夏期集中研究会を含む）

延べ参加者数： 103 名

研究分科会ホームページURL： <http://www.jaspul.org/e-kenkyu/kotenseki/index.html>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

日本・朝鮮・中国で刊行された和漢古典籍についての書誌学的研究を通じて、大学図書館員としての知識を深め、目録作成等の技能の向上を図る。

#### 2) 活動の概要

- ・古典籍・書誌学について知識を得るため、基礎的文献をテキストとして書誌用語発表。  
今年度テキスト： 廣庭基介，長友千代治著『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社，1998
- ・会場校所蔵の古典籍について、実際に調書を作成してみる。適宜講師の批評・指導を受けた。
- ・会場校の図書館、特に和本・漢籍の見学をし、各大学の装備方法・保存方法について見聞を広めた。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

第1回：2010年4月16日（金） 於中央大学図書館・参加10名

- ①会員自己紹介。2010年度運営担当者の決定、会計引継ぎ等
- ②今年度活動方針・スケジュールの策定
- ③講師より調書の記入について講義

第2回：2010年5月14日（金） 於大東文化大学図書館・参加8名

- ①テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』を用いて書誌用語発表
- ②会場校図書館見学
- ③調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第3回：2010年6月11日（金） 於駒澤大学図書館・参加9名

- ①夏期研究合宿の日程・内容の検討
- ②テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』を用いて書誌用語発表
- ③会場校図書館見学
- ④会場校所蔵貴重書閲覧（朝鮮本）
- ⑤調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第4回：2010年7月16日（金） 於専修大学図書館・参加9名

- ①夏期集中研究会の日程・内容の検討
- ②テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』を用いて書誌用語発表

③調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

④会場校図書館見学及び夏の企画展見学

夏期集中研究会第1回：2010年8月26日(木)

於東京都立中央図書館及び駒澤大学図書館・参加8名

①東京都立中央図書館特別文庫見学

②東京都立中央図書館にて裏打作業見学

(講師：東京都立中央図書館資料保全室 真野節雄氏)

③駒澤大学図書館にて和装本補修実習

(講師：東京都立中央図書館資料保全室 真野節雄氏)

夏期集中研究会第2回：2010年9月9日(木)～10日(金)

於専修大学図書館・参加9日8名、10日9名

①調書作成・NACSIS-CAT用フォーマット用紙に転記

会場校所蔵漢籍より各々が調書を作成し、講師より指導を受けた。その後、各々でNACSIS-CAT用フォーマット用紙に転記。

②NACSIS-CAT用フォーマット用紙転記時の疑問点検討。

第5回：2010年10月22日(金) 於学習院女子大学図書館・参加9名

①テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』を用いて書誌用語発表

②調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

③会場校図書館及び[絵巻・奈良絵本]抄展見学

第6回：2010年11月19日(金) 於中央大学図書館・参加8名

①斯道文庫書誌学展見学について検討

②テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』を用いて書誌用語発表

③会場校図書館見学

④調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第7回：2010年12月2日(金)

於立正大学情報メディアセンター及び慶応義塾大学斯道文庫・参加9名

①立正大学今昔蔵書選見学

②慶応義塾大学斯道文庫書誌学展見学

第8回：2010年12月17日(金) 於大正大学図書館・参加8名

①報告大会研究テーマについて検討

②テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』を用いて書誌用語発表

③会場校図書館見学

④調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

第9回：2011年1月21日(金) 於獨協大学図書館・参加8名

①来年度会場校持ち回りスケジュール決定

②テキスト『日本書誌学を学ぶ人のために』を用いて書誌用語発表

③会場校図書館見学

④調書作成。会場校所蔵の古典籍より各々が作成。講師より指導を受ける。

## 2) 刊行物及び事業

なし

## 8. 情報リテラシー教育研究分科会

代表者：林 真紀（東京都市大学）

会員数：4名

会 員：伊藤 史織（大正大学）  
今井 智子（文化女子大学）  
斉藤 稚穂（東京薬科大学）

年会費：1,000 円

例会開催回数：11 回

延べ参加者数：45 名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/joholite/index.html>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

参加各校の情報リテラシー教育の向上。

#### 2) 活動の概要

参加各校の「情報リテラシー教育」について、情報交換を踏まえ、現状分析・資料の改善（または新規作成）を1校ずつ行い、4校全てのリテラシー教育の向上を目指す。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

##### 第1回月例会

開催日：2010年4月19日（月）

会 場：横浜商科大学

テーマ：①第4期、第5期メンバーの自己紹介

②代表者・各業務担当者の選出

③各業務の引継ぎ

④意見交換

⑤横浜商科大学図書館見学

##### 第2回月例会

開催日：2010年5月26日（水）

会 場：東京都市大学（世田谷キャンパス）

テーマ：①連絡事項等確認（第1回運営委員・研究分科会代表者合同会議の内容伝達）

②今年度の活動内容の確認（概要、スケジュール、夏季集中研修、予算）

③今年度の月例会の開催について

④その他（メーリングリストの不具合について）

⑤東京都市大学世田谷キャンパス図書館見学

##### 第3回月例会

開催日：2010年6月24日（金）

会 場：東京薬科大学

テーマ：①連絡事項等確認（8月月例会の開催日決定）

- ②各校の情報リテラシー教育の現状分析（東京薬科大学）  
発表・意見交換および改善案の検討
- ③東京薬科大学図書館見学

#### 第4回月例会

- 開催日：2010年7月23日（金）
- 会場：大正大学（巣鴨キャンパス）
- テーマ：①連絡事項等確認（9月月例会の開催日決定）  
②各校の情報リテラシー教育の現状分析（大正大学）  
発表・意見交換および改善案の検討  
③大正大学附属図書館見学

#### 第5回月例会

- 開催日：2010年8月27日（金）
- 会場：文化女子大学図書館
- テーマ：①連絡事項等確認（10月月例会の開催日決定）  
②各校の情報リテラシー教育の現状分析（文化女子大学）  
発表・意見交換および改善案の検討  
③文化女子大学図書館見学

#### 第6回月例会

- 開催日：2010年9月17日（金）
- 会場：東京都市大学（世田谷キャンパス）
- テーマ：①連絡事項等確認（11月月例会の開催日決定他）  
②各校の情報リテラシー教育の現状分析（東京都市大学）  
発表・意見交換および改善案の検討  
③東京都市大学世田谷キャンパス図書館見学

#### 第7回月例会

- 開催日：2010年10月22日（金）
- 会場：東京薬科大学
- テーマ：①連絡事項等確認（12月月例会の開催日決定他）  
②11月の研究会(交流会)の発表準備
  - ・ 前期の活動内容の反省/後期の活動内容の確認
  - ・ 発表用資料作成- ③東京薬科大学図書館見学

#### 第8回月例会

- 開催日：2010年11月29日（金）
- 会場：東京薬科大学
- テーマ：①連絡事項等確認（1月月例会の開催候補日決定他）  
②情報リテラシー教育に関する文献調査および研修内容の発表  
③次回までの課題の検討

#### 第9回月例会

- 開催日：2010年12月17日（金）
- 会場：大正大学（巣鴨キャンパス）

- テーマ：①連絡事項等確認（2 月月例会の開催日決定他）  
②文献輪読発表および意見交換  
③今後の取り組みについての検討

#### 第 10 回月例会

- 開催日：2011 年 1 月 21 日（金）  
会 場：文化女子大学  
テーマ：①文化女子大学図書館貴重書見学  
②連絡事項等確認（年会費等の精算について他）  
③事前取り組み課題についての意見交換と来年度の活動の検討

#### 第 11 回月例会

- 開催日：2011 年 2 月 17 日（木）  
会 場：東京都市大学（世田谷キャンパス）  
テーマ：①連絡事項等確認（2010 年度活動報告について他）  
②「情報リテラシー教育担当者用基本知識チェック票」（仮名）  
及び「情報リテラシー能力習得チェック票」（仮名）作成の検討

## 2) 刊行物及び事業

特になし。



## 9. Lラーニング学習支援システム研究分科会

代表者：小田切夕子（麻布大学）

会員数：2校2名

会 員：小田切夕子（麻布大学）

金子和代（早稲田大学）

年会費：0円

例会開催回数：5回

延べ参加者数：10名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/l1s/>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

大学図書館員の自己点検、自己評価、自己研鑽を目的とした学習支援システムの構築並びに評価、分析

#### 2) 活動の概要

「大学図書館員のためのリポジトリ」の運用並びにコンテンツ収集について検討し、他の研究分科会へのコンテンツ提供の呼びかけを開始した。また、今後このリポジトリを図書館員のための問題発見と課題解決に役立つ学習支援システムとし機能させるために、その基礎研究としてPBL(Problem-based learningあるいはProject-based learning)に関する文献調査を行っている。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

##### 第1回例会

2010年5月18日（火）14:00-17:00 早稲田大学中央図書館

1.事務連絡 2.引き継ぎ 3.今期の課題検討

##### 第2回例会

2010年7月6日（火）14:00-17:00 東京都立中央図書館

1.事務連絡 2.図書館見学 3.今後の活動について

##### 第3回例会

2010年11月24日（水）10:00-17:30 パシフィコ横浜

1.事務連絡 2.図書館総合展見学 3.図書館総合展フォーラム参加 4.意見交換

##### 第4回例会

2010年12月9日（木）13:00-17:30 東京農業大学図書館

1.事務連絡 2.逐次刊行物研究分科会へのリポジトリ・コンテンツ提供依頼 3.講演参加

##### 第5回例会

2011年3月3日（木）14:00-19:00 早稲田大学中央図書館

1.事務連絡 2.2010年度活動報告及び会計報告について 3.2011年度の活動について  
4.図書館見学

#### 2) 刊行物及び事業

【TakaQによるLラーニング】

<http://www.l-learning.jp/takaq/>

【Xoops による L ラーニング】

<http://www.l-learning.jp/xoops/>

【Moodle による L ラーニング】

<http://www.l-learning.jp/moodle/>

【携帯電話による L ラーニング】

<http://l-learning.jp/i/>

【大学図書館員のためのリポジトリ】

<http://www.l-learning.jp/xoonips/>

## 10. 研修分科会

代表者：宮川 良男（研究部担当理事校：東京理科大学）

会員数：19 名

会 員：椎名 由美（青山学院大学）	西村 香（青山学院大学）
江連 昭雄（跡見学園女子大学）	吉崎 彩子（学習院大学）
田中 典子（関東学院大学）	角脇 光洋（共立女子大学）
吉田 昌代（國學院大學）	松下 賢（駒澤大学）
鈴木 正宣（創価大学）	吉田 美帆（大東文化大学）
佐々木千穂（帝京大学）	小野 朋昭（東海大学）
金井 裕之（東海大学）	鎌田 美樹（東京歯科大学）
小林 愛（東京理科大学）	宮尾香奈子（立教大学）
太田 優未（立正大学）	金子 千景（麗澤大学）
森永 瑞穂（和光大学）	

年会費：5,000 円

開催回数：6 回

延べ参加者数：103 名

研究分科会ホームページURL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/el-ken-b/>

### 活動

#### 1) 基本テーマ

発展し続ける情報化社会の中で大学図書館職員にとって必須の基本的知識を実態に即した技術として習得することをテーマに、既存の研究分科会参加の準備機能を持つ場として 2009 年度に新設された。

研修内容と目的概略

- ① 大学の中で、図書館員の役割を理解できるようにする。
- ② 利用者に必要な情報を組織的かつ迅速に対応できるようにする。
- ③ 情報化社会の最新情報に到達し実務に反映できるようにする。

#### 2) 活動の概要

分科会運営は研究部の管理のもと、NP0 法人大学図書館支援機構に企画・運営を委託して行う。各回とも、テーマに基づいた、事前学習・講演・グループ討議・発表等を実施する。

会場は、各回とも私立大学図書館等を利用し、夏季に国公立図書館等の見学を実施する。活動期間は 1 年間。

### 資料

#### 1) 月例会テーマ

第 1 回 2010 年 6 月 4 日（金）明治大学（駿河台）

テーマ：オンラインレファレンスは可能か

講演：オンラインレファレンスを考える

（明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務室：中林 雅士氏）

事前課題：所属図書館でのオンラインサービス実施状況調査

第 2 回 2010 年 7 月 9 日（金）東京理科大学（神楽坂）

テーマ：アウトソーシングの基礎知識

講 演：受託の視点から見た目録業務マネジメント  
(丸善株式会社 教育・学術事業本部 学術情報ソリューション事業部  
ネットソリューションセンター ライブラリー営業部：長澤 正樹氏)  
事前課題：所属図書館でのアウトソーシング実施状況調査

第3回 2010年8月31日(火) 夏季見学ツアー

見学先：国立国会図書館  
内容：国立図書館としての機能・国会図書館としての機能等  
国立情報学研究所  
内容：学術情報流通基盤整備および学術系コンテンツ等  
千代田図書館  
内容：コンシェルジュと地域連携および指定管理者制度等

第4回 2010年10月1日(金) 早稲田大学(早稲田)

テーマ：情報リテラシー教育  
講 演：FD活動と協働できる情報リテラシー教育を考える  
ー真の学習支援を構築するためにー  
(同志社大学 企画部企画室 井上 真琴氏)  
事前課題：1. 所属大学での初年次教育該当授業および図書館関与授業の状況調査  
2. 文部科学省 学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)  
2008年04月10日 を読み、大学教育における大学図書館の役割に  
ついて思うことを100字程度にまとめる。

第5回 2010年10月29日(金) 青山学院大学(青山)

テーマ：電子化時代の大学図書館  
講 演：Google booksについて  
(Google社：佐藤 陽一氏)  
事前課題：参考文献事前精読(CiNii内PDF論文7編)

第6回 2010年12月17日(金) 東京理科大学(神楽坂)

テーマ：目録世界の動向  
講 演：目録そしてOCLCの役割  
(株式会社紀伊国屋書店：新元 公寛氏)  
事前課題：1. 各検索システム別の結果比較  
2. 90秒スピーチ原稿作成  
1年間の研修分科会の感想①具体的に実際の業務でどう活かすか  
②これからの大学図書館をどう変えていくかの視点を必ず盛り込  
んだ内容とする。

2) 刊行物及び事業

なし

## 《研究分科会刊行物一覧》

分科 会名	分 類 研究分科会	逐 次 刊 行 物 研究分科会	パブリック・サービス 研究分科会	レファレンス 研究分科会
書名 又は 誌名	なし	なし	パブリック・サービス 研究分科会活動報告 書	レファレンス研究分科会ニュー ース
刊行 頻度		隔年 1 回（各期で 1 回） *2008/2009 年度は未刊行	隔年 1 回（各期で 1 回）	月 1 回
価 格		2,000 円	無料	無料
発行 部数		200 部	50 部	
配布 対象 ・ 頒布 方法 ・ 在庫		継続購読（大学図書館等） 約 100 部。 （代金支払は銀行口座振 込） 会員や当該号執筆者へは無 料で頒布。 在庫は数十部。 57 号より一部について分 科会 HP 上で公開。 バックナンバーを、DVD に て継続購読先に配布予定。	分科会会員、分科会会 員所属機関などに配 布。 在庫は僅少。	分科会会員、OB・OG 会員（購 読希望者）宛てに、メール添 付文書にて配信。
発 行 目 的 ・ 主 な 内 容		逐次刊行物にかかわる研究 の公表および分科会の活動 報告。 会員の研究発表や講演録、 分科会活動の概要報告等。	分科会の研究発表お よび活動報告。	事務連絡、前回例会の記録、 次回例会のレジュメ、図書館 見学記等。
コメ ント ・ 今後 の 刊行 予定		逐次刊行物研究分科会 HP にて、第 57 号より一部公 開、第 59 号（最新号）は 全文公開。 第 60 号以降の刊行および HP での公開については検 討中。		

理工学 研究分科会	西洋古版本 研究分科会	和漢古典籍 研究分科会	情報リテラシー教育 研究分科会	ラーニング学習 支援システム 研究分科会	研修分科会
なし	なし	なし	なし	なし	なし

## 《2010 年度研究分科会月例会について（報告）》

研究部担当理事校 東京理科大学図書館  
月例会担当理事校 関東学院大学図書館

【2009 年度 4 月から担当】

【2009 年度 4 月から担当】

### 1. 月例会・夏期研究合宿開催状況

研究分科会名称	月例会 開催数	夏期合宿(集中研究会) 開催期間
分類研究分科会	10	9 月 8 日～9 月 10 日
逐次刊行物研究分科会	10	8 月 23 日～8 月 25 日
パブリック・サービス研究分科会	9	9 月 8 日～9 月 10 日
レファレンス研究分科会	11	8 月 2 日～8 月 4 日
理工学研究分科会	3(*1)	9 月 13 日
西洋古版本研究分科会	10	8 月 3 日～8 月 4 日
和漢古典籍研究分科会	11	8 月 26 日、9 月 9 日～9 月 10 日
情報リテラシー教育研究分科会	11	実施せず
ラーニング学習支援システム 研究分科会	5	実施せず

(\*1)月例会以外に、メーリングリストでも活動

夏期合宿・集中研究会（夏期合宿 5、集中研究会 2、実施せず 2）

### 2. 2010 年度中の動き

本年度は 2 年周期で活動する研究分科会の初年度にあたり、新規の会員募集が行われたが、1 年周期の研修分科会を除いた会員数では、2009 年度末の会員数と同数程度での活動開始となった。ただし、前期中の退会者分が回復しなかったため、2008 年度開始時の会員数に比べると、減少してしまっている。1 年周期の研修分科会についても、2010 年度は 2 期目の活動となったが、第 1 期に対して募集者数は減少している。

また、2010 年度の募集では、図書館運営戦略研究分科会の応募会員数が少なかったため休会することとなり、2008-2009 年度より 1 分科会少ない中での活動開始となった。

月例会開催数については、3 月 11 日の東日本大震災による影響で 3 月後半に予定されていた例会が中止されたことに伴い、一部の分科会で 2010 年度の月例会開催数が減少している。

### 3. 今後の課題

活動開始 1 年目ということもあってか、会員の異動は少なく、入会 1 名、退会 2 名となった。前期活動 2 年目となった 2009 年度の初めに退会者が集中したことにと比べると、2011 年 3 月に入ってから退会者 2 名は少ないと言える。5 月以降に異動を実施する大学も増えていることから早計な判断はできないが、2 年間という活動期間に対して、会員の、安定した継続参加を望みたい。

研修分科会を除く 9 研究分科会の会員数を見ていくと、4 月 1 日現在で、4 分科会で会員数が 2～3 名と少人数での活動となっている。残りの 5 分科会でも、正会員数が 10 名を超えているのはわずか 1 分科会に留まっている。各分科会の会員数を増加させ、継続的な分科会活動の基盤を確保することが緊急の課題となっている。

## 《2011 年度研修分科会会員の更新結果（報告）》

研究部担当理事校 東京理科大学図書館  
研究分科会更新担当理事校 跡見学園女子大学図書館

### 1. 研究分科会休会、廃会状況

- ①図書館運営戦略研究分科会は 2010/2011 年度休会（2010 年 4 月 13 日第 1 回研究部運営委員会承認）
- ②相互協力研究分科会は廃会（2010 年 5 月 21 日第 2 回研究部運営委員会承認）
- ③企画広報研究分科会は 2010/2011 年度休会（2010 年 5 月 21 日第 2 回研究部運営委員会承認）

### 2. 2011 年度研修分科会会員募集経過

2010 年

12 月 10 日（金）第 7 回運営委員会

2011 年度研修分科会の募集スケジュール、1 月送付予定の募集文書等について説明。審議の結果、募集文書、募集要項および参加申込書を一部変更の上、承認。

2011 年

1 月 13 日（木）

加盟大学図書館長宛「2011 年研修分科会会員募集の案内について(お願い)」(申込締切 2 月 18 日) 東地区部会 HP に「募集案内」「会員募集要項」および「参加申込書」を掲載。

3 月 11 日（金）第 8 回運営委員会

研修分科会参加者の決定（18 大学 19 名）。追加募集文案を審議の上、承認。

3 月 15 日（火）

参加申込者の加盟大学図書館長宛に「2011 年度研究分科会会員の決定について(通知)」を郵送。

3 月 18 日（金）

加盟大学図書館長宛「2011 年研修分科会会員追加募集の案内について(お願い)」(申込締切 4 月 20 日)、東地区部会 HP に「募集案内」「会員募集要項」および「参加申込書」を掲載。

4 月 20 日（水）

追加募集に対し 8 大学より 9 名の申込みあり。追加募集結果を 2011 年度～2012 年度研究部担当理事校、研究分科会更新担当理事校へ連絡。

### 3. 今後の課題

2009 年度に新設された研究分科会は初年度、募集定員 28 名を満たしたが、2010 年度は定員枠 32 名に対し 19 名となり参加者数が減少した。2010 年度には研究分科会の更新と研修分科会の募集が重複したため、研修分科会も研究分科会と同じ書式の募集案内で呼びかけたが、既存の研究分科会の陰に隠れてしまったのか参加者数が伸び悩んだ。この結果を踏まえ、今後、研究分科会更新と研修分科会募集が重なる年度は募集案内を統一することなく、別々の募集文書を作成することを運営委員会で確認した。2011 年度は 4 月人事異動による参加申込みを視野に入れ、1 月の募集に続き 3 月にも追加募集文書発送（締切日 4 月 20 日）および HP 上の案内を行った結果、さらに 9 名の申込みがあり参加者数は合計 28 名となった。研修分科会は業務暦 5 年以内の初任者研修を条件としているが、異動により図書館に戻ってきた参加者も少なくない。電子化による図書館業務環境の急速な変化により、図書館員は専門的知識を習得しなければならないが、雇用形態の多様化は業務遂行に必要な知識を職員間で共有することを難しくしているのかもしれない。研修分科会は初任者研修とともに再研修を考える時期に入り始めているのではないだろうか。経験年数にかかわらず参加でき、学び合える場としての研修分科会であるよう、研究部には柔軟な分科会運営を期待したい。



## 《研究講演会》

### 私立大学図書館協会 2010 年度東地区部会研究講演会

日 時：2010 年 6 月 11 日（金） 13：45～16：45

会 場：明星大学 大学会館 3 階会議室

参加者：233 名

受 付 13：00～

1. 開会の辞 13：45～

司会者（研究部運営委員） 東京農業大学 伊藤 富士子

2. 挨拶

研究部担当理事校 東京理科大学図書館長 金子 堅司

3. テーマ

大学図書館の将来について

（1）講演 「研究者の情報行動と学術情報流通の現況と将来：

図書館としてどう考えるのか」 14：00～15：00

慶應義塾大学文学部教授 倉田 敬子

質疑応答 15：00～15：15

<休 憩> 15：15～15：30

（2）講演 「研究者・学生・大学にとっての 10 年後の大学図書館とは」

15：30～16：30

千葉大学文学部教授 土屋 俊

質疑応答 16：30～16：45

4. 閉 会

※講演のレジメは、「私立大学図書館協会会報」136号に掲載予定。

## 《研究会(交流会)》

### 2010 年度研究会(交流会)

日 時：2010 年 11 月 12 日（金） 15：00～17：30

会 場：慶應義塾大学三田キャンパス 東館 8 階 ホール

参加者：56 大学 91 名

受 付 14：30～

1. 開会の辞 15：00～

司会者（研究部運営委員） 青山学院大学 伊藤 義裕

2. 挨拶

研究部担当理事校 東京理科大学図書館長 金子 堅司

3. (1) 講 義 15：05～16：05

・演 題：「アメリカにおける大学図書館のマクドナルド化と飲食対応」

・講 師：東京農業大学学術情報課程 教授 中野 捷三

(2) 研究分科会活動中間報告 16：30～17：25

10 研究分科会 各 5 分

①分類 ②逐次刊行物 ③パブリック・サービス ④レファレンス

⑤理工学 ⑥西洋古版本 ⑦和漢古典籍 ⑧情報リテラシー教育

⑨ラーニング学習支援システム ⑩研修

閉 会 17：30

意見交換会 17：40～19：00

会 場：慶應義塾大学 北館 ファカルティクラブ

※講演のレジメは、「私立大学図書館協会会報」136号に掲載予定。

## 2010年度研修会

日時： 2010年11月4日（木）～11月5日（金）

会場： 慶應義塾大学三田キャンパス

参加者：74大学 76名

テーマ：本の歴史、本の未来 ―電子書籍時代を迎えて―

### 《開催趣旨》

図書館を取り巻く状況は日々変化をしています。日常業務への対応に追われる図書館員が少しでも自らを見直す機会を設けることができればと考え、図書館において不変の部分、すなわち、本の歴史をテーマとしました。KindleやiPadが日本でも販売され、今後の本についても変化が予想されるということで本の未来についてもとりました。今回の研修会では、和洋漢の古典籍、新しい書籍や出版事情について学んでいただきたいと思います。

今後、本の未来はどうなっていくのか、電子書籍時代を迎えて図書館ではどのように対応してゆけばよいのかを考えるうえで、お役に立てれば幸いです。

研修会のご参加にあたり、他大学の図書館員の方と交流するなど、積極的に参加していただきたいと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。

### 《プログラム》

第1日 11月4日（木）

- |                              |             |
|------------------------------|-------------|
| * 受付                         | 9:45～10:15  |
| * 挨拶・オリエンテーション               | 10:15～10:30 |
| 会場担当校挨拶 慶應義塾大学メディアセンター所長     | 田村 俊作氏      |
| 研修委員長挨拶 中央大学事務部担当課長          | 伊原 千秋       |
| * 基調講演： 「科学史と書物」             | 10:30～12:00 |
| 慶應義塾大学文学部教授                  | 西脇 与作氏      |
| 〈昼休み〉 ※「三田文学」創刊100年展・図書館見学自由 | 12:00～13:30 |
| * 講演： 「江戸時代の読本について」          | 13:30～15:00 |
| 国文学研究資料館研究部・教授               | 大高 洋司氏      |
| 〈休憩〉                         | 15:00～15:30 |
| * 講演： 「漢籍 一目録と版本」            | 15:30～17:00 |
| 二松学舎大学文学部教授                  | 高山 節也氏      |
| * 懇親会： 会場：慶應義塾大学三田キャンパス      | 17:30～19:00 |
| 「ファカルティクラブ」                  |             |

第2日 11月5日(金)

\* 講 演: 「大学図書館とインキュナブラ」 10:00~11:30  
早稲田大学教育・総合科学学術院准教授 雪嶋 宏一氏

〈昼休み〉 ※「三田文学」創刊100年展・図書館見学自由 11:30~13:00

\* 講 演: 「『紙の本』の未来をめぐって」 13:00~14:30  
文芸批評家 前田 壘氏

〈休憩〉 14:30~15:00

\* 講 演: 「電子書籍と学術出版」 15:00~16:30  
東京電機大学出版局・局長 植村 八潮氏

\* まとめとアンケート 16:30~17:00

## 科学史と書物—科学史の中での書物の変化（要約）

西脇 与作（慶應義塾大学）

知識を探究する学問はギリシャの哲学から始まり、科学革命によって台頭した経験科学に引き継がれ、20世紀に花開き、現在に至っている。写本から印刷本に変わることによって書物は一変するが、科学研究の歴史の中での書物の役割も変わってきた。書物の役割を書物が何について述べているかを通じて捉え、知識と情報の役割の変化を哲学的に眺めてみたい。[3]<sup>1</sup>

Knowledge, Information, Euclidean Geometry, Zeno's Paradox, Commentary, Experiment and Observation, Newton, Maxwell, Darwin, Mendel, Experiences, Shannon, Models

### 1 ギリシャの哲学、数学から

アリストテレスの哲学とユークリッドの幾何学を代表例にしてギリシャの学問と書物の関係を振り返っておこう。ユークリッドの『原論』はギリシャ数学の総決算と呼べるテキストで、聖書を除けば最も多く印刷され、学校で最も長く教えられ続けている科目（幾何学）である。『原論』の表現形式は現在の数学テキストの模範となったもので、合理的な知識のシステムを表現する典型として長く、広く君臨してきた。定理の証明という形によって数学の最もエッセンシャルな性質である演繹的な論証が見事に使われ、表現されている。『原論』はそのような形式だけでなく、内容についても後世の哲学者、数学者に計り知れない大きな影響を与えてきた。[4]

『原論』の最初に登場する定義の中の最初の定義、それは「点」の定義である。点についての問いによって、幾何学での点や線が物理世界の対象とは違って大きさや太さがないことを確認しておこう。だが、点にサイズがないこと、正にそのことゆえに点や線を使って物理世界を正確に描くことができ、運動変化を確実に表現するという役割を果たすことができるのである。原子論は世界についての大変エレガントな主張であり、そこでは物理世界の対象は不可分の原子からなるものと述べられている。点は原子を、線は原子の運動の軌跡を表現しているが、サイズの点であればこそ、サイズのある原子を表現でき、太さのない線であればこそ、運動の軌跡を表現できる。ここには数理と物理の不思議な符合がある。これが物理世界を数学的に考え、表し、理解することの肝心のところである。私たちはそのようなギリシャの以来の伝統にどっぷり浸かり、それを意識することさえほとんどない。[5, 6]

サイズの点  $0$  を有限個加えても  $0$  であるから、無限個加えても  $0$  のままだと考える（[解答 1]）か、無限個でも連続的に無限個加えれば  $0$  ではなくなると考える（[解答 2]）かは、無限に関する慎重な考察を必要とする。そして、その無限に直接関わるのが、次の例のゼノンのパラドクスである。[7, 8]

点を連続的に並べた線を分割していくと点に至ることができるかどうかをゼノンは問い、それが不可能なので運動そのものがあり得ないと結論し、師のパルメニデスの不変の哲学を擁護したと伝えられている。ゼノンの論証から形而上学と物理学の違いが浮き彫りになってくる。ゼノン

---

<sup>1</sup> 各節の最後にある  $[n, m, \dots]$  は  $n$  番目、 $m$  番目、…のパワーポイントの画面である。

は運動を否定するという大胆で無謀とも思える結論を出したが、運動を否定したのでは物理学そのものが消滅してしまう（なぜか？）ことから、パラドクスの近代的な解決として運動を否定するのではなく、運動の加算分割を否定することが選ばれた。ゼノンのパラドクスの解析学による解決は随分時代が下るが、そこにギリシャ哲学の合理的なだけの論証から物理的世界とその数学的表現を考慮した上での論証への移行を見て取ることができる。[9, 11, 12, 13]

## 2 註釈・註解から実験・観察へ：知識から情報へ

アリストテレスの哲学、特に形而上学についての研究が人文科学の伝統を生み出したと言ってもよい。その伝統の中での主な研究方法は「註釈」であり、現在でも哲学、社会科学、歴史科学、そして人文科学で普通に使われている方法である。「眼光紙背に徹す」、「行間を読む」という知り方は、現在でも疑問を抱かれることなく私たちの生活に沁み込んでいる。[14, 15, 16]

一方の数学は幾何学だけでなく数に関する研究も蓄積され、デカルトやニュートン、ライプニッツによって解析学がつくられ、物理世界の表現として積極的に使われ出す。その結果で上がる古典物理学は過度に数学的であり、その数学的理想化が古典的な世界観の特徴になってきた。[17, 18, 19, 20, 21]

学問研究の方法が註釈から実験・観察に変わることによってもたらされた変化にはどのようなものがあるのか。ニュートンのプリンキピアが単なる形而上学的な仮説でも、経験的事実の記載や羅列でもないことは、運動の法則と重力の法則を使ってケプラーの法則が演繹できる点からも明らかである。ケプラーは、ティコ・ブラーエの観測記録から、太陽に対する火星の運動を推定し、惑星の運動について3つの経験的な法則を定式化したが、ニュートンは、自分が発見した運動の法則と、このケプラーの法則などを元に重力の法則を導き出し、さらにそれを使ってケプラーの法則を導き出して見せた。自然の数学化と並んで、自然の記録、記載がまず裸眼で丹念に行われ、次に望遠鏡や顕微鏡によってその範囲が拡大される。そして、単に受動的に観察するだけでなく、能動的に研究対象に働きかける「実験」が導入され出す（とはいえ、大学で実験が行われることが制度として始まるのは1847年である）。実験装置は次第に精密化、大型化し、私たちが経験できる範囲を拡大し続けてきた。観察や実験が増えるに従い、それらを実行するためのマニュアルが必要となり、新しいタイプの知識、情報が生まれ、それが実験物理学と理論物理学といった研究の細分化、分業化につながった。[22, 23, 24]

註釈から実験・観察に研究方法が移行することによって、書物の果たしていた役割は実験や観察が代わって受けもつことになる。研究の中心が「読み考える」という経験から「見て調べる」という経験に変わっていく。註釈から実験や観察に研究方法が変わるにつれ、テキスト中心からデータ中心に、知識から情報の操作に研究活動の形態は変化していく。テキストは学校の教科書だけになり、書物はいつの間にか報告書と呼ぶ方が相応しいものになっていく。[25, 26]

知識と対比されるとき情報の特徴として、プラグマティックな知識の使用という側面が強調される場合が多い。認められたデータや事実についての論争はないが、それらを説明する理論となると論争が絶えない。「自然は書物」という比喩的な表現がよく使われるが、実は比喩ではなく、対象が表象され、文字で書かれ、記録され、記されることが（著者だけでなく読者にも）「わかる」ためには、自然は書物を読むごとくに解読されなければならない。その意味で、読書、観察、知

覚、実験は一種の情報処理モデルの具体例である。その一般的な図式は、

入力 → 情報処理 → 出力 <情報処理>  
問い → 表象、解法 → 解答 <問題解決>  
自然 → 知識、推論 → 理解 <自然理解>

と様々に考えることができる。自然という書物、聖書という書物も含んだ書物は、合理的、演繹的な科学から経験的な科学に変わる中で、報告、通知、記録といった情報伝達の媒体に変化して行く。表象とは（高次の）心的な表象であると考え、その表象を知識とみなすことができる。また、表象とは表象している対象のことであると考え、その表象を情報とみなすことができる。デカルトにとっての表象は心的表象以外の何ものでもなかったが、現在の表象主義（Representationalism）によれば、表象対象は外的な対象であると考えられている。テキストの彼岸にあるのは、読者が想像する、アイデアの世界や意識の世界ではなく、テキストの文や命題が指示する世界の出来事や状態である。これは、<知識から情報へ>、<人文主義から科学主義へ>、<啓蒙から実証へ>という風に様々に表現されてきた。[26, 27]

プラグマティックな知識（＝情報）は生活の中で待ったなしに使われるため、仕事の達成に「間に合う」情報でなければならない。表象という存在形態は次第に存在するようになるのではなく、絵や像のごとくに、すぐに見え、わかり、使え、遅れない形態である。文書を読むのと画面を見るのを比べてみれば、いずれが「間に合う」情報の形か明らかだろう。瞬時に表象し、迅速に使うことによって目的を達することができるのが情報であり、ギリシャ以来の哲学や科学が目指してきた知識とは相当に違っているように映る。

### 3 文献の周辺、背後への再訪：(1)～(5)

ここでの主題は文献の周辺、背後への再訪であり、文献の内容への再訪ではない。文献の内容は研究そのものの表現であるが、周辺や背後には文献とそれに関わる情報や知識が豊富に横たわっている。情報は確かにプラグマティックな知識であるが、情報と知識を単純に分けることは難しい。情報と知識はもつれ（Entanglement）の状態で存在し、二つの区別は文脈に依存するなどという中途半端なものではない。情報や知識を表現する命題を意識し特定化すると、その命題は情報か知識のいずれか一方になってしまう。意識していないときは情報とも知識とも言えない、いずれでもありうる仕方で存在している。ここでは情報と知識の関係に深入りはしないで、一つの命題があるときに知識、別のときに情報となることが始終起こるような関係が知識と情報の間にあり、私たちが意識しないとき、二つはもつれた状態にあると言ってもいいだろう。

情報の幾つかの特徴が「文献の背後」にあるが、それらは論証や註釈には存在しない経験的な側面を含んでいる。また、実験や観察を含む研究には論証部分と経験部分の総合された局面がしばしば登場する。合理論と経験論が対立するかのような歴史から、思考と経験の統合はあり得ないように見えるが、経験科学は統合の例なのではないか。

では、具体的に文献の背後に回って、知識と情報の様々なもつれを観てみよう。

(1) これはアイデアの優先権に関する事柄で、論証や註釈の場合でも起こる事柄である。現在か

ら見れば密室談合の典型であり、その結果が「自然選択による生物進化=ダーウィンの発案」といった図式が当たり前の表現として巷に溢れることである。現在ならば、重大なスキャンダルとみなされ、ダーウィンは抹殺されてしまうのではないか。[28, 29, 30]

- (2) これは知識や装置、特に数学的な装置の応用の例と見ることができる。確率・統計はギリシャ時代でも 18 世紀までのヨーロッパでも世界の現象や性質を表現するに値するような概念ではなかった。確率。統計概念は演繹中心の註釈には登場しないし、ニュートン力学を基礎に置く古典的世界観にも原理上登場しない。そのためか、最初に知識に絡んで使われたのは社会科学の領域だった。それがマクスウェルやボルツマンによって物理現象を扱う装置として転用された。物理現象の説明に確率・統計を使うことの正当性や妥当性は、その道具によって現象が説明できれば、それこそが証拠である、と考える検証（Confirmation）にある。現在ではあまねく使われている確率・統計という道具は最初社会科学で使われ、その応用として物理学に転用され、統計力学という物理学の新しい分野を生み出したのである。[31, 32, 33]

上述のことは、バイズ主義的（主観主義的）な確率解釈ではなく、客観主義的な解釈を物理学が採用したと言っているのではない。物理学が採用したのは確率論であって、その解釈ではない。

- (3) メンデルの「植物雑種の実験」は統計データとそのデータからの仮説、並びにデータを利用した仮説の検証からなり、当時とすれば大変斬新な論文だった。だが、このデータが余りにメンデルの法則に合い過ぎているのではないかと疑ったのがフィッシャーである。だが、彼はメンデルの遺伝理論を傷つけない形で、自らの結論を導き出し、エンドウ豆の実験データだけを批判した。データの捏造の疑いだけでは理論の反証（Falsification）には不十分であり、データと理論という関係はなかなか一筋縄ではいかない。[34, 35, 36]
- (4) 獲得形質の遺伝に関する理論、観察、実験は実に多い。獲得形質というアイデアをはっきり主張したのがラマルクで、それをはっきり否定するのがヴァイスマンだった。それにも関わらず、獲得形質を実験的に示そうとする試みは絶えることがなかった。中でも有名な実験はカンメラーとスティールのものであろう。実験動物の飼育のような実験者の才能に依存するものは再現することが困難であり、決定的実験の不足が付きものである。[37, 38, 39, 40, 41, 42]
- (5) これは最近有名になったスキャンダルである。悪意のある、意図的な情報操作によるスキャンダルである。このような情報操作の嘘を見破るには理論的知識と実験・観察のデータの両方が不可欠にある。ソーカルの論文は物理学的には誤っていても、その主張の無矛盾性だけを基準にしたのでは物理学の註釈として認められる可能性をもっていたのである。[43]

演繹科学	経験科学
人文主義	科学主義
知識	情報
色とは何か	これは何色か
テキスト	データ報告

\* 形而上学、演繹科学、そして確率・統計的な理論の弱点は、具体的なデータを得る個々の出来事や状態に注目して観察や測定をしないで、それらの本質や統計量を確定し、それを前提にして演繹的に説明しようとする。個別的な対象やデータの無視は形而上学にも確率・統計的理論にも共通している。平均や分散、分布や頻度は個別の事実を説明してくれないが、演繹的な結果も個別的なものを説明してくれない。それらは情報のない知識であり、新鮮な情報が供給されなければ新鮮な結論もない。



# 科学史と書物

知識・情報  
註釈・観測

慶應義塾大学 西脇与作

1

## 要旨 <科学史の中での書物の変化>

知識を探究する学問がギリシャの哲学から始まり、科学革命によって経験科学が台頭し、それが20世紀に花開き、現在に至っている。この科学の歴史の中で、**知識、情報、データ**を扱う書物のもつ役割も変わってきた。どのような役割の変化があったのかを哲学的に眺めてみたい。

2

## 基本語彙

	語彙
世界	Event, Fact (出来事、事象、事実、事態) State (状態) Data (データ) * 出来事は対象の組み合わせであり、対象は状態をもち、出来事や対象の状態の断片がデータである。
言語	Proposition, Statement, Sentence (命題、言明、文) Term, Noun (名辞、名詞) * 命題の内容は出来事であり、それを表現したのが言明で、文法上は文と分類される。命題は名辞の組み合わせからなり、対応する文は名詞の組み合わせである。
認識	Knowledge, Information * Know ↔ Inform: 知る、わかる ↔ 知らせる、伝える

3

## 知識と情報の類似構造

入力	処理	出力
刺激	処理	反応
問題	処理	解答
?	知識の追求	知る、わかる
A (sender)	情報の伝達	B (receiver)

4

## 知る(わかる)と知らせる(伝える)

### 知る、a priori

- Xを知る
- AがXを知る
- 知ること=知識
- 知らせること=情報
- X: 知識や情報の内容、データ

### 知らせる、a posteriori

- Xを知らせる
- AがXをBに知らせる
- BがXを知る
- BがXをAに知らせる
- AがXを知る
- Knowledge=statics of knowing
- Information=dynamics of knowing

5

## 知識と情報

アプリオリな**知識**、アポステリオリな**情報**?

- ギリシャの哲学
- 中世の神学
- 科学革命と経験科学
- 科学の理論、科学的な情報
- 説明や予測、観測や実験によるデータ
- 日常生活で使う知識や情報
- \* 知報

6

## 経験の役割

### ■ 経験の重視

知識の相対化、自然化、操作化  
知識の記号化、形式化、数学化

### ■ 表象、表現、表示、そして伝達

情報伝達の仕組み、装置  
情報の生成・保存と変形・消去

7

## Euclid's *Elements*

ユークリッドの  
『原論』

13巻からなるギリ  
シャ数学の集大成で  
紀元前300年頃の完成。

テキストの内容は演  
繹的な構成に特徴が  
あり、定義、公理、  
公準、定理からなっ  
ている。



A page from the first of more than a thousand editions of Euclid's *Elements* (Venice, 1482). Printing revolutionized the study of mathematics since it could mass-produce accurate calculations and diagrams.

8

## 『原論』の構成

- 定義、公理、公準
- 定理：演繹的な証明
- 数学テキストの標準



- 知識の典型としての幾何学
- ギリシャ数学の根幹となる幾何学

9

## Definitions, Axioms, and Postulates

### ■ Euclid's Definitions

**A point is that which has no parts.**

A line is that which has length without breadth.

The limits of a line are points.

A straight line is that which lies equally to the points on it.

A surface is that which has only length and breadth.

The limits of a surface are lines.

### ■ Euclid's Axioms

Things which are equal to the same thing are also equal to one another.

If equals be added to equals, the wholes are equal.

If equals be subtracted from equals, the remainders are equal.

Things which coincide with one another are equal to one another.

The whole is greater than the part.

### ■ Euclid's Postulates

A straight line can be drawn between any two points.

A finite line can be extended infinitely in both directions.

A circle can be drawn with any centre and any radius.

All right angles are equal to each other.

**Given a line and a point not on the line, only one line can be drawn through the point parallel to the line.**

10

点と線について次の問に答えなさい。

- 点には部分がなく、サイズがない。サイズがない点はどうして存在できるのか。
- 点が集まると線になるが、点をどのように集めると線になるのか。また、線をどのように集めると面ができるのか。
- 太さのない線で作られる三角形は存在できるのか。

11

## 解答

- [解答1]点には部分がなく、それゆえサイズがない。サイズのない点をいくら集めてもサイズが生まれるはずがない。サイズの生まれる原因や理由がどこにもないゆえ、「延長のないものから延長は生じない」、「何ものも理由なしに存在しない」といった形而上学の原理に従い、答えはNoである。
- [解答2]区間  $[0,1]$  が0と1の間にある個々の点(=実数)からできているように、実数の集合は個々の実数を要素に含んでいる。点から線ができ、線は点に分解できる。線は点の集合であり、点は線の要素である。面や空間についても同様で、それゆえ、答えはYesである。

12

## 幾何学と原子論

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 点 (point)</li> <li>■ 線 (line)</li> <li>■ 面</li> <li>■ 図形</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原子 (atom)</li> <li>■ 軌跡 (trajectory)</li> <li>■ 表面</li> <li>■ 物体</li> </ul> |
|--|--|

- サイズのない点でサイズのある原子を表現し、運動の軌跡を太さのない線で表現する。
- 幾何学の世界が物理世界と異なると定義しながら、物理世界の表現に幾何学を使う。

13

## 命題の種類についての復習

### 言語表現

#### 分析的な文

トートロジーと定義だけからいつでも真になる文

#### 総合的な文

分析的でない文

### 認識の仕方

#### アプリアリな知識

経験を必要とせずにその真偽がわかる文の内容

#### アポステリオリな知識

真偽に経験を必要とする文の内容

### 存在のあり方

#### 必然的な出来事

#### 偶然的な出来事

14

## ゼノンのパラドクス

- 仮定: 運動がある、
- 運動は限りなく分割可能である、
- アキレスはカメに追いつけない、
- だが、アキレスはカメを追い抜く、
- これは矛盾である、それゆえ、運動は存在しない、

というパラドクスの一般的な理解とは違って、運動を捉える分割陣書を直すために、

- 仮定: 運動は限りなく分割可能である、
- 運動がある、
- アキレスはカメに追いつけない、
- だが、アキレスはカメを追い抜く、
- これは矛盾である、それゆえ、運動は限りなく分割できない、

と考えてみよう。この論証の結論部分「運動は限りなく分割できない」はどのように解釈できるのか。「三角形の内角の和は180度である」の否定が「三角形の内角の和は180度より小さい」と「三角形の内角の和は180度より大きい」の二通りに分けられるように、二通りの解釈が出てくる。

15

## <ゼノンの論証の解釈>

### <論証の解釈: 古典版>

- 仮定: 運動は限りなく分割可能である。
- 運動がある。
- アキレスはカメに追いつけない。だが、アキレスはカメを追い抜く。これは矛盾である。
- それゆえ、運動は非可算個 (uncountable) 分割可能である。

### <論証の解釈: 非古典版>

- 仮定: 運動は限りなく分割可能である。
- 運動がある。
- アキレスはカメに追いつけない。だが、アキレスはカメを追い抜く。これは矛盾である。
- それゆえ、運動は有限個 (finite) 分割可能である。

16

## 形而上学と物理学の違い ゼノンのパラドクスから

### 形而上学 (ゼノンの解決)

- 否定される命題内容
- 運動それ自体

### 古典物理学

- 否定される命題内容
- 運動の加算分割

運動変化を否定する大胆な形而上学と、運動変化を研究対象とする物理学の運動を扱う扱い方の否定とを比較すれば、両者の違いが明瞭になる。

17

## アリストテレスの形而上学

### 三つの特徴

- 註釈 commentary
- 論証 argument
- 説明 explanation

\* 大きなシステムでも、説明できる事柄は僅かで、予測も覚えない。

- Meta-physics—Physica

H. Diels(ed.), 1882-1909, *Commentaria in Aristotelem Graeca*, Berlin: Reimer.

Sorabji, R., 2005, *The Philosophy of the Commentators 200-600 AD. A Sourcebook* (Volume 1: Psychology; Volume 2: Physics; Volume 3: Logic and Metaphysics), London, Ithaca, NY: Duckworth, Cornell University Press.

18

## 註釈

- 書物を通じた学問の在り方: 註釈
- テキスト中心
- 人文主義の伝統
- 「眼光紙背に徹す」「眼光紙背に透る」  
「行間を読む」 **read between the lines**  
(書を読むとき、字句を解釈するばかりでなく、行間にひそむ深い意味までよく理解することのたとえ)

19

## Simplicius (c. 490-c. 560 CE)

In his commentary on Aristotle's *Physics* Simplicius quotes at length from Eudemus's *History of Geometry* which is now lost.

Simplicius wrote a commentary on Euclid's *Elements* which survives in an Arabic translation. Simplicius attempted the proof of the parallel postulate.



Commentary on Aristotle's *De Caelo* by Simplicius. This is a 14th century manuscript.

20

**Ernst Bloch, *Vorlesungen zur Philosophie der Renaissance*, Suhrkamp, 1972.** (『ルネサンスの哲学』2005,白水社)

- 世界書物の解説: 自然という書物
- 「カンパネラは自然という書物の中に、彼の三つの基本原理を探し求め、その解説を試みた」(p.70)
- ブロッホはガレリオのうちに、この世界の解説の一つの極限をみいだす。ガレリオは、**自然という書物は数学で書かれているのであり、数学でなければ解説できないと指摘した。**

21

## Mathesis Universalis(普遍数学)

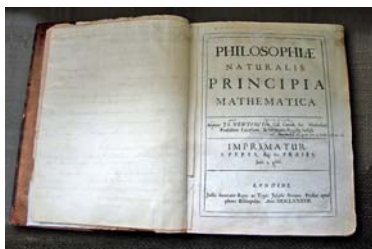


**Hypothetical universal science** modeled on mathematics envisaged by Descartes and Leibniz, a kind of a unified theory about nature

22

## ニュートン(1643-1727)の *Principia*

- 『自然哲学の数学的原理』  
(*Principia Mathematica Philosophiae Naturalis*)



Newton's own copy of his *Principia*, with hand-written corrections for the second edition

23

## 古典的世界観

- 実在論
- 機械論
- 決定論
- 合理論
- 経験論
- 因果論
- 客観的知識



24

## 数学的な知識

- Platonism
- 論理主義
- 形式主義
- 直観主義

David Hilbert (1862-1943)



- 公理系、形式系、記号系
- 形式主義とプラトン主義の数学理論の解釈

25

## 世界の数学化

- 単位の設定
- 測定、数量化
- ユークリッド幾何学、デカルトの解析幾何学
- 解析学、確率論、統計学

点と線：粒子と運動

集団：分布と頻度

26

## 註釈から観察・実験へ



27

## 実験・観測

- 註釈の際の経験と実験や観測の経験
- 註釈するテキストと自然の中のデータ
- 正確な実験・観測：測度と測定
- 科学主義、実証主義、経験主義、プラグマティズム、道具主義

28

## 役割の変更

- 書物の役割：主役の研究対象から記録・報告の一手段へ
- 実験・観察の役割：脇役、道具から主役、研究の要へ
- 書物という窓を通じて考えられる世界
- 圧縮された経験を通じて観られる世界

29

## 書物と経験

- 読む経験、あるいは「経験を読む」
- 書く経験、あるいは「経験を書く」
- 他人の経験を読む
- 自分の経験を書く(記す)
- 他人の知識・情報を読む(知る)
- 自分の知識・情報を書く(伝える)
- \* 他人の経験を知る、自分の経験を感じる

30



## 演繹と経験

### 人文科学

- 存在する対象を演繹する
- 本質を公理化する
- 演繹することが科学的な営み
- 経験はきっかけやヒント
- 書物、テキストこそ重要

### 自然科学

- 表現する技術としての演繹
- 公理を満たすなら何のものでよい
- 科学知識の表現としての演繹
- 演繹は表現技術
- 実験・観察こそが重要

31

## 文献の背後(1) Darwin and Wallace



DARWIN-WALLACE MEDAL  
1st July 1908

32

## DarwinとWallaceの考えはよく似ていた

- Darwin began formulating his theory of *natural selection* in the late 1830s, but he went on working quietly on it for twenty years. During those years he corresponded briefly with Wallace, who was exploring the wildlife of South America and Asia. Wallace supplied Darwin with birds for his studies and decided to seek Darwin's help in publishing his own ideas on evolution. He sent Darwin his theory in 1858, which, nearly replicated Darwin's own.

33

## Delicate arrangement

Charles Lyell and Joseph Dalton Hooker arranged for both Darwin's and Wallace's theories to be presented to a meeting of the Linnaean Society in 1858. Darwin had been working on a major book on evolution and used that to develop *On the Origins of Species*, which was published in 1859. Wallace, on the other hand, continued his travels and focused his study on the importance of biogeography.

34

## 文献の背後(2) Lambert A. J. Quetelet (1796-1874)

- a Belgian astronomer, mathematician, statistician and sociologist. He founded and directed the Brussels Observatory and was influential in *introducing statistical methods to the social sciences*.
- 平均的人間



35

## James Clerk Maxwell (1831-1879)

James Clerk Maxwell had been impressed by John Herschel's influential essay on Quetelet's work in the *Edinburgh Review* (1850). During the 1870s, Maxwell introduced his gas theory using analogies from social statistics. The first point, a crucial one, was that *statistical regularities of vast numbers of molecules were quite sufficient to derive thermodynamic laws relating the pressure, volume, and temperature in gases*.



気体分子運動論、統計力学

36

### Ludwig Eduard Boltzmann (1844–1906)

an Austrian physicist famous for his founding contributions in the fields of statistical mechanics and statistical thermodynamics. He was one of the most important advocates for atomic theory at a time when that scientific model was still highly controversial.



$S = k \log W$  (エントロピーの公式)

37

### 文献の背後(3) G. Mendel (1822–1884)

He gained posthumous fame as the figurehead of the new science of genetics for his study of the inheritance of certain traits in pea plants. Mendel showed that the inheritance of these traits follows particular laws. The significance of Mendel's work was not recognized until 1900.

MENDEL, G., 1866 Versuche über Pflanzen-Hybriden. Verh. Naturforsch. Ver. Brünn 4: 3–47 (first English translation in 1901, J. R. Hortic. Soc. 26: 1–32; reprinted in *Experiments in Plant Hybridization*. Harvard University Press, MA, 1967).



38

### Ronald Aylmer Fisher (1890–1962)

an English statistician, evolutionary biologist, eugenicist and geneticist. He was described by Anders Hald as "a genius who almost single-handedly created the foundations for modern statistical science," and Richard Dawkins described him as "the greatest of Darwin's successors".



39

### Mendel-Fisher Controversy

(理論に合わないデータ、合い過ぎるデータ)

In 1936 R.A. Fisher asked the question, "Has Mendel's Work Been Rediscovered?" The query was intended to open for discussion whether someone altered the data in Gregor Mendel's classic 1866 research report on the garden pea, "Experiments in Plant-Hybridization." Fisher concluded, that the statistical counts in Mendel's paper were doctored in order to create a better intuitive fit between Mendelian expected values and observed frequencies.

Fisher, R. A. (1936). 'Has Mendel's work been rediscovered?,' *Annals of Science* 1:115–137.

40

### 文献の背後(4) 獲得形質

Jean-Baptiste Pierre Antoine de Monet, Chevalier de la Marck (1744–1829), known as "Lamarck", was a French naturalist.



動物がその生活の中でよく使う器官は次第に発達する。逆に、使われなければ、次第に衰え、機能を失う。そこで、彼は獲得形質が子孫に伝わると考えた。

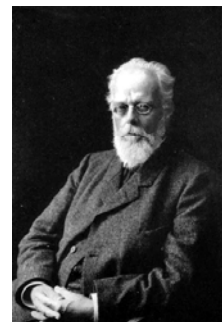
<用不用説>



41

### Friedrich L. August Weismann (1834–1914)

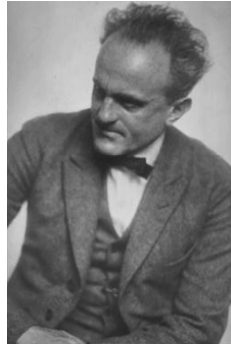
ヴァイスマンは生殖質説を提唱し、多細胞生物の遺伝は生殖細胞、つまり精子や卵子によって引き起こされと主張した。彼がソーマ細胞と呼んだ体細胞は遺伝には無関係とした。これはラマルクの獲得形質の遺伝に反対する考えであり、セントラル・ドグマと基本的に同じ考えである。



42

## Paul Kammerer (1880 – 1926)

Austrian biologist who studied and advocated the now abandoned **Lamarckian theory of inheritance** – the notion that organisms may pass to their offspring characteristics they have acquired in their lifetime.



Arthur Koestler, *The Case of the Midwife Toad*, London: Hutchinson, 1971 (『サンバガエルの謎』石田敏子訳、岩波現代文庫、2002.)

43

## Trofim Denisovich Lysenko (1898 -1976)

科学と政治の混同

He rejected Mendelian genetics in favor of the hybridization theories of Ivan V. Michurin. His unorthodox experimental research in improved crop yields earned the support of Stalin. In 1940 he became director of the Institute of Genetics within the USSR's Academy of Sciences. Scientific dissent from Lysenko's theories of acquired inheritance was outlawed in 1948, and for the next several years opponents were purged from held positions, and many imprisoned. His work was officially discredited in the Soviet Union in 1964.



44

## ラマルク再登場???

- E. J. Steele
- **Somatic Selection and Adaptive Evolution: On the Inheritance of Acquired Characters**
- 2d edition, 1981

If the thesis advanced in this book can be corroborated by experiments currently being carried out in a number of laboratories around the world, it will signify an intellectual revolution and a landmark in the history of science. E. J. Steele here suggests that on the basis of his own immunological research, the theory originally put forward by Lamarck 170 years ago and subsequently rejected—the notion that organisms may transmit characters *acquired* in their lifetimes to their offspring—may in fact be right. In the new postscript to the second edition, Steele presents his latest findings and replies to the enormous body of criticism his research has engendered.

45

## 免疫寛容性の遺伝 (Soma to germ-line feedback)

In the 1970s the immunologist **E. Steele** and colleagues, proposed a neo-Lamarckian mechanism to try to explain why homologous DNA sequences from the VDJ gene regions of parent mice were found in their germ cells and seemed to persist in the offspring for a few generations. The mechanism involved the somatic selection and clonal amplification of newly acquired **antibody** gene sequences that were generated via somatic hyper-mutation in **B-cells**. The mRNA products of these somatically novel genes were captured by retroviruses endogenous to the B-cells and were then transported through the blood stream where they could breach the **soma-germ barrier** and retrofect (**revers transcribe**) the newly acquired genes into the cells of the germ line. An interesting attribute of this idea is that it resembles Darwin's own theory of pangenesis, except in the soma to germ line feedback theory, pangenes are replaced with realistic retroviruses.

*Lamarck's Signature: how retrogenes are changing Darwin's natural selection paradigm.* Edward J. Steele, Robyn A. Lindley, Robert V. Blanden. Perseus Books, 1998

46

## 文献の背後 (5) Sokal affair

- "Transgressing the Boundaries: Towards a Transformative Hermeneutics of Quantum Gravity", published in the *Social Text* Spring/Summer 1996
- ニューヨーク大学のソーカル教授(物理学)が上記の論文を捏造した事件で、Science Warsの典型として物議を醸した。論文は「量子力学が社会的、言語的につくられたものである」と主張するものだった。投稿した雑誌は学術雑誌で、ポストモダンの文化研究を目的としていた。ソーカルはこの雑誌の知的厳密さをテストしようと投稿し、論文の見掛けの良さ、編集者たちの思想に合致する、といった点を露呈しようとした。ソーカルは出版されると同時に自らの論文が捏造であることを雑誌Linga Francaで公表した。

\*ビルトダウン人の捏造と比較してみよ。(情報の捏造、人骨の捏造)

47

## 情報と知識

- 情報理論: Shannon, Mathematical Theory of Communication

Claude E. Shannon: *A Mathematical Theory of Communication*, Bell System Technical Journal, Vol. 27, pp. 379–423, 623–656, 1948.

Claude E. Shannon and Warren Weaver: *The Mathematical Theory of Communication*. The University of Illinois Press, Urbana, Illinois, 1949.

- 情報量という単位: 情報の数量化
- 「知る」と「知らせる」や「伝える」
- 知識 (justified true belief) の自然化: その第一歩が知識の情報化

48



## 江戸時代の読本について

大高洋司（国文学研究資料館研究部教授）

私立大学図書館協会東部地区部会  
研究部2010年度研修会 2010/11/04

### はじめに 〈読本（よみほん）〉とは？

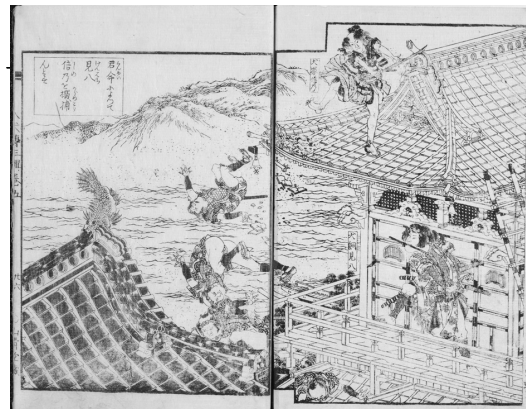
- 日本における最初の本格的な長編娯楽小説ジャンル。18世紀後半の準備期間を経て19世紀初頭に様式が整い、以後半世紀にわたり多数制作・刊行。近代小説にも接続する。
- 「絵を見ることを主とする〈絵本〉に対して、〈読本〉は、文章を読むことを主とする娯楽読みものを指す」（曲亭馬琴の定義）。
- 出版されたほとんどの近世小説ジャンルがそうであるように、〈読本〉も挿絵を備え、当時一流の浮世絵師たちが腕をふるっている（「絵入読本」と呼ばれることもある）が、物語の展開を楽しむことが第一。まず、こうした特徴を十分に示した馬琴の代表作をご紹介しますところから始めたい。

### 馬琴の長編〈史伝もの〉読本

- 〈読本〉を知らなくても、『南総里見八犬伝』を知らない人はいないであろう。作者曲亭馬琴は、源平の争乱や南北朝といった歴史の転換点に取材した、スケールの大きい〈史伝もの〉読本の作者として知られ、『八犬伝』は、『椿説弓張月』と共に、馬琴の代表作。まずこの二作に敬意を表した上で、これらを囲む多彩な読みもの群に、改めて眼を向けていきたい。

### 1. 南総里見八犬伝（なんそうさとみはっけんでん）

- 半紙本全9輯106冊（国文研本101冊） 曲亭馬琴著・柳川重信・溪斎英泉・玉蘭斎貞秀画 文化11年（1814）～天保13年（1842）刊  
[国文学研究資料館蔵 ナ4-787-1～101]
- 曲亭馬琴が28年の歳月を費やして完成させた長編〈史伝もの〉。安房国の里見義実の娘、伏姫を前世の母とする八犬士が、それぞれのエピソードを経て、里見家のために大活躍する物語。中国明代の小説『水滸伝』を意識した作品で、馬琴は終結にあたり、「吾を知る者は、それ八犬伝か、吾を知らざる者も、それ八犬伝か」と感慨をもらしている。＊画像



## 2. 椿説弓張月（ちんせつゆみはりづき）

- 2. 椿説弓張月（ちんせつゆみはりづき） 半紙本 29冊（八戸本、各篇合1冊） 曲亭馬琴著・葛飾北斎画 前篇・後篇・続篇・拾遺・残篇 文化4～8年（1807～11）刊 [八戸市立図書館蔵 南15-55-1～5]
- 曲亭馬琴の最初の長編〈史伝もの〉として『南総里見八犬伝』と並ぶ有名作。軍記『保元物語』に登場する英雄の源為朝を主人公とするが、史実とは異なり、為朝が配流された伊豆大島で死なず、流浪した後、琉球の争乱を平定するまでの生涯を描く。和漢の文献を踏まえた完成度の高い内容に加え、北斎の挿絵も加わって、商業的にも成功し、馬琴の名声が不動のものになった。

### 画像

- 『椿説弓張月』前篇口絵 葛飾北斎画
- 本作の口絵・挿絵のうち、最も良く知られるもののひとつ。内容的には、後篇第十八回のあたりに該当し、八丈島に流された為朝の強弓を島人が二人がかりで引こうとする、ユーモラスな交流の場面。
- ・八戸三社祭為朝山車人形（為朝と島人）
- 青森県八戸市では、江戸時代中期から、毎年7月末～8月初めに豊作祈願の祭（八戸三社大祭）が行われ、国の重要無形文化財に指定されている。画像は八戸市博物館に陳列される為朝の山車人形で、天保2年（1831）の制作だが、『椿説弓張月』前篇の口絵を踏まえて、しばらく後の情景を想像したもの。読本の挿絵が、人々の生活に取り込まれた一例。

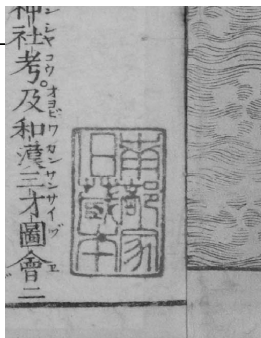
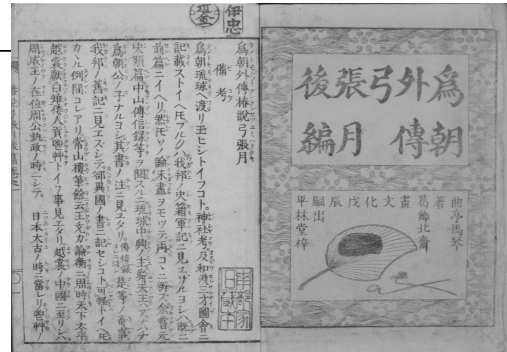


## 八戸市立図書館所蔵の読本

- 江戸時代、八戸藩主だった南部家の旧蔵本。刷りが良く、テキストとして質の高い、いわゆる初印本（初刷り本）が数多く含まれており、研究上きわめて貴重な資料。
- 国文研プロジェクト研究「近世後期小説の様式的把握のための基礎研究」（平成16～21年度 代表：大高）の基本資料として使わせていただき、成果を両館共編『読本【よみほん】事典 江戸の伝奇小説』（平成20年2月 笠間書院刊）にまとめた。

## 八戸市立図書館と国文研の間の公的関係

- 昭和40年代、南部家からの膨大な寄贈資料を対象として、文部省科学研究費による調査が継続。昭和52年以降、国文研（昭和47年発足）の調査・収集対象に引き継がれる。南部家資料は、マイクロフィルムとして国文研に収められ、また同時期に完成された分類目録によって、全国の研究者にとって身近なものとなった。
- ＊画像
- 第七代南部信房公肖像
- 「南部家旧蔵本」蔵書印（『椿説弓張月』）



### 〈読本〉の分類

- 初期読本
  - 奇談もの
  - 通俗もの
  - 勸化（かんげ）もの
  - その他
- 後期読本
  - 1 中本もの（「中本型読本」）
  - 2 絵本もの（「絵本読本」）合、国会もの
  - 3 江戸碑史もの（「江戸読本」）
    - a 仇討もの
    - b 伝説もの
    - c 一代記もの
    - d お家騒動もの
    - e 巷談もの
    - f 史伝もの
    - g その他
  - 4 上方碑史もの（「後期上方読本」）
- （横山邦治氏『読本の研究 江戸と上方と』（1974）を踏まえた分類私案）

## 第Ⅰ章 〈読本〉の父母と親族

- 〈読本〉は、中国小説との関係が非常に強い文芸とされてきた。事実、読本の祖とされる『英草紙』以来幕末に至るまで、内容や表現、また造本のあちこちに中国風は指摘できる。しかし、それは部分的なものにすぎなかったり、単なる気取りに終わっている場合も多い。これと、日本に存在した異なる要素がどのように融合したかを、初めて具体的に解き明かしたのは中村幸彦氏である（「読本発生に関する諸問題」初出1948など）が、その後半世紀の研究成果を踏まえ、〈よみほん〉を見渡す新たな視点の提示を試みる。

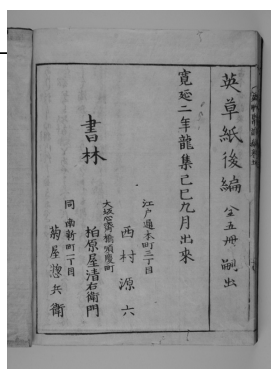
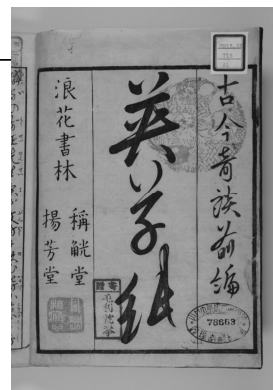
### 〈読本〉の誕生

- 〈読本〉が産声をあげたのは、近世中葉（18世紀半ば）頃のことである。井原西鶴を始祖とし、八文字屋本に受け継がれた〈浮世草子〉は、すでに斬新さを失っており、これに代わる娯楽読みものが求められていた。大坂の都賀庭鐘（つが・ていしょう）により考案された、中国白話小説の翻案を含む短編奇談集が〈初期読本〉の代表格だが、それと共に、戦記や街談巷説を事実らしく語って写本で流布した実録、説教僧の語りを読みもの化した長編勸化本などに、源流が求められる。



### 3. 英草紙（はなぶさぞうし）

- 半紙本5巻5冊 近路行者（都賀庭鐘）著・桂眉仙（推定）画 寛延2年（1749）刊〔山口大学附属図書館棲息堂文庫蔵 M913.56T13A1-A5〕
- 成稿時、著者は20代。しかし本作は、当時最新の中国白話（口語）小説を読み解く語学力と、我が国の歴史書への独自の視点が組み合わさって成った、新時代の大人の読みものというに相応しい。再版以降は伝本が比較的多いのに対し、長く不明だった初版本が、国文学研究資料館の文献調査の際、山口大学附属図書館棲息堂文庫（毛利家旧蔵）で発見された。＊画像



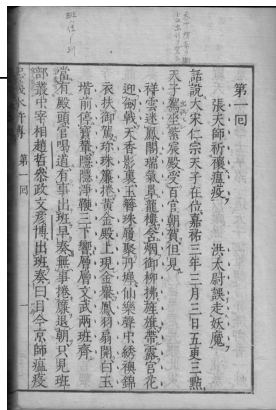
### 4. 雨月物語（うげつものがたり）

- 半紙本5巻5冊（国文研本、合2冊） 剪枝畸人（上田秋成）著・桂眉仙（推定）画 安永5年（1776）刊〔国文学研究資料館蔵 99-125-1～2〕
- く（初期）読本のジャンルを超え、日本古典文学史上の傑作のひとつというべき名作。庭鐘の『英草紙』・『繁野話（しげしげやわ）』の影響を受けて、9編の短編から成るが、和漢の典拠の夥しさ、和学の教養を生かした文章の洗練度、怪異のリアリティなどにおいて庭鐘を超える。＊画像



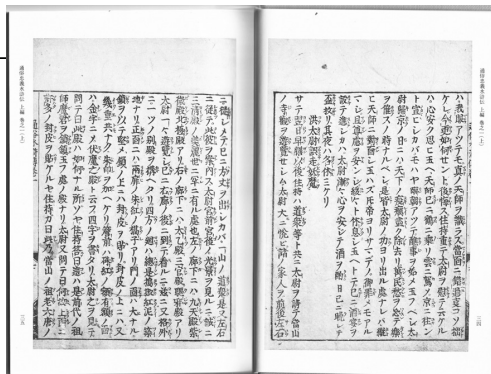
### 5. 忠義水滸伝（ちゅうぎすいこでん） 初集

- 大本5冊（合2冊） 享保13年（1728）刊〔個人蔵〕
- 中国明代の代表的白話小説『水滸伝』（百回本）の第一～十回に訓点を施したもの。施訓者は、享保期唐話（中国語）学の第一人者岡島冠山とされる。後には読本や浮世絵などを通じて日本の大衆文化にすっかり溶け込んだ『水滸伝』も、当初はあまり売れなかったらしく、二集（第十一～二十回）の出版は、それから30年ほど遅れた。＊画像



## 6. 通俗忠義水滸伝 (つうぞくちゅうぎすいこでん)

- 大本20冊 宝暦7年(1757)上編刊 『近世白話小説翻訳集』所収]
- 『水滸伝』を漢字カタカナ交じりで翻訳し、以後寛政2年(1790)まで、30年以上かけて、百二十回分を完結させた(全80冊)。岡島冠山の関与も推定されるが、訳者は不明。造本にもずさんな点が目立つが、近世日本において『水滸伝』の全貌の分かる唯一の翻訳書として、本書の果たした役割はきわめて大きい。  
\*画像



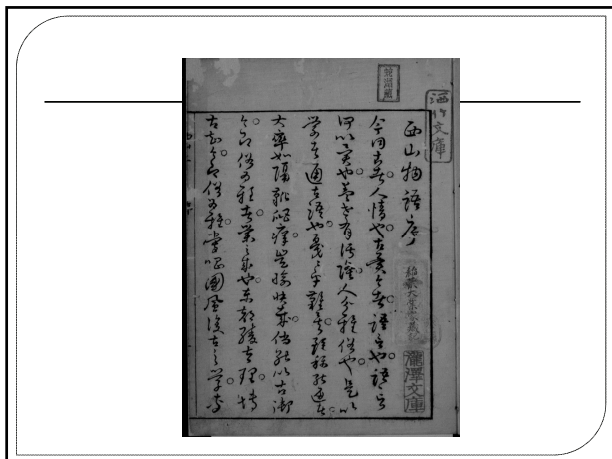
## 7. 本朝水滸伝 (ほんちょうすいこでん) 前編

- 大本10巻9冊 建部綾足(たけべ・あやたり)著・画者不明 明和10(安永2)年(1773)刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-173-1~9]
- 『水滸伝』を翻案した「読本」として、早い時期の代表作。著者綾足は和学系の文人で、『西山物語』に続き、『水滸伝』の面影を匂わせながら、奈良時代を舞台とした長編の歴史小説を和文体で描いた。前編が刊行されて間もなく著者は死没し、後編(15巻15冊)は写本で伝わる。後に曲亭馬琴が批評を加えたことでも知られる。  
\*画像



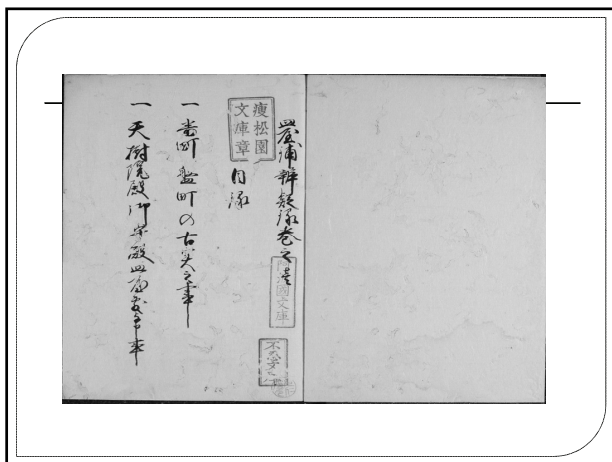
## 8. 西山物語 (にしやまものがたり)

- 半紙本3巻3冊(国文研本、合1冊) 建部綾足著 明和5年(1768)2月刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-746]
- 前年の明和4年12月に京都で起こった源太騒動と呼ばれる妹殺し事件に基づき、綾足は本作を『万葉集』・『伊勢物語』・『源氏物語』などを出典とする古語を散りばめた和文の小説として、短期間のうちにまとめ上げ、出版した。一般に、演劇や実録に取り込まれる街談巷説を、〈雅〉の文体で描いた意図については、なお考究の必要があるだろう。国文研本には「瀧澤文庫」の蔵書印があり、馬琴旧蔵。  
\*画像



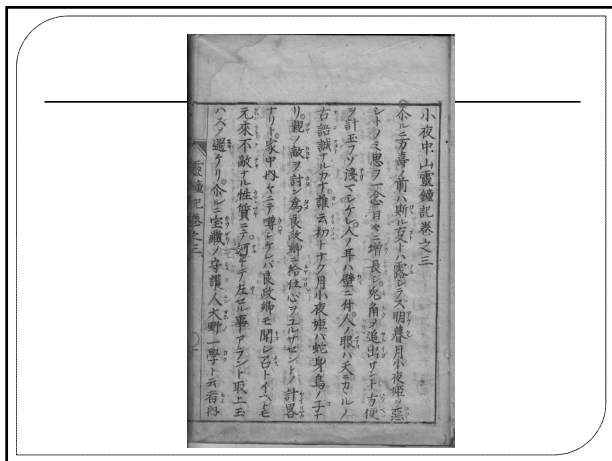
## 9. 皿屋敷弁疑録（さらやしきべんぎろく）

- ◎ 写本・大本2冊 馬場文耕著 [国文学研究資料館蔵 ヤ3-154-1~2]
- ◎ 有名なお菊の怪談を記したものの。この怪談のバリエーションは全国に散在するが、「番町皿屋敷」で通称される話は本作品によって広まった。著者馬場文耕は宝暦期に活躍した江戸の講釈師で、この話は実録写本として読まれるだけでなく、当時の市井での講釈を通じても伝播した。\*画像



## 10. 小夜中山霊鐘記（さよのなかやまれいしょうき）

- ◎ 大本5巻5冊 欣誉著 寛延元年（1748）刊 [個人蔵]
- ◎ 遠江国の歌枕小夜中山にまつわる伝承（無間の鐘・夜泣き石など）を踏まえた五つの挿話を組み合わせ、浄土宗の立場からの仏教的救済を主題とする長編勸化本。説教の台本として作られたが、読みものとしても、明治期まで出版された。本作を踏まえた〈稗史もの〉読本として、馬琴『石言遺響（せきげんいきょう）』（文化2年〈1085〉刊）が知られる。\*画像



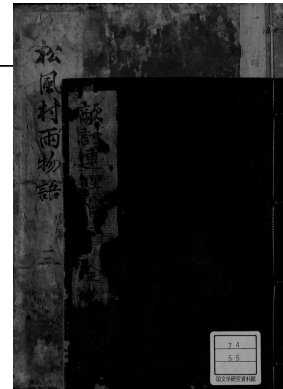
## 〈中本もの〉読本

- ◎ 中本（約18×13センチ）の書型をとる読本で、半紙本（約22.5×15.5センチ）より一回り小さい。〈後期読本〉に先立って江戸で発生した（上方にも伝播）。この大きさで刊行された小説ジャンルは、読本その他、草双紙・洒落本の一部・滑稽本など多岐にわたり、文政期以降に人情本も発生してくるが、いずれも世話的要素の強い大衆的な読み物。一括して〈中本〉と呼ばれるこれらの読みものには、演劇・巷談街説・実録写本との親近性、俗語を多用する文体などの共通項が見られると共に、造本やテーマなど、ジャンルごとの相違点もある。



### 11. 敵討連理橘（かたきうちれんりのたちばな）

- 中本1冊 容楊黛（ようようたい）著・画工不明（勝川春英か）安永10年（1781）刊  
〔国文学研究資料館蔵 ナ4-55〕
- 〈中本もの〉の最初期に位置する作品。内容・文体などに浄瑠璃（典拠は江戸浄瑠璃『驪山比翼塚（めぐろひよくづか）』（安永8年〈1779〉初演）との接点が強く認められ、その源流に権八・小紫の巷説（実録）がある点も注目される。実録種の撰取は、浄瑠璃との親近とともに、このジャンルの本質的な特色としてあげられる。＊画像



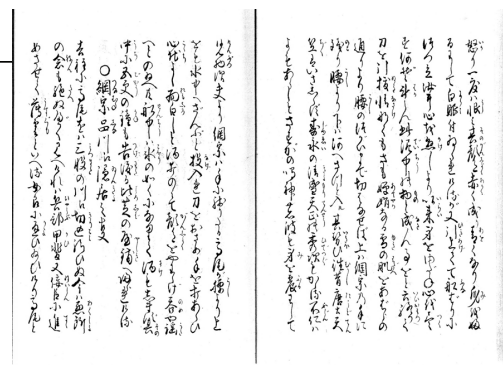
### 12. 高尾船字文（たかおせんじもん）

- 中本5巻5冊 曲亭馬琴著・栄松斎長喜画 寛政8年（1796）刊 〔関西大学図書館蔵 \*913.65\*T1\*13-1~5〕
- 馬琴の読本処女作。「ない交ぜ」という手法を用いて、『水滸伝』と「伊達騒動」の世界の合体を図っている。本格的な〈江戸稗史もの〉以前の試行作に止まるが、典拠として『通俗忠義水滸伝』と共に実録『仙台萩』、及びその影響下にある浄瑠璃『伽羅先代萩』・『伊達競阿国戯場』が用いられている点は、いかにも〈中本もの〉らしい。＊画像



### 13. 仙台萩（せんだいはぎ）

- 写本 大本6冊 作者不明 〔個人蔵〕
- 伊達騒動の実録のうち、最も流布した系統のもの。『高尾船字文』執筆の際に馬琴が取材した外、〈絵本もの〉読本の『絵本金花談』（速水春暁斎作画）の素材にもなった。＊画像



#### 14. 曲亭伝奇花奴児 (きょくていでんきはなかんざし)

- ◎ 中本2巻2冊 曲亭馬琴著・画工不明 文化元年(1804)刊 [個人蔵]
- ◎ 中国の戯曲「玉搔頭伝奇」の翻案であるが、近松の浄瑠璃『津国女夫池』を意識し、義太夫的な表現をもとり入れた作品。京伝『忠臣水滸伝』の影響を強く受けたと見られるが、本作の文章表現は、半紙本(「江戸稗史もの」)に比べ、七五のリズムで俗語を多用する点が大きく異なる。刊記に見える版元の一人、浜松屋幸助が「義太夫抜本版元」として記されるのも、本作の位置づけをよく物語っている。\*画像

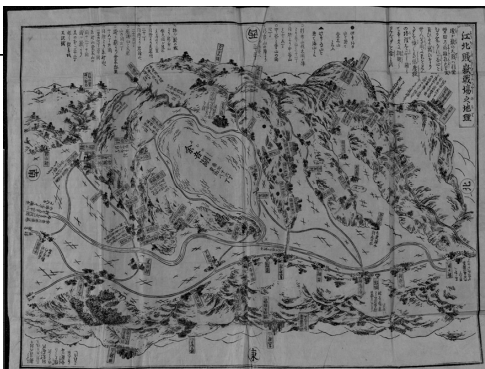
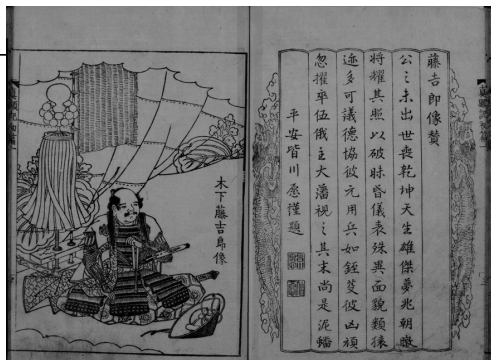


#### 〈絵本もの〉読本

- ◎ 〈絵本もの〉読本は寛政以降、『絵本太閤記』を皮切りに、上方中心に流行した。書名に「絵本」の語を冠し、その名の通り挿絵の分量が多く、本文2〜3丁おきに1図ぐらいの割合で挿入されるのが特徴。すでに行われていた「絵本」や「図会」などの影響を受けて生みだされたと考えられ、画風も武者絵風のものや名所図会風のものが見られる。軍記や実録の筋を視覚的にも楽しめるようにしたものだが、内容にはかなり手が加わっており、文章も白話語彙(またはその模倣)の使用がみられる。文化期以後の〈上方稗史もの〉読本の基盤を支える一群としても、見逃すことはできない。

#### 5. 絵本太閤記 (えほんたいこうき)

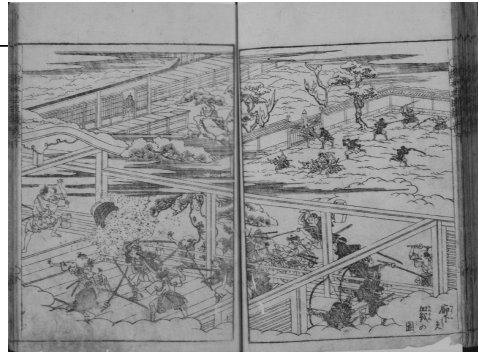
- ◎ 半紙本12編84冊 岡田玉山画作 寛政9年(1797)〜文化元〈享和4〉(1804)年刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-762-1~84]
- ◎ 〈絵本もの〉読本の形式を決定づけるとともに、長編〈史伝もの〉の先鞭をつけた記念碑的作品。七編にわたる内容は豊臣秀吉の天下取り話であり、実録『太閤真蹟記』を主素材として大幅に整理・加筆を施し再構成する。文化元年6月、幕府により絶版を命じられ、安政6年(1859)になり再版を許可された。本作品は、現在まで受け継がれる秀吉伝説を定着させるのに大きな役割を果たしており、その意義は大きい。国文研本は「江北賤ヶ岳合戦之地理」を備えた初印本。\*画像





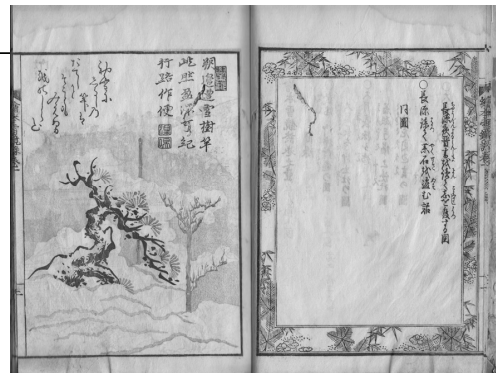
## 16. 絵本忠臣蔵 (えほんちゅうしんぐら) 前編

- 半紙本10巻10冊 速水春暁斎 (はやみ・しゅんぎょうさい) 作画 寛政12年(1800)4月刊 [八戸市立図書館蔵 南15-33-1~4]
- 〈絵本もの〉読本の代表的画作者である速水春暁斎の早期の作で、「赤穂義士」を題材とする。実録『赤穂精義内侍所』や『赤城義臣伝』(享保4年<1719>刊)を素材とし、人名等は浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』に倣う。山東京伝『忠臣水滸伝』前編(寛政11年<1799>刊)に刺激された上方書肆の、急ごしらえの対抗作との見方が一般的だったが、実際は寛政6年(1794)頃から京と大坂で企画が競合した結果、春暁斎を擁する京都版として刊行されたもの。文化5年(1808)に、討ち入りの後日譚と義士銘々伝にあたる「後編」も刊行された。  
\*画像



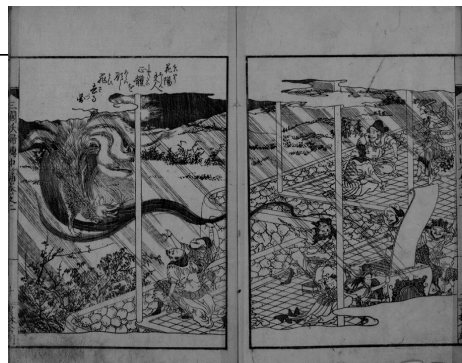
## 17. 絵本雪鏡談 (えほんせっきょうだん)

- 半紙本12巻12冊(当該本前半6冊のみ) 速水春暁斎作画 文化2年(1805)刊 [個人蔵]
- 挿絵を手がけた速水春暁斎は、〈絵本もの〉絵本ものの代表的画作者であり、実録を種本とした作品も数多く手がける。本書も加賀騒動を題材とする実録『見語(けんご)』を主な典拠としている。現存する春暁斎作画〈絵本もの〉の大半は後印本だが、当該本は初印本であり、口絵が色刷りである他、題簽も朱で摺られているなど、〈絵本もの〉初印時の状態を知り得る、貴重な一本である。  
\*画像



## 18. 絵本三国妖婦伝 (えほんさんごくようふでん)

- 半紙本3編15冊 高井蘭山著・蹄斎北馬画 享和3年(1803)~文化2年(1805)刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-716-1~15]
- 九尾の狐・殺生石の伝説に基づいた作品。すでに写本で流布していた『三国悪狐伝』を主な典拠とする。本書は江戸で制作されたものだが、〈絵本もの〉の型を踏まえており、上方でも同時期に、やはり同じ題材で『絵本玉藻譚(えほんたまもばなし)』(文化2年<1805>9月刊)の刊行が企画され、成稿していたにもかかわらず、本書が先行する。  
〈絵本もの〉は、上方ばかりでなく江戸にも多大な影響を及ぼしていたのである。  
\*画像

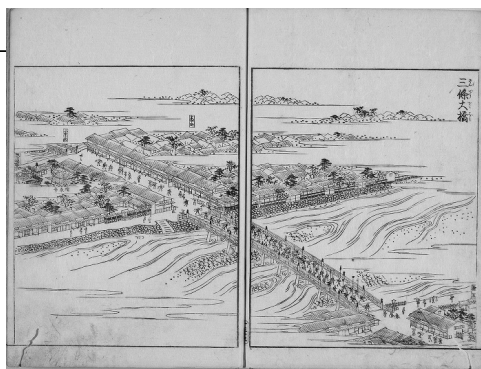


### 〈図会（ずえ）もの〉読本

- ◎ 横山邦治氏は、〈図会もの〉を〈絵本もの〉と別立てしておられる。〈図会もの〉は大本（約27×18センチ）で、実録種は除くなど扱う対象にも偏りが見られるが、「～図会」は、元来秋里籬島（あきさと・りとう）が自作『都名所図会』（安永9年〈1780〉刊）以来のプライオリティを主張しての命名と思われ、内実は〈絵本もの〉に通う点が多い。

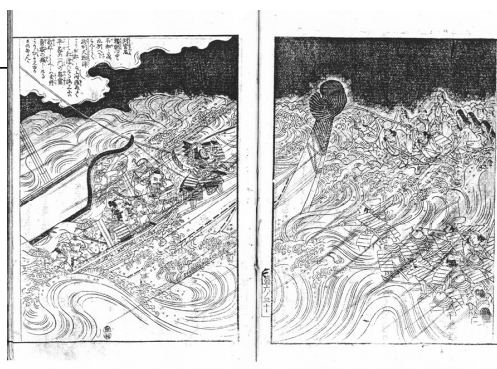
### 19. 都名所図会（みやこめいしよずえ）

- ◎ 大本6巻6冊 秋里籬島著・竹原春潮斎画 安永9年（1780）刊 天明6年（1786）再版〔国文学研究資料館長谷文庫 93-77-1〜6〕
- ◎ 近世前期から多数出版された〈名所記〉の流れを受け、名所・旧跡に関する記述を詳細にし、大型画面に豊富な挿絵を添えて、ヴィジュアルな側面からも楽しめる〈名所図会〉と呼ばれる一群が、幕末にかけて多数出版された。初作の榮譽を担うのが本作である。〈絵本もの〉読本は、〈名所図会〉の様式に大きな影響を受けていると見られ、元祖籬島も〈図会もの〉作者と名乗って、読本の分野にも参入することになった。＊画像



### 20. 源平盛衰記図会（げんぺいせいすいきずえ）

- ◎ 大本6巻6冊 秋里籬島著・西村中和画 寛政12年（1800）刊 〔個人蔵〕
- ◎ 『源平盛衰記』の本文を大幅に省略し、挿絵を多く加えて絵本化したもの。〈名所図会〉の著者として成功した籬島は、流行しはじめた〈絵本もの〉にも進出して『絵本朝鮮軍記』（半紙本、寛政12年〈1800〉刊）を手がけるが、本作は〈名所図会〉の体裁を踏襲した大本で、〈絵本もの〉よりも古典的な内容を扱う〈図会もの〉の第一作である。以後籬島は、『保元平治闘（かつせん）図会』『前太平記図会』など、歴史図会を執筆し続ける。＊画像



## 第Ⅱ章 読本の自立と普及 — 娯楽長編読みものの王者へ —

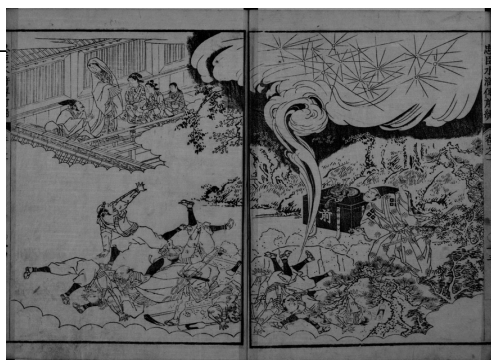
- ◎ 『八犬伝』・『弓張月』のような〈史伝もの〉大作も、最初からあったわけではなく、〈初期読本〉に始まり、〈中本もの〉・〈絵本もの〉を経て、その先に、独自の構成に支えられた虚構の長編読みもの（横山邦治氏に倣って〈稗史もの〉読本と呼ぶ）が生まれた。その先頭に立ったのは江戸の山東京伝・曲亭馬琴であり、この流れは江戸・上方に多くの模倣者・追随者を生んで、全国津々浦々に広まった。

### 山東京伝と〈稗史もの〉読本様式の確立

- ◎ 先行する〈中本もの〉や〈絵本もの〉、また浮世草子以来の〈よみほん〉を見渡しなが、時代に相応しい新たな長編娯楽小説（〈稗史もの〉）を模索していたのは江戸の山東京伝であり、その傍らに曲亭馬琴がいた。虚構の展開を可能にする長編構成（〈読本的枠組〉と呼ぶ）は、先導者京伝の苦辛の末に考案されたものである。

### 21. 忠臣水滸伝（ちゅうしんすいこでん）

- ◎ 半紙本10巻10冊（前編・後編） 山東京伝著・北尾重政画 寛政11年（1799）11月～享和元年（1801）11月刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-834-1～10]
- ◎ 従来 〈稗史もの〉読本の第一作とされる。当時から人気のあった浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』全十一段の進行を踏まえながら、訓訳本・通俗本のゴツゴツした翻訳文体を意識的に用いて『水滸伝』の名場面と重ね合わせて描き出し、軽い笑いをも誘う、「ない交ぜ」の手法を用いる。翻案の技量は驚くべき高さだが、浄瑠璃に寄りかかった長編構成をどう自立させるかが、新たな課題となった。  
\* 画像



### 22. 〈復讐／奇談〉安積沼（あさかのぬま）

- ◎ 半紙本5巻5冊（八戸本、合1冊） 山東京伝著・北尾重政画 享和3年（1803）11月刊 [八戸市立図書館蔵 南15-41]
- ◎ 本作で京伝の試みたのは、『忠臣水滸伝』で模索した翻訳文体と、先輩作者平賀源内の談義本の文体を両方に置いて、その中間に位置するような雅俗（折衷）体の獲得であった。これには成功したが、主人公の仇討ち話と、巷説に基づく小平次怨霊譚を、同じ流れの中でひとつにまとめることはできなかった。しかし主人公を擁護する尼僧の予言が、重要なヒントとして次作に受け継がれた。  
\* 画像



### 23. 優曇華物語（うどんげものがたり）

- ◎ 半紙本5巻7冊 山東京伝著・喜多武清画 文化元年（1804）12月刊 [個人蔵]
- ◎ 『安積沼』を踏まえ、京伝は、本作を高僧（金鈴道人）の予言で覆われた、ひとつの仇討ち話に統一した。その結果、長編を構成する各エピソードに一貫した流れが生まれ、虚構の物語が〈勸善懲惡〉の主題を体現することが可能になった（〈読本的枠組〉）。新しい長編娯楽小説〈稗史もの〉は、本作を雛形として誕生したのである。  
\* 画像





### 〈読本的枠組〉

- 大高の造語。後期読本の中でも最も本格的な〈稗史もの〉に見られ、読本独自の長編構成を可能にするための仕組み。人間・動物・モノ・言葉など様々なかたちで、ふつう物語の発端近くで存在が示され、その後、表面に姿を見せなくても、ストーリー展開に直接・間接に関与し続け、〈稗史もの〉読本の結末は、例えば怨霊の解脱、過去の因縁の消滅、言葉の謎の解決といったように、作品世界の中から〈読本的枠組〉の存在が消えることによってもたらされる。読本における小説的展開の原動力と言って良く、また作品全体が〈読本的枠組〉に貫かれ、挟まれることで、その内側に置かれる個々の挿話や典拠は、互いに突出せず安定した状態となる。〈稗史もの〉読本に一般的な技法で、日本近世小説の様式としてこのジャンルを把握するための重要要素。

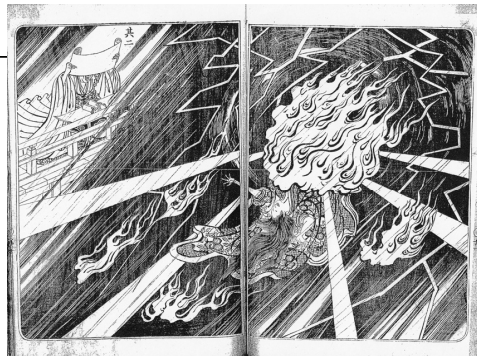
### 24. 〈復／讐〉月水奇縁（げっぴょうきえん）

- 半紙本5巻5冊 曲亭馬琴著・流光斎如圭画 文化2年（1805）正月刊 [個人蔵]
- 馬琴の〈稗史もの〉読本第一作として知られるが、高僧の予言をはじめ、内容、文章表現の細部まで、『優曇華物語』との類似点がきわめて多く、当時京伝のごく身近にいた馬琴が、稿本の段階で『優曇華物語』を踏まえて仕上げた作と考えられる。ただし版元は大坂の河内屋太助で、典拠として八文字屋本の浮世草子や、近松の浄瑠璃が用いられている。＊画像



## 25. 桜姫全伝曙草紙 (さくらひめぜんでんあけぼのそうし)

- 半紙本5巻5冊 山東京伝著・歌川豊国画 文化2年(1805)12月刊 [東京大学国文学研究室蔵 近世36.7-6]
- 『優曇華物語』に続く、京伝読本の代表作。江戸期を通じて演劇や俗文芸に多く取り上げられた〈桜姫・清玄〉説話に基づくが、本作の中心は桜姫ではなく、その母親である野分の方と言って良い。京伝は長編勧化本から〈一代記〉の構成を借り、多くの典拠を踏まえて、嫉妬を中心とする女性の罪障と救済を描くことに成功している。\*画像



## 曲亭馬琴と〈稗史もの〉読本の流行

- 京伝に導かれて〈中本もの〉から〈稗史もの〉読本の作者に昇格した馬琴であるが、『月氷奇縁』において京伝から学んだ長編構成法(〈読本的枠組〉)を自作に反復利用し、初期の〈仇討もの〉から〈伝説もの〉・〈巷談(こうだん)もの〉・〈史伝もの〉へと応用範囲を拡大した。その結果がもたらした自信が、〈稗史もの〉に別の可能性を見出そうとする京伝に対する批判にもつながった。その一方、京伝・馬琴の開いた道は、江戸のみならず上方にも刺激を与え、様々なレベルで〈稗史もの〉様式を意識した読本が制作・出版された。

## 26. 梅花氷裂 (ばいかひょうれつ) 前編

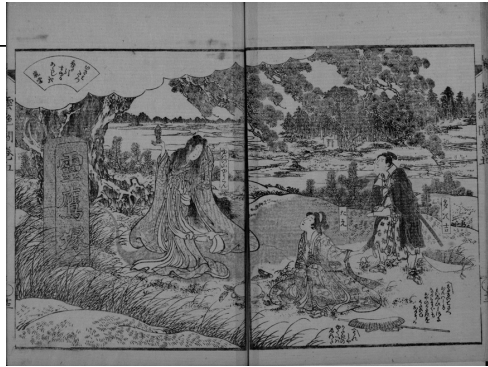
- 半紙本3巻3冊 山東京伝著・歌川豊広画 文化4年(1807)刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-713-1~3]
- 『曙草紙』の後、京伝は、本作と『昔話稲妻表紙(むかしがたりいなすまびょうし)』(文化3年12月刊)において、いったんそこから離れた〈中本もの〉に回帰し、浄瑠璃・歌舞伎に依拠した読本作りを模索し始める。浄瑠璃『茜染野中の隠井』や歌舞伎「隅田春妓女容性」など、「梅之与四由兵衛」もの(本作内題等)に取材、女性の怨霊が金魚に憑依する挿話を軸とする読本的展開を、浄瑠璃を踏まえた愁嘆場に直接つないで、『三七全伝南柯夢』など馬琴〈巷談もの〉の先駆けとなった。\*画像



## 27. 雲絶間雨夜月 (くものたえまあまよのつき)

- 半紙本5巻6冊 曲亭馬琴著・歌川豊広画 文化5年(1808)刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-9-1~6]
- 京伝への兄事を続けながらも、一方で『椿説弓張月』の制作・刊行を継続、中国の〈演義〉を規範とする歴史小説のスタイルに自信を深めた馬琴は、京伝の読本作りに距離を置き始める。本作のタイトルは、歌舞伎十八番の「鳴神」を踏まえるが、馬琴は、はるか昔、僧侶の説経を聞きに来ていた五色の鹿を獵師が殺したところに因縁を設定、親子三代にわたる〈伝説もの〉の型の中で物語を展開させる。また、『水滸伝』二十四、五回で、武松が兄を毒殺した兄嫁潘金蓮・愛人西門慶に復讐する挿話が用いられている。\*画像





## 27. 三七全伝南柯夢 (さんしちぜんなんかのゆめ)

- 半紙本6巻6冊 (八戸本、合1冊) 曲亭馬琴 著・葛飾北斎画 文化5年(1808)刊 [八戸市立図書館蔵 南15-61-1]
- 笠屋三勝・赤根屋半七の心中の巷説を題材とした、馬琴〈巷談もの〉の代表作。浄瑠璃『艶容女舞衣 (はですがたおんなまいぎぬ)』・『女舞剣紅楓 (おんなまいづるきのもみじ)』に取材するが、巷説や浄瑠璃では、不義の結果心中する二人を、本作では親の悪行の「因果」を背負って艱難に耐える武家の忠臣貞女とし、最終的には双方の親が罪を悔いて自害する(大屋多詠子)。葛藤の原因を主人公男女の心の外側に設定し、演劇とは異なる結末に導く、馬琴流〈勧善懲悪〉が顕わである。\*画像



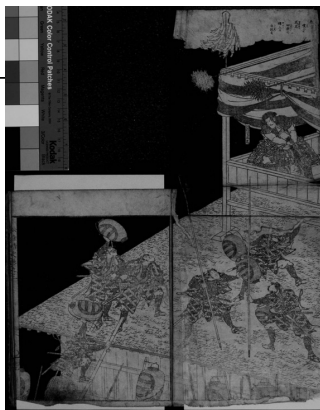
## 28. 旬殿実実記 (しゅんでんじつじつき)

- 半紙本前編5巻5冊 (当該本は前編のみ、半紙本5巻7冊に分冊) 曲亭馬琴著・歌川豊広画 文化5年(1808)刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-694-1~7]
- 『三七全伝南柯夢』と同じく、浄瑠璃『近頃河原達引 (ちかごろかわらのたてひき)』などで親しまれたお俊・伝兵衛の情話に基づく〈巷談もの〉。当該本は、初印本の特徴を持ちながら、当世の人気読本作者・画工の名前を散らした表紙を別にしつらえたもの。貸本屋の特注であろうか。\*画像



## 29. 松染情史秋七草 (しょうぜんじょうしあきのななくさ)

- 半紙本5巻5冊 曲亭馬琴著・歌川豊広画 文化6年(1809)刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-610-1~6]
- 油屋の娘「お染」と丁稚「久松」が「情死」したという巷説に基づき、浄瑠璃の登場人物を借りた〈巷談もの〉。久松を楠正成の曾孫とし、史実と結びつけている点が特徴的である。\*画像



### 30. 夢想兵衛胡蝶物語 (むそうびょうえごちようものがたり)

- ◎ 前編半紙本5巻5冊 曲亭馬琴著・歌川豊広画 文化7年(1810)正月刊 後編4巻4冊 同年12月刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-50-1~8 ナ4-805-1~9]
- ◎ 内容は主人公、夢想兵衛の夢中遊歴譚。談義本『和莊兵衛』(安永3年<1774>刊)を意識し、夢想兵衛が「少年国」「色欲島」「強飲国」「貪婪国」「食言国」「煩惱郷」「哀傷郷」「欲楽郷」を巡りつつ、当地の人物とそれぞれの道義について論じ合うという、読本としては特異な作である。馬琴の人生観・社会観を盛り込んだ、一種の「教訓本」。  
\*画像



### 31. 本朝酔菩提全伝 (ほんちょうすいぼだいぜんでん)

- ◎ 前帙・半紙本5巻6冊 後帙・半紙本3巻4冊 (国文研本は前帙のみ) 山東京伝著・歌川豊国画 文化6年(1809)年 [国文学研究資料館蔵 ナ4-635-1~6]
- ◎ 『昔話稲妻表紙』の後編とされるが、実際には新たな登場人物も加わり、各々のエピソードに足利時代の名僧一休和尚が絡み、救済して行く<一代記もの>。「本朝酔菩提」という題名は中国宋代の奇僧を主人公とした白話小説の翻訳『通俗酔菩提全伝』を踏まえている。  
\*画像



### 32. 双蝶記（そうちょうき）

- 半紙本6巻6冊（八戸本、合1冊） 山東京伝著・歌川豊国画 文化10年（1813）刊 [八戸市立図書館蔵 南15-85]
- 山東京伝の最後の読本にあたる（文化13年〈1816〉没、56歳）。『太平記』の世界を背景に、浄瑠璃『双蝶々曲輪日記（ふたつちょうちょうくるわにつき）』等を踏まえるが、浄瑠璃の「双蝶々」が男伊達の濡髪「長」五郎と放駒「長」吉であるのとは異なって、小蝶・蝶吉の姉弟を指し、敵対する南北朝両陣営とは異なる立場に置かれた二人が、双方の人々と関わりながら、ついには和睦に繋がる役割を果たす。京伝の〈勧善懲悪〉観が、十分に生かされている。＊画像



### 〈江戸稗史もの〉の作者たち

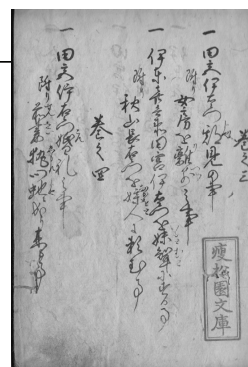
#### 33. 近世怪談霜夜星（きんせいかいだんしもよのほし）

- 半紙本5巻5冊 柳亭種彦著・葛飾北斎画 文化5年（1808）刊 [個人蔵]
- 合巻『修紫田舎源氏』で知られる柳亭種彦も、読本作者として出発した。本作は23～24歳頃の執筆。実録『四谷雑談集（よつやぞうたんしゅう）』として伝えられたいわゆる「四谷怪談」を取り込むが、上方〈絵本もの〉とは異なり、京伝・馬琴の主導する〈江戸稗史もの〉の手法を良く学んで、自らのものとしている。＊画像



### 34. 四谷雑談集（よつやぞうたんしゅう）

- 写本 半紙本10冊 [個人蔵]
- 「お岩の怪談」を書き綴った実録で、歌舞伎「東海道四谷怪談」の素材でもある。＊画像





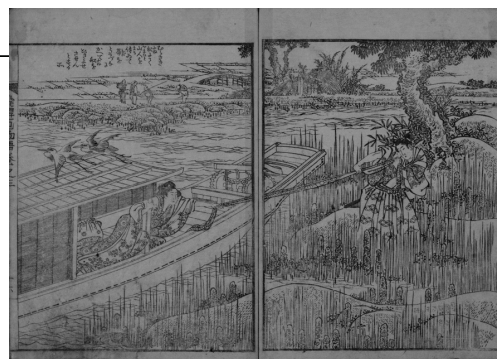
### 35. 千代囊媛七変化物語 (ちよのうひめしちへんげものがたり)

- 半紙本5巻5冊 振鷺亭 (しんろてい) 主人著・蹄斎北馬画 文化5年 (1808) 刊  
[国文学研究資料館蔵 ナ4-707-1~5]
- 千代囊媛が艱難辛苦の末に悟りを開くまでの一代記。「賤の女がいただく桶の底ぬけて水たまらねば月も宿らず」という開悟の歌でよく知られた夢想国師の弟子、千代能の伝承に基づく。京伝『桜姫全伝曙草紙』の影響を強く受けているが、残虐陰惨な描写がより目立ち、挿絵と相俟って強烈な印象を与える。\*画像



### 36. 飛驒匠物語 (ひだのたくみものがたり)

- 半紙本6巻6冊 六樹園飯盛著・葛飾北斎画 文化6 (1809) 年刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-693-1~6]
- 著者飯盛 (めしもり) は、天明狂歌壇の四天王にも数えられる狂歌師で、国学者でもある石川雅望。本作も雅文 (擬古文) 体の小説となっている。飛驒の匠である墨縄とその弟子が仙人から与えられた機関の力を使って、仙界から人間界に追放された男女を助け、その恋愛を成就させる物語。馬琴読本のように、善悪の対立は強調されない。\*画像



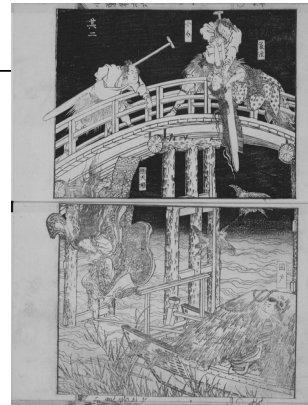
### 37. 忠孝潮来府志 (ちゅうこういたこぶし)

- 半紙本5巻5冊 (八戸本、合1冊) 烏亭焉馬 (うてい・えんば) 著・葛飾北斎画 文化6年 (1809) 刊 [八戸市立図書館蔵 南15-65]
- 焉馬は大工棟梁を家業とし、早くから俳諧・狂歌・戯作・浄瑠璃等の俗文芸に携わった。本作は焉馬の読本二作目。題名は江戸で流行した潮来節から採ったもので、十五の詞章を各章題とする。〈お家騒動もの〉に分類できるが、忠臣とその家族等の辛苦と悲哀を描くことに重点を置いている。団十郎最辰で「談洲楼 (だんじゅうろう)」とも号した焉馬の面目が、良く現れている。\*画像



### 38. 〈寒燈／夜話〉小栗外伝（おぐりがいでん）

- 半紙本15巻15冊（前編・二編・三編、八戸本、各合1冊） 小枝繁（さえだ・しげる）著・葛飾北斎画 文化10年（1813）～文化12年（1815）刊  
〔八戸市立図書館蔵 南15-90〕
- 畠山泰全の仮作軍記『小栗実記』（享保20年〈1735〉刊）に大きく拠り、また『水滸伝』にも示唆を得て、豪傑たちが主人公小栗助重のもとに集結する話として構成した、〈史伝もの〉の長編。一方で小栗助重・照天姫夫妻に害をなす横山安秀を単純な悪人とせず、零落挫折の人として、その内面を丁寧に描写したところにも作者の努力が見られる。＊画像

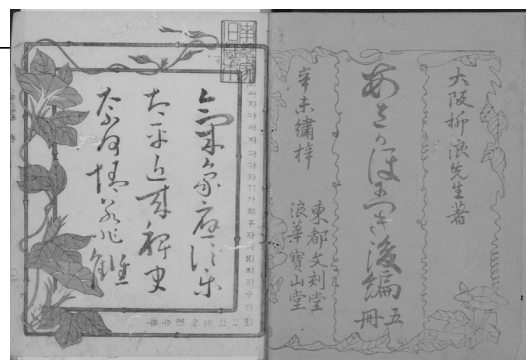


### 〈上方稗史もの〉読本の再評価

- 上方の作者・書肆も〈絵本もの〉を中心に読本の制作を続けていたが、〈江戸稗史もの〉が起これば、京伝・馬琴風と〈絵本もの〉風を融和させる、独特の作法へと進んでいった。「作中に善悪対立の構図や因果応報の理法を示しながらも、これが全てを統御しているとはせず、人間の感情や言動が連鎖しながら、事件の展開や人の命運が決定付けられるように描く」（田中則雄氏）、新たな作風を作り出したのである。

### 39. 朝顔日記（あさがおにつき）

- 半紙本7巻10冊（前編・後編 八戸本、各合1冊） 雨香園（馬田）柳浪著・北川春政画、浅山蘆国補画 文化8年（1811）刊 〔八戸市立図書館蔵 南15-80-1～2〕
- 馬田柳浪（ばだ・りゅうろう）は大坂の医師、読本・滑稽本作者。本作に描かれた駒沢次郎左衛門と深雪との純愛は、後に浄瑠璃『生写朝顔話（しょううつしあさがおばなし）』（天保3年〈1832〉初演）に仕組まれて流布した。ただし柳浪は、〈江戸稗史もの〉読本で培われた〈一代記もの〉の発想を取り入れ、才学、容貌、人格を備えた駒沢の誕生から説き起こし、彼が〈徳化〉によって、過ちに陥った人々を次々に翻心させ救って行く筋を中心に据える。＊画像



### 〈後期読本〉の末期

- 今回は、〈稗史もの〉読本が形成され、隆盛に至る文化期を中心に紹介したが、文政・天保期～幕末に至ると、東西書肆の交流が益々活発化し、娯楽読みもの（ジャンルを超えて〈よみほん〉と言って良い）の流通網も全国に広がった。〈稗史もの〉読本の制作・刊行も上方の方が活発と言っても良い状況となるが、曲亭馬琴は、その中で一人孤高を保ち、82歳の長寿を全うした。

### 40. 新局玉石童子訓（しんきよくぎよくせきどうじくん）

- 半紙本30巻30冊 曲亭馬琴著・三世歌川豊国（歌川国貞）画 弘化2年（1845）～5年（1848）刊 [国文学研究資料館蔵 ナ4-764-1～30]
- 文政12（1829）～天保3（1832）年にかけて刊行された馬琴著『近世説美少年録（きんせせつびしょうねんろく）』の続編。天保の改革の影響などにより執筆中断を余儀なくされたが、13年後に書名を改めて刊行された、馬琴最後の読本である。悪の美少年が活躍する『美少年録』に続き、本作では善の美少年の活躍が前面に打ち出された。本作執筆時すでに馬琴は盲目であり、亡息の嫁であったお路の口述筆記によって書かれた。＊画像



### 貸本屋と〈読本〉

- 〈読本〉の初印本（初刷り本）は豪華本として350部程度刊行されたので、一般庶民の購入はなかなか難しく、主として貸本屋により読者に届けられた。ただ、貸本は、不特定多数の人々の手を経て資本を回収するので、貸本屋本は保存状態が良くないのが常である。
- そのため、造本の手を抜いた後印本（後刷り本）がより廉価で制作・販売され、幕末には、板木を買い占めた上方書肆によって大量に出回った。後印本は、初印本と比べると「芸術的格差」（鈴木重三氏）が著しく、購入の際にはその違いを良く理解しておく必要があるが、一方、読本に限らず、江戸時代の商業出版では、刷りを重ねることで初めて利潤が生じたのであり、後印本は、初印本とは別個の資料的価値がある。

### 【参考文献】

- 国文学研究資料館・八戸市立図書館編『読本【よみほん】事典 江戸の伝奇小説』 笠間書院、2008年2月刊
- 国文学研究資料館特別展示「江戸の長編読みもの―読本・実録・人情本」リーフレット（執筆者：大高洋司・大屋多詠子・菊池庸介・木越俊介・田中則雄・山本卓）
- 国文学研究資料館編『人情本事典 江戸文政期、娘たちの小説』 笠間書院、2010年2月刊



2010年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会  
「本の歴史、本の未来 ―電子書籍時代を迎えて―」

# 漢籍 一目録と版本一

二松學舎大学 高山節也

2010年11月4日  
於慶應義塾大学

## 1 漢籍とは何か

漢籍・和刻本漢籍・準漢籍

## 2 漢籍目録とデータ

漢籍目録の意義 宋・鄭樵『通志』200卷 校讐略

漢籍分類目録

中国における分類目録の発祥 七部分類

南北朝以後の分類 四部分類へ

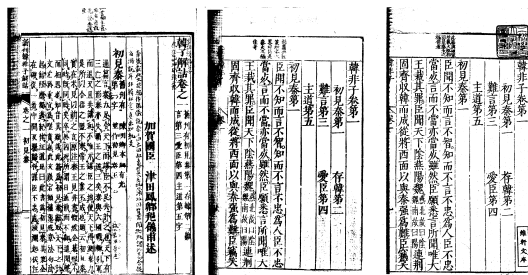
漢籍データベースと漢籍目録

## 3 漢籍目録作成の実際

書名・人名事項・出版事項

### 1-1 漢籍とは何か 漢籍と和刻本漢籍と準漢籍 韓非子 唐本 和刻本 準漢籍

図版1



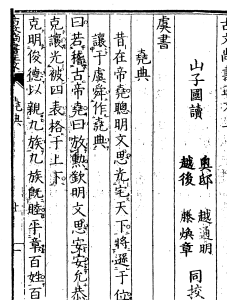
文化十四年序刊明治中大阪柳原  
喜兵衛印本

井川熾校  
享保五年刊天明八年大阪  
相原屋基兵衛等印本

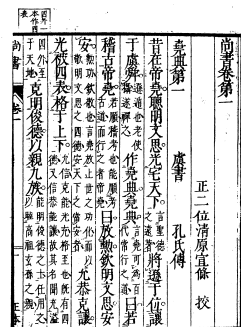
明萬曆十年序趙用賢校刊本

### 1-2 漢籍とは何か 和刻本漢籍の事例 図版2 訓点 校訂 郭外注

図版2



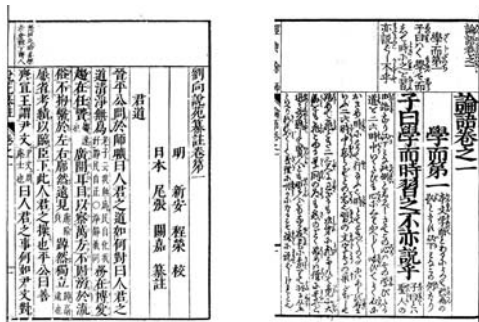
安永五年集思堂刊本



天明八年京都風月莊右衛門等刊本

### 1-3 漢籍とは何か 準漢籍の事例① 図版3 注の挿入 經典餘師・劉向說苑纂註

図版3



劉向說苑纂註二十卷  
寛政五年敬刊名古風永樂堂東四郎後印本 關嘉綱

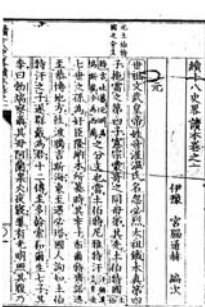
論語句解  
嘉永四年刊瓜生氏藏版經典餘師本 谷世尊詮師

### 1-3 漢籍とは何か 準漢籍の事例② 図版4 補遺・続編・再編

図版4



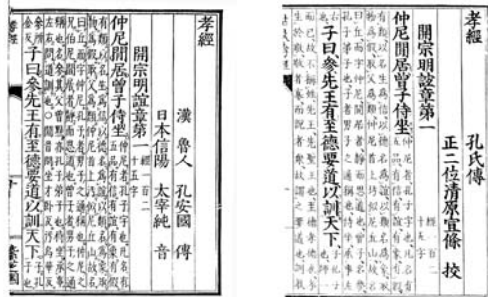
唐劉川文輯四卷  
文政十三年大阪河内屋茂兵衛等刊本 村瀬藤樹編



『續十八史集解本』  
明治九年東京山中市兵衛刊本 宮脇通樹編

### 1-4 漢籍とは何か 準漢籍の事例③

図版5



『孝經』 享保十七年江戸太宰氏素芝圖刊本  
漢孔安國傳 太宰純書注

『孝經』 天明元年刊本  
漢孔安國傳 清原宣修校

### 2-1 漢籍目録とデータ 漢籍目録の意義

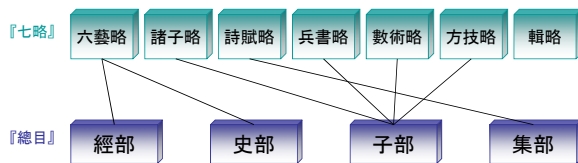
宋・鄭樵『通志』200巻 校讐略

學之不專者、爲書之不明也。書之不明者、爲類例之不分也。有專門之書、則有專門之學。有專門之學、則有世守之能。人守其學、學守其書、書守其類。人有存沒、而學不息。世有變故、而書不亡。……書籍之亡者、由類例之法不分也。類例分、則百家九流各由條理。雖亡而不能亡也。

類例既分、學述自明。以其先後本末具在。觀圖譜者、可以知圖譜之所始。觀名數者、可以知名數之相承。識緯之學盛於東都、音韻之書傳於江左、傳注起於漢魏、義疏成於隋唐。觀其書、可以知其學之源流。

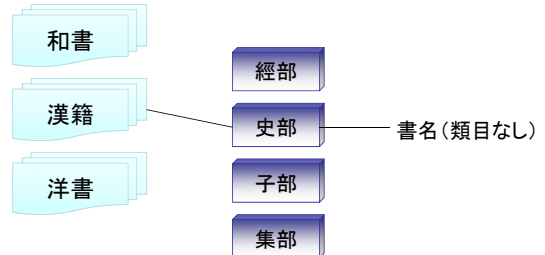
### 2-2 漢籍目録とデータ 漢籍分類目録 分類目録の発祥(七部分類)と展開(四部分類)

漢・劉歆『七略』 清・乾隆勅撰『四庫全書總目』



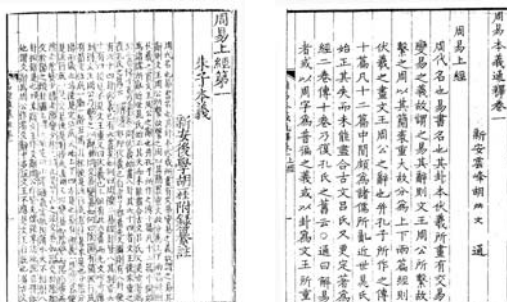
### 2-3 漢籍目録とデータ 漢籍データベース 全国漢籍データベース 国立公文書館内閣文庫 東京大学東洋文化研究所 東洋文庫 国立国会図書館

国立公文書館内閣文庫(デジタル・アーカイブ)の例



### 3-1 漢籍目録作成の実際 書名と人名

図版6

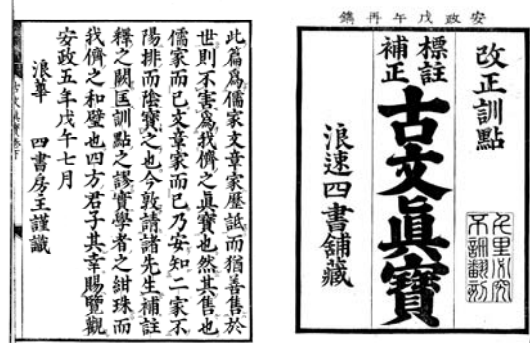


『周易』  
文化十一年刊行版

『周易上經』  
享和二年刊行版

### 3-2 漢籍目録作成の実際 出版事項① 和刻本の事例 I-1 『魁本大字諸儒箋解古文眞寶後集』

図版7

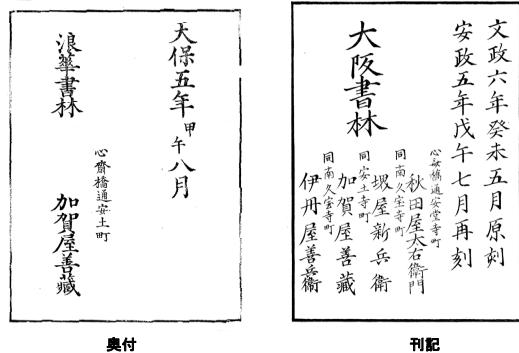


表文

封面

3-2 漢籍目録作成の実際 出版事項②  
和刻本の事例Ⅰ-2『魁本大字諸儒箋解古文眞寶後集』

図版8

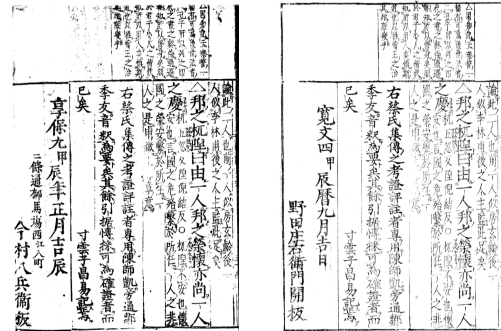


奥付

刊記

3-2 漢籍目録作成の実際 出版事項③  
和刻本の事例Ⅱ-1『書經集傳』

図版9

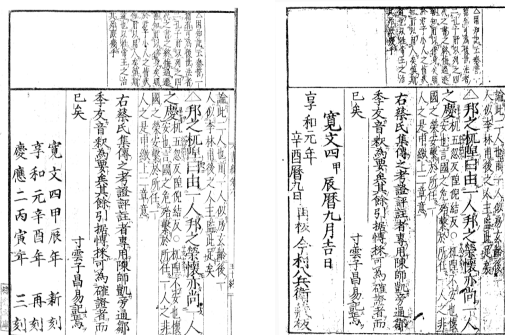


享保九年刊記

寛文四年刊記

3-2 漢籍目録作成の実際 出版事項④  
和刻本の事例Ⅱ-2『書經集傳』

図版10

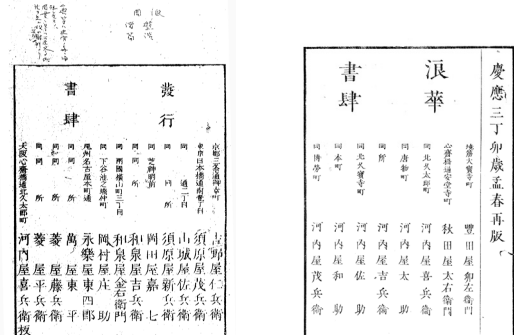


慶應三年本刊記(二年刊)

享和元年刊記

3-2 漢籍目録作成の実際 出版事項⑤  
和刻本の事例Ⅱ-3『書經集傳』

図版11



明治印本奥付

慶應三年本奥付

私立大学図書館協会東地区研究部会  
2010年度研修会  
**大学図書館とインキュナブラ**

雪嶋 宏一  
2010/11/05

1

### インキュナブラ incunabula とは

- ゲーテンベルクから1500年末までにヨーロッパで活版印刷された書物、パンフレット、一枚刷り、広告などの印刷物を総称する書誌学上の用語
- incunabula: 17世紀になって使用されたラテン語で「揺籃の中にあるもの、出生地、物事の始め」を意味し、cunae, cunabula「揺籃、むつき」から派生  
インキュナビュラ、インクナブラ、インキュナブラ、揺籃期本

2

### ゲーテンベルクの発明

- 1455年までにラテン語ウルガタ訳聖書を印刷
- 技術的達成については不明な点が多い
- 活字製作技術、平圧式印刷機、組版技術、金属活字になじむインクなど多岐に渡ると推測される
- ゲーテンベルク聖書(『42行聖書』)の印刷物としての完成度の高さは印刷技術者の賞賛的

3

### 印刷術の伝播

ドイツ、マインツ 1455年

- 1459 シュトラスブルク
- 1460 バンベルク
- 1465 ケルン
- 1465 イタリア、スピアコ
- 1468 スイス、バーゼル
- 1470 フランス、パリ
- 1473 低地地方、ユトレヒト; スペイン、バレンシア;  
ハンガリー、ブダ
- 1475 ポーランド、クラクフ
- 1476 イングランド、ウェストミンスター; チェコ、ピルゼン
- 1482 オーストリア、ウィーン; デンマーク、オーデンセ
- 1483 スウェーデン、ストックホルム

4

- 15世紀中にヨーロッパの300都市以上に伝播
- 1100~1200の印刷所が設立
- 印刷物は約4万版と推定され、3万版近くが現存
- 印刷の中心地

ヴェネツィア	約4000版
パリ	約3500版
ローマ	約2000版
ケルン、リヨン	約1500版

5

### 15世紀の印刷所

- ゲーテンベルクは『42行聖書』を印刷するのに最盛期に6台の印刷機を同時に使用した
- 1台の印刷機を稼働させるためには少なくとも植字工、プレス工、インク工の3人のチームで作業
- 『42行聖書』に使用された活字(B42)は大文字、小文字、縮約形、数字、句読点など全部で約300種類
- 聖書を印刷するためには少なくとも46,800本以上の活字が必要
- 最初の活版印刷所はすでに工場制手工業の場、新たな産業の誕生

6

## どのような書物が多数印刷されたか

言語別	自国語の使用率
ラテン語 約77%	イングランド 58%
イタリア語 7%	スペイン 54%
ドイツ語 5~6%	フランス語圏 35%
フランス語 4~5%	低地地方 27%
フランマン語 1%	ドイツ語圏 24%
	イタリア 21%

7

分野別	宗教書の内訳
宗教書 45%	聖務日課 439版
文学書 30%強	時祷書 424版
法律書 10%強	免罪符 369版
科学書 10%	聖書 204版
	神学者 アウグスティヌス 350版
	ボナヴェントゥラ 219版
	トマス・アクイナス 218版

8

## 著者別

古代ギリシア・ローマ	中世
ドナートゥス 429版	アレクサンドル・ド・ヴィルデュ 410版
キケロ 364版	アルベルトゥス・マグヌス 215版
ウェルギリウス 185版	ジャン・ジェルソン 172版
アリストテレス 182版	人文主義
オウィディウス 173版	ペトラルカ 92版
	ボッカチョ 81版
	ダンテ 33版

9

## インキュナブラの特徴

- 中世写本の伝統と16世紀以降の印刷本との橋渡しをする中間的な特徴を持つ
- 標題紙がほとんどない
- 著者・書名などの情報は巻頭のincipitに続く文章に記述されることが多い
- 巻末コロフォンに著者、書名、編者、印刷事項などが記述されることが多い
- コロフォンがないものも多く、印刷事項が不明なものも多数
- 印刷事項不明な本の印刷所・年の特定には活字の特徴が有力な根拠となる
- 同版でも様々な差異が見られる
- 一つとして同じ状態のコピーは存在しない

10

## インキュナブラの所蔵

国立・公立図書館 版数 コピー数	大学図書館 版数 コピー数
バイエルン州立図書館 9742版 約20000コピー	オックスフォード大学ボドリアン図書館 約5700版 約6700コピー
英国図書館 10390版 約12500コピー	ケンブリッジ大学図書館 4351版 4650コピー
フランス国立図書館 約8000版	ハーヴァード大学図書館 4057版
ヴァチカン教皇庁図書館 5205版 7926コピー	マンチェスター大学ライブラズ図書館 約2670版
米国議会図書館 4704版	アウクスブルク大学図書館 約2640版

11

## 日本に所在するインキュナブラ

### 明治時代 2コピー

- 明治24年に亀井茲明がドイツから持ち帰ったシェーデル『ニュルンベルク年代記』（ラテン語版、ニュルンベルク：コーベルガー、1493年）（東京大学総合図書館蔵亀井コレクション）
- ニコラウス・デ・リラ『聖書注解』第2巻（ニュルンベルク：コーベルガー、1481年）は明治9年創立の東京三一神学校の旧蔵書、神学校は明治44年に立教大学に統合

12



## 大正時代・昭和前期 24コピー

図書館・コレクション	著者・書名	印刷地・印刷年
帝国図書館	アリストテレス『命題集』	ライプツィヒ、1494
東北大学図書館	エウクリデス『幾何学原論』	ヴェネツィア、1482
南葵音楽文庫 カミングス・コレクション	ウティノ『黄金の四旬節』 『聖人の調べ』	ヴェネツィア、1471 シュトラスブルク、1500
東洋文庫 モリソン・コレクション	マンデヴィル『旅行記』3点 ポーロ『東方見聞録』2点	ゴータ、1483/84 他 ゴータ、1483/84 他
東京商科大学 メンガー文庫	アエギディウス『皇帝の支配 について』その他4点	アウクスブルク、1473 他
倉敷労働科学研究所 ゲッティンゲン医学文庫	ラーゼス『医学論』	ヴェネツィア、1497
細川護立 コルディエ文庫	シェーデル『ニュルンベルク 年代記』ラテン語版 2部	ニュルンベルク、1493

13

## 戦後の全国調査

第1回 天野敬太郎「日本に於けるインキュナビュラ  
総合目録」1952

6図書館 22コピー＋2零葉

第2回 富永牧太「インキュナビュラの本邦所在目録」  
1964－66

11図書館＋個人蔵 69版71コピー

第3回 雪嶋宏一『本邦所在インキュナブラ総合目録』  
1995

44機関・個人 297版348コピー

第3回増補 雪嶋宏一 *Incunabula in Japanese Libraries*,  
2004

62機関・個人 383版466コピー

14

## 第3回増補の結果

図書館	コピー数(その後の追加)
天理大学附属天理図書館	56
明星大学図書館	56(+1)
慶応義塾図書館	51(+8)
近畿大学中央図書館	27
大阪青山短期大学図書館	27
広島経済大学図書館	26(+7)
一橋大学社会科学西洋古典資料センター	21
早稲田大学図書館	18
金沢工業大学ライブラリーセンター	17
京都外国語大学	16

15

## わが国の大学図書館が インキュナブラを収集する意義

- ・ 書誌学的な研究目的
- ・ 貴重書コレクションの充実
- ・ 慶応義塾図書館は科学史古典収集に由来
- ・ 金沢工業大学図書館は工学史古典の収集  
「工学の曙」ライブラリー
- ・ 広島経済大学図書館は『西洋を築いた名著』を手本に名  
著古典を収集「知の系譜」文庫
- ・ 教育目的 メディア発展の実物資料として
- ・ 特定名著の収集 パチョーリ『スムマ』

16

## 大学図書館員の役割

- ・ 大学図書館が所蔵する西洋古版本が日本を代表する洋  
書貴重書のコレクション
- ・ 大学図書館員は西洋古版本を日本の宝物としてもっと  
関心を寄せるべき
- ・ 大学図書館員相互の連携協力(貴重書に関する情報交  
換)
- ・ 大学図書館のホームページに所蔵する西洋古版本のリス  
ト掲載(South Methodist University, Bridwell Libraryで  
は所蔵するインキュナブラをリストアップ)
- ・ 各図書館が所蔵する洋書貴重書を書誌学的に調査して  
デジタル公開(慶応義塾図書館、バイエルン州立図書館  
などではインキュナブラのデジタル画像を公開)

17

## 参考文献

- ・ Bland, Mark. *A guide to early printed books and  
manuscripts*. Wiley-Blackwell, 2010.
- ・ *A companion to the history of the book*, ed. by Simon Eliot  
and Jonathan Rose. Wiley-Blackwell, 2009.
- ・ *The Oxford companion to the book*, ed. by Michael F.  
Suarez, S. J. Woudhuysen and H. R. Woudhuysen. Oxford  
University Press, 2010.
- ・ Yukishima, Koichi. *Incunabula in Japanese libraries* (IJL2).  
Yushodo Press, 2004.

18

## 「紙の本」の未来をめぐって 前田 壘

- 1) ネットワーク社会の発達と、情報コンテンツの収益の変化について
- 2) 書籍の電子化がコンテンツそのものに与える変化
- 3) 「クラウド」化する社会とはなにか
- 4) 「紙の本」の未来とその窓口としての出版社・書店・図書館

## 1) ネットワーク社会の発達と、 情報コンテンツの収益の変化について

- 1 クリス・アンダーソン『F R E E』に代表される、「無料」戦略が意味するもの  
@→なぜ「無料」にしたがるのか？
  - ・既存の経済構造内における優位性の確保
  - ・商品化されていなかったものの商品化
- @→現状と近未来
  - ・テレビ・ラジオ（ボリューム・廃棄ロス削減）
  - ・化粧品
  - ・空気入れ、点検サービス
  - ・サンプルダウンロード〜リードユーザー

## 1) ネットワーク社会の発達と、 情報コンテンツの収益の変化について

- 2 従来型コンテンツの収益構造
  - @→販売優先型と広告優先型
  - ・書籍、DVD等のコンテンツ主導
  - ・雑誌、フリーペーパー等の広告主導

## 1) ネットワーク社会の発達と、 情報コンテンツの収益の変化について

- 3 ネットワーク下の「F R E E」的な思考が前提とするリソースの再分配と効率化
  - ・広告リソースの効率化
  - ・農業をはじめとする品種改良・技術革新モデル
  - @→永遠の効率化は可能か？
- 4 フリーミアムと電子化の共犯関係
  - @→「無料」にしたがる誘惑とその破綻
  - ・需要と供給の変化
  - ・デジタルへの物質的形質の変化
  - ・複製容易性

## 2) 書籍の電子化がコンテンツそのものに与える変化

- 1 「本」という概念と近代・メディア
  - 「近代」国家の構成と新聞・出版の役割
  - ・「統一された全体」というイメージ
  - ・線型性／ビルドゥングス・ロマン
- 2 分割される書籍
  - 電子化が真っ先にさらされる誘惑
  - ・検索と分売
  - ・引用ー結合
  - ・表層の横滑り

## 2) 書籍の電子化がコンテンツそのものに与える変化

- 5 「出版」の概念
  - 「出版」はどう変わるか
  - メディアミックスの目的と合理性
  - ・テキストベースのコンテンツの限界
  - 先行例としての音楽
  - ・収益源の移転

### 3) 「クラウド」化する社会とはなにか

- 1 「集合知」の（悪）夢  
→「集合知」は存在するか？ その可能性と危険
  - ・クラウド・コンピューティング（分散処理）のモデル
  - ・「個人」の自律性とは
  - ・「速度」の違いはなにを産むか
- 2 「著作権」概念の変化と、それに伴うメディアの変容  
→「著作権」は保てるのか、メディアはどう変わるか

### 3) 「クラウド」化する社会とはなにか

- 2 「著作権」概念の変化と、それに伴うメディアの変容  
→著作権は保てるか、メディアはどう変わるか
  - ・「著作」とはなにか（分割不可能性イメージ）
  - ・「独自性」とはなにか（セグメントの問題）
  - ・権利としての視点から、消費対象としての視点へ（課金意識や手段の変化）
  - ・コンテンツ自体の変容（巨大化とマイクロ化）

### 3) 「クラウド」化する社会とはなにか

- 3 大衆化と民主主義の隘路  
～“機会”化する人間  
→「主体」概念の変容と、楽観主義の是非
  - ・「大衆革命」と民主主義

### 3) 「クラウド」化する社会とはなにか

「個人はより広範な自由を、政治的コミュニティはより広範な民主主義を実現し、そして社会は、文化的内省と人間同士のつながりをより深めることができる。21世紀はそんな時代になるだろう。」  
(ニコラス・ベンクラー)

「あらゆる義務からの逃避という事実は、われわれの時代に一種の「青年」主義が形成されるに至ったという、馬鹿げてもいれは恥ずかしくもある現象を部分的に説明している。人々は、青年は義務よりも権利を多く持っているという聞いて、消極にも、自分たちは「若い」のだと主張している青年は、義務の遂行を成熟の日まで、永遠にすることのない成熟の日まで伸ばすことができると言うのだ。青年というものはつねに、偉業をなすとか、すでになしたという評価のしかたを免除された者と考えられてきた。彼はいつも信用貸しで生きていたのである。」(オルテガ・カセット)

### 4) 「紙の本」の未来と その窓口としての 出版社・書店・図書館

2010年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会  
本の歴史、本の未来—電子書籍時代を迎えて

## 電子書籍と学術出版 —実体のない書物の行方

2010年11月5日

植村八潮

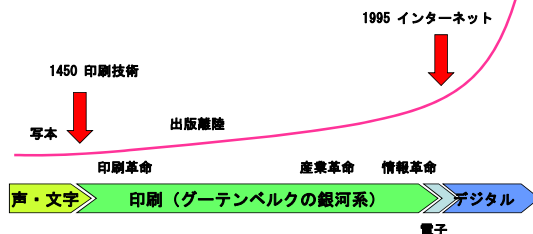
東京電機大学 出版局長

一般社団法人 大学出版部協会 副理事長

yashio@jim.dendai.ac.jp

## 情報流通量の増大

印刷複製技術と伝達方法によって出版が変化  
デジタル複製とネット流通によって今後も変化



2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

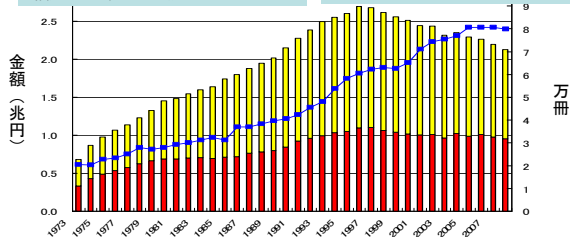
2

## 「出版市場は2兆円」の間違い

2009年の売上高(出版科研)

1兆9,356億円(1996年2兆6564億円)27%減  
書籍 8,492億円(新刊点数約6万点)4.4%減  
雑誌 1兆864億円3.9%減

推定販売部数:34億冊(書籍7億、雑誌17億、コミック10億)  
図書館貸出:7.2億冊(公6.9億、大学0.3億)  
A新古書店:2.8億冊



『出版年鑑2009』 ■ 書籍 ■ 雑誌 ■ 新刊点数

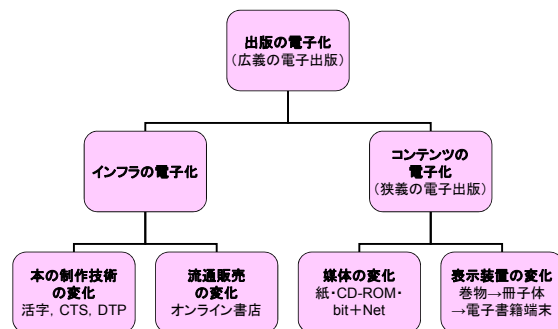
## 電子出版と電子書籍端末の歴史

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

4

## 出版の電子化

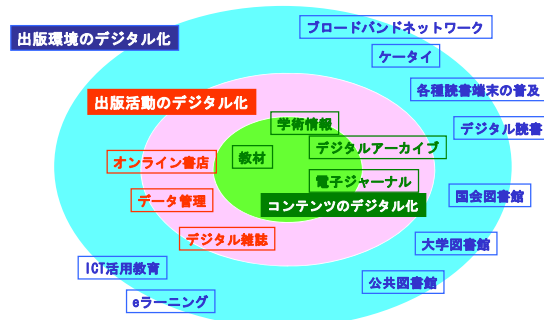


2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

5

## 出版環境のデジタル化



2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

6

# 本のデジタル化

The diagram illustrates the process of digitalizing books. It starts with a physical book at the top left. A blue arrow points from the book to a box labeled 'メディアの変化' (Change in Media), which lists 'CD-ROM' and 'DVD'. From there, a blue arrow points to a box labeled 'コンテンツの分離' (Separation of Content), which lists 'テキスト' (Text), '音' (Audio), and '画像' (Image). From the content separation box, two blue arrows lead to digital publishing: one labeled '物流' (Logistics) leading to 'パッケージ系電子出版' (Package-based Electronic Publishing), and another labeled 'ネット流通' (Network Distribution) leading to 'コンテンツ系電子出版' (Content-based Electronic Publishing). A central oval labeled '再生装置が不可欠' (Playback device is indispensable) is positioned between these two paths. A black silhouette of a person sitting at a desk with a laptop is shown on the right, representing the user. A curved blue arrow also points from the physical book to a box labeled '従来の出版物' (Traditional Publications), which contains the text 'そのまま読む' (Read as is).

本のデジタル化

従来の出版物  
そのまま読む

メディアの変化  
・ CD-ROM  
・ DVD

物流

パッケージ系電子出版

コンテンツの分離  
・ テキスト  
・ 音  
・ 画像

再生装置が不可欠

読者

ネット流通

コンテンツ系電子出版

2011/5/13 © Yashio Uemura 2010 7

## 電子読書「端末」の歴史

繰り返される言説「電子書籍元年」

- 1990 データブック
- 1993 デジタル辞書
- 1998 ロケット読書機
- 1999 電子書籍
- 2002 eブック
- 2004 リブリエ
- 2006 iLiad (iliumoon)
- 2007 アマゾン Kindle
- 2008 SONY
- 2009 Kindle
- 2010 iPad

© Yashio Uemura 2010

1990	データ
1993	デジタル
1998	ロケット
1999	電子書
2002	eブック
2004	リブリエ
2006	iLiad (il SONY I
2007	アマゾン
2008	SONY
2009	Kindle
2010	iPad

本をディスプレイで読むことに”未来“があるのか？

[illegible]

Figure 1 is a combination bar and line chart titled '図1 PC・ケータイ利用動向の推移（2002～2009年）'. The left Y-axis represents the number of units in millions (百万台), ranging from 0 to 600. The right Y-axis represents the price in yen (円), ranging from 50,000 to 400,000. The X-axis shows the years from 2002 to 2009. The chart tracks five categories: total PC usage, total Keitai usage, PC usage for entertainment/communication, Keitai usage for entertainment/communication, and Keitai usage for information acquisition. A callout box indicates that Keitai prices have fallen to 513 yen, mostly due to the end of subsidies. Another callout box indicates PC prices at 55,000 yen.

年	PC利用台数（百万台）	ケータイ利用台数（百万台）	PC利用台数（娯楽・通信）（百万台）	ケータイ利用台数（娯楽・通信）（百万台）	ケータイ利用台数（情報取得）（百万台）
2002年度	10	18	10	18	18
2003年度	18	115	18	115	115
2004年度	45	229	45	229	229
2005年度	66	243	66	243	243
2006年度	94	243	94	243	243
2007年度	112	355	112	355	355
2008年度	70	464	70	464	464
2009年度	53	574	53	574	574

# 日本の電子書籍市場は米国以上

- ・ 米国市場(2009年):全米出版社協会(AAP)
  - 290億円(3億1300万ドル)前年度2.8倍と急成長
  - 書籍市場(2兆5千億円)の1%程度
- ・ 日本市場(2009年度)
  - 574億円, 書籍・雑誌市場(1兆9,356億円)の3%程度
  - 電子辞書の市場(400億円規模)を含まない
- ・ 電子書籍タイトル数
  - 日本電子書籍出版社協会:4~5万タイトル
  - 無料のケータイ小説(120万タイトル)を含まない
  - 青空文庫9440点(このほか作業中5695点)

2011/5/13 © Yasshio Uemura 2010 10

- ・ 米国市場(2009年): 全米出版社協会(AAP)
  - 290億円(3億1300万ドル)前年度2.8倍と急成長
  - 書籍市場(2兆5千億円)の1%程度
- ・ 日本市場(2009年度)
  - 574億円、書籍・雑誌市場(1兆9,356億円)の3%程度
  - 電子辞書の市場(400億円規模)を含まない
- ・ 電子書籍タイトル数
  - 日本電子書籍出版社協会: 4~5万タイトル
  - 無料のケータイ小説(120万タイトル)を含まない
  - 青空文庫9440点(このほか作業中5695点)

# 電子出版・電子書籍の特徴

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

11

「電子書籍」に向く本の種類

電子書籍 (文字中心)

データベース

デジタルマップ

eラーニング

電子辞書・ネット百科

辞書・事典

デジタルコミック

コミック (マンガ雑誌・コミック本)

学術誌

電子ジャーナル

一般誌・専門誌

デジタル雑誌

児童書 (絵本・仕掛本)

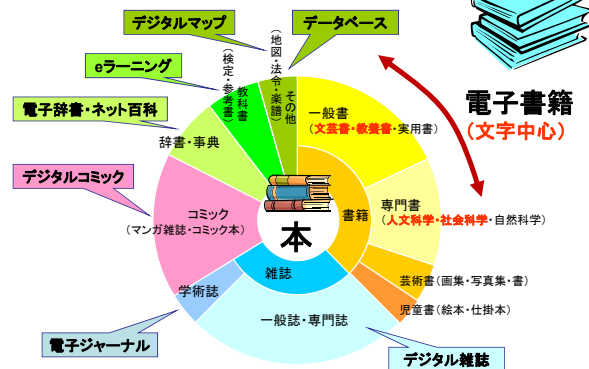
芸術書 (画集・写真集・書)

専門書 (人文科学・社会科学・自然科学)

一般書 (文芸書・教養書・実用書)

その他 (地図・法令・楽譜)

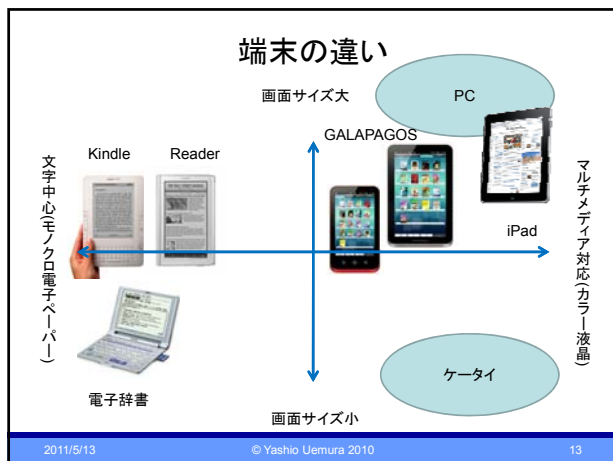
本



2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

12



### Kindle

- 白黒表示電子ペーパー「電子書籍リーダー」
  - 価格は189ドル(段階的値下げ)通信費無料
- 書籍を読むための設計
  - スケジュールも電卓もなし
  - コンテンツ: 書籍, 新聞, 雑誌(文字中心)
  - 書籍の検索, 購入, 入手: 短時間でシームレスな操作性
  - いつでも, どこでも購入し, 本のように電子書籍を読む
- コンテンツホルダー(出版社)の対応
  - 電子書籍化してもマルチメディア化する必要はない
  - ワークフローを見直し, 書籍や雑誌を作る過程で電子書籍を作る

2011/5/13 © Yashio Uemura 2010 14

### iPad

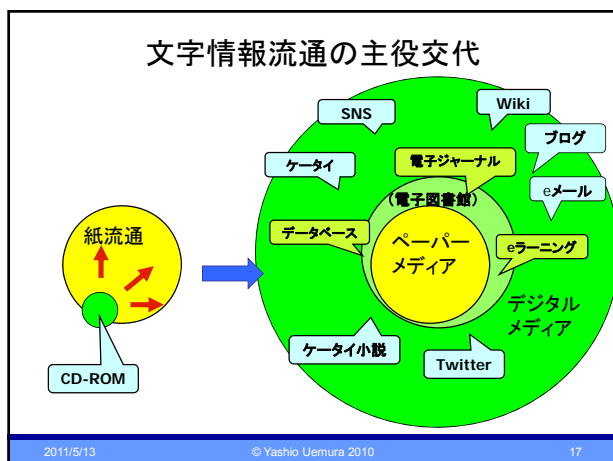
- 電子書籍も読める「タブレット型PC」
  - 5月28日に米国外の9カ国でも発売開始
  - 4月3日の発売初日に30万台以上が販売
  - 4月末までの28日間で100万台, 80日間で300万台
  - 電子書籍は初日25万冊以上, 末日までに150万冊, 1200万本ソフトDL
  - カラー液晶表示。価格5~8万円
- 市場規模が大きくメディア産業として発展が期待
- コンテンツホルダー(出版社)の対応
  - ゲームや動画表示, マルチメディア化したデジタル雑誌やコミック
  - 制作コストは高くなる
  - 競争相手は, 出版社, テレビや映画スタジオなどの伝統的メディアから, ゲームやアニメ, さらにITベンチャーなど多岐にわたる
  - 戦略や投資, さらに音楽や映像, 技術に長けた新しい人材

2011/5/13 © Yashio Uemura 2010 15

### 電子書籍の特徴

- 長所
  - 入手の容易性(本の探索・いつでもどこでも・ワンストップ)
  - 大量の本の携帯, 将来的には全文検索
  - 書斎のクラウド化, 端末間のポータビリティ
  - ハイブリッド(紙+電子), クロスメディアな提供
  - アクセシビリティ(文字拡大, 読み上げ)
  - 集合知のクラウド化(ハイライト, リンク)
- 短所
  - 端末利用(重い, 壊れる, 電力利用, 視認性の低下)
  - 頁概念の喪失(新たな表現の模索)
  - 「所有感」の喪失

2011/5/13 © Yashio Uemura 2010 16



### 電子書籍は普及するのか？

- 紙に印刷する従来型の本は芸術的要素を強く持つものに限られるようになるだろう。従って, **20~30年先には出版されるものの70%以上のは電子形態のものとなり, 冊子体で出されるものも同時に電子的に入手できるだろう。**
  - 長尾 真『電子図書館時代へ向けての大規模図書館の未来像』1996

2011/5/13 © Yashio Uemura 2010 18

## コンテンツはメディアから自由にはならない

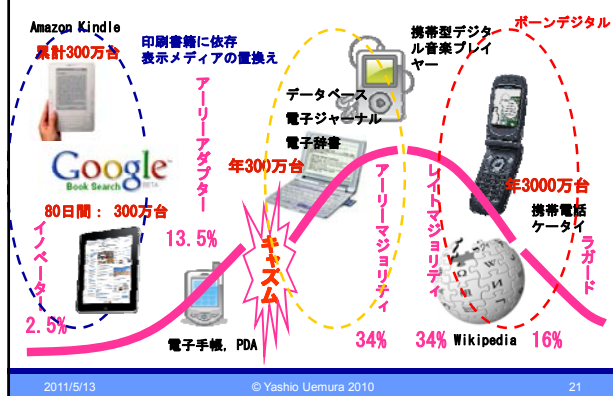
- テキストを読ませる支持材料なしにはテキストは存在しない, したがって何であれ書かれたものの理解は, どんな場合でも, **それが読者に達する際にまとう形態**に部分的に依存する。
  - ロジェ・シャルチエ, 長谷川輝夫訳『読書の秩序』ちくま学芸文庫1996

## 電子書籍端末授業の問題点

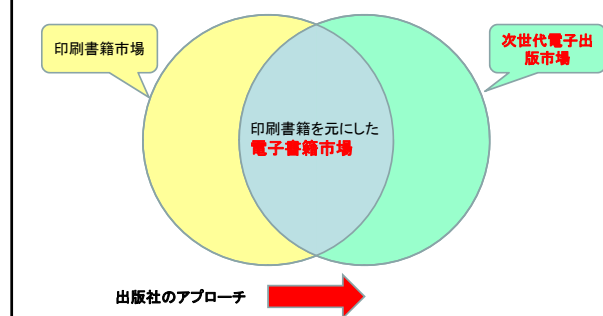
- 「電子**文芸**読書端末」: 市場規模は小さい!
  - シーケンシャルな「読み」を想定したこと
  - 巻物のような読書形態, 文芸作品向き
- ページ概念がないこと
  - 教員は学生に教科書の位置(絶対位置)を指示できない
  - 「次の行」や「次のページ」といった(相対位置)を示せない
- 複数コンテンツの同時参照・相互参照ができない
- マーカーや書き込みの機能がない
  - 「読むこと」と「書くこと」の連携がとれない



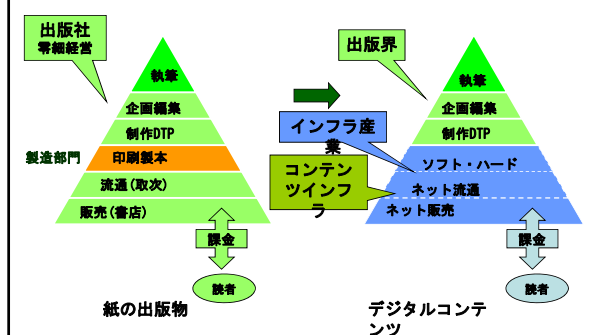
## 各種読書端末の普及(キヤズムを越えるか)



## 印刷出版市場と電子出版市場



## 出版コンテンツのインフラ



## 電子書籍の市場予測

	紙・印刷	デジタル化・ネット配信	
	現在	短期	長期
雑誌・新聞	フロー情報 ニュースの掘り下げ コミュニティ形成	編集のブランド力とノウハウ ・バックナンバー・記事販売 ・新規コンテンツのネット配信	・ニュースメディアの分離と融合 ・ネットと融合・変容していく
書籍	ストック情報 知の伝達・蓄積 信頼性形成	書籍コンテンツの販売／二次利用 ・デジタル復刊 ・紙との併売	・紙との併売が続く ・ポーンデジタル ・新メディア
読者・市場	Innovator	Early adapter	Early majority



## 大学出版部と出版の文化社会構造

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

25

## 大学出版部の役割(ホウズ『大学出版』)

- 大学の研究成果を基に質の高い学術情報として公開
  - 米国大学出版部は人文社会科学のモノグラフ出版
- 大学の部局として学術情報の普及活動
  - 出版社としての専門性(編集, 販売, 財務)
- 学術情報は高いが市場性の低い学術書を出版するビジネスモデルを構築
- 箕輪成男「威信のための装置」
  - 学者と大学の権威増幅機関として発達してきた
- 岩波文化と官学アカデミズムは、文化の正統化の「キャッチボール」をすることでそれぞれの象徴資本(蓄積された威信)と象徴権力を増大させていったのである。
  - 竹内洋「岩波書店という文化装置」『教養主義の没落』160頁

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

26

## 日本における大学の変化と課題

- 大学出版部創設ブーム
  - 国立大学法人化(2004年)以降
- 組織としての大学の変容
  - 職業主義の浸透と支配、教育と研究の分離、組織編制・教員の流動化
  - 「知の共同体」から「知の経営体」へ
  - 社会貢献、内部評価／クライアント(＝学生)評価
  - 少子社会の到来、大学間「格差」の拡大
  - 大学における出版事業＝大学上層部の誤った判断／机上の空論
- 新しい学術情報流通の可能性
  - 大学からの発信＝OCW、大学TVによる授業公開
  - 機関リポジトリ、デジタル配信＝図書館・情報センターからの要請
- 科研費研究成果公開促進費の減額

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

27

## 『人文学及び社会科学の振興について(報告)』

- 科学技術・学術審議会学術分科会報告書『人文学及び社会科学の振興について(報告)―「対話」と「実証」を通じた文明基盤形成への道』
  - [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/21/02/1236243.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/02/1236243.htm)
- 評価の三類型として、「歴史」「社会」「アカデミズム」をあげ、「社会における評価」について同時代の読者層(ジャーナリズムを含む)からの評価を指摘
- 学術誌の「査読」の限界
- 研究成果としての「書籍」の刊行を積極的に位置付けていくことが必要
- 人文学や社会科学の場合、書籍という形での研究成果の発信が、このような学術誌の査読システムの弊害を回避するための重要な研究成果の発信方法となる

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

28

## Ithakaレポートの衝撃

- 高等教育に関する調査研究や戦略モデルの構築、行政管理サービスをおこなっている非営利団体
- "University Publishing In A Digital Age"
  - 2007年7月
- 学術情報流通の急速なデジタル化のなかで、大学図書館が機関リポジトリや論文オンデマンド出版などに乗り出して利用者ニーズに応えている一方で、米国大学出版部はデジタル化の潮流に乗り遅れていると指摘

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

29

## Ithakaレポート-学術情報とは

- デジタル時代に学術情報の形態が多様化
  - モノグラフ・ジャーナル→プレプリント研究報告、予稿集、ブログ
  - 公式・非公式の区分がぼやけてきた
  - 文字→イメージ、音声、音楽、映像
  - オープン化
- オンラインジャーナルの拡大
  - モノグラフの減少とジャーナルの市場拡大
- モノグラフが使命を終えたのか
  - 研究成果の断片化
- 学術情報発信の担い手
  - 「大学出版部」から「多様な担い手」に
  - 誰が継承するのか

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

30



## 文化産業一般の二面性

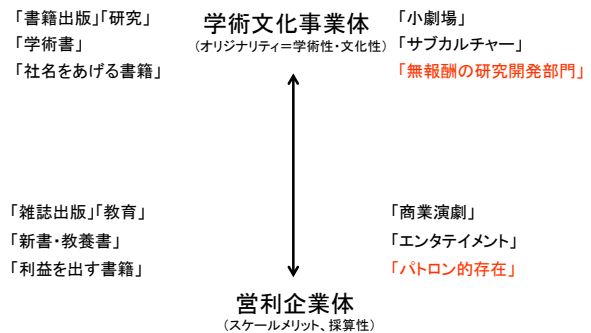
- ビジネスで割り切れる部分とそうでない部分
  - 「文化と商業 culture and commerce」
  - 「アートとビジネス art and business」
- 文化産業システムにおける「生産者組織」と「流通業者組織」のあいだの分業モデル
  - P.Hirsch, 1972,1978
- 社会学における文化生産論の諸研究
  - 'The Production of Culture' eterson1976,Coser1978
- 岩波文化と官学アカデミズムは、文化の正統化の「キャッチボール」をすることでそれぞれの象徴資本(蓄積された威信)と象徴権力を増大させていったのである。(竹内洋『教養主義の没落』「4章岩波書店という文化装置」160頁)

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

31

## 文化産業一般の二面性

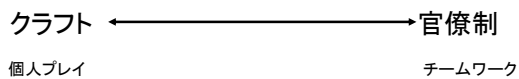


2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

32

## 学会・出版社の二つの側面

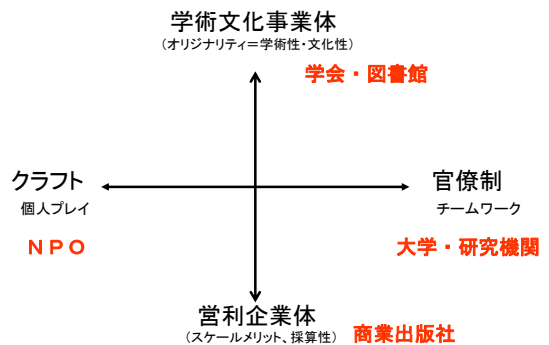


2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

33

## 学術文化組織の持つ構造



2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

34

## 学術コミュニケーションと 学術著作権流通

## オープンアクセス

- Peter Suberの定義「デジタルでオンライン上に存在する文献への無料で制約のないアクセス」
- Budapest Open Access Initiativeの定義「査読された雑誌論文の国際的、電子的流通および無料で制約のないそれら論文へのアクセス」
- BOAI「古い伝統と新しい技術」の結合によって出現
- 倉田敬子「オープンアクセスとは何か」
  - 文献(全文)
  - オンライン(電子的流通)
  - 無料での利用
  - できるだけ制約のない利用
    - 情報の科学と技術60巻4号

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

36

## オープンアクセスの実現方法

- セルフアーカイビング (Green Road)
  - 学術雑誌などで公表された論文などの二次的流通
  - タイトルベースで9割・出版社ベースで6割が認める
  - 著者のウェブサイト
  - 分野別プレプリント・サーバー (arXivなど)
  - 政府主導の分野別アーカイブ (PubMed Central)
  - 機関リポジトリ
- オープンアクセスジャーナル (Gold Road)
  - 著者が対価を支払う (PLoS, BioMed Central)

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

37

## 「学術コミュニケーション」か「著作権流通」

- 「著作物をめぐる論理」と「著作権をめぐる論理」
- 学術コミュニケーションの担い手
  - 研究者 (コミュニティ)
  - 先取権, 査読システムによる著作物の評価という論理
- 学術書・論文誌の市場流通の担い手
  - 著作権の市場取引
  - 学会, 出版社, 図書館
- 名和小太郎「積荷」と「乗物」の関係
  - 「この論理の食い違いが学術情報の生産, 流通, 消費のプロセスに歪みを作っている」

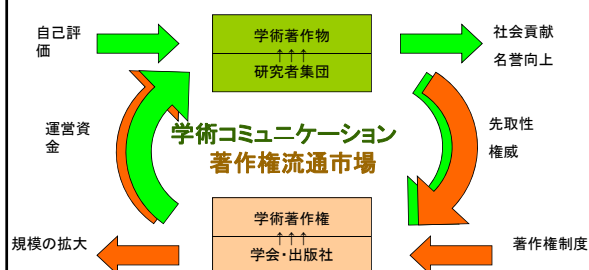
38

## 名和小太郎『学術情報と知的所有権』p.116

- 「情報の生産者としての研究者は発見の先取性つまり論文の積荷を重視し, 情報の流通者としての学会, 出版社, 図書館は論文の独自性つまり乗物としての論文に関心を持つことになる。問題は, 積荷は学会の自己評価によって, 乗り物は著作権制度によってそれぞれコントロールされていること, つまり積荷と乗物がべつの論理で制御されていることである。この食い違いが学術情報の生産, 流通, 消費のプロセスに歪みを作っている。」

39

## 学術論文をめぐる二面性



40

## デジタル複製とネットワーク流通の特徴

1. デジタル複製物は複製元と同等で劣化しない
  2. 誰でも簡単にすばやく複製・加工が行える
  3. 誰でも簡単に著作物を創作し発信できる
  4. 流通が簡単になりコストが大幅に低減する
  5. 蓄積や保存が簡単でランニングコストが安い
  6. 著作物が有体物から離れ無体物として遍在
  7. デジタル著作権管理技術の導入
  8. 再生装置が不可欠である
- 決してゼロコストにはならない
- 生成コストは、変わらずかかっている

41

## デジタル時代における出版社と図書館の役割

2011/5/13

© Yashio Uemura 2010

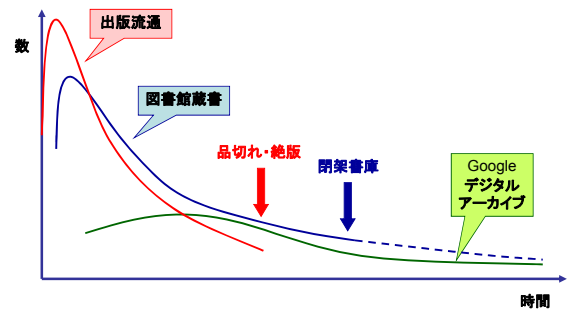
42

## 出版社の役割

- 機関リポジトリへの疑問と問題点
  - ガバナンスは機関内
  - 質的評価・保証は組織外(学会, 出版社)に依存
  - 学術情報発信としては「非自立システム」
- 出版社としてみとめられるか?
  - 本の売上げへの影響
- 知のゲートキーパーとしての役割
- 「質的保証」と「情報流通」を誰が担うのか

43

## 出版流通と図書館蔵書とデジタルアーカイブ

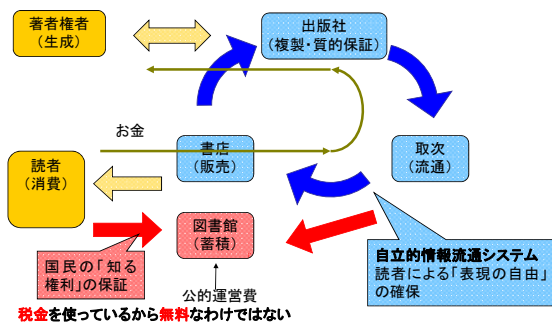


2011/5/13

© Yashio Uemura 2009

44

## 出版流通インフラ



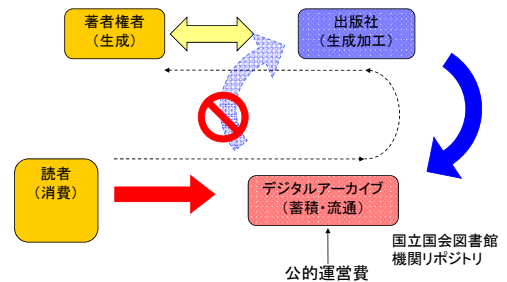
2011/5/13

© Yashio Uemura 2009

45

## デジタルアーカイブと情報流通

著作権法の改正  
デジタルコンテンツ流通促進法制 (H19)  
国立国会図書館蔵書のデジタル (H21) **複製・流通よりも生成コストが大きい**

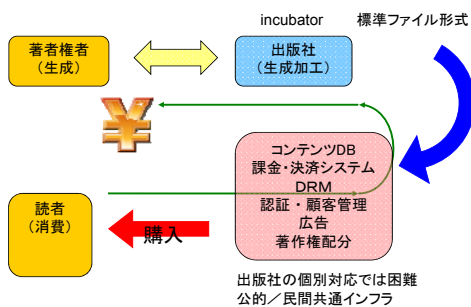


2011/5/13

© Yashio Uemura 2009

46

## 出版コンテンツのインフラ



2011/5/13

© Yashio Uemura 2009

47

## Printing Media vs. Digital Media

### Printing Media

- 定着 (fixed)
- 不変であること
- 間違いに責任をとる
- Guarantee
- 信頼性の保証

### Digital Media

- 変更可能 (alterable)
- on demand / customize
- anonymous (匿名性)
- Best effort
- そこそこの品質

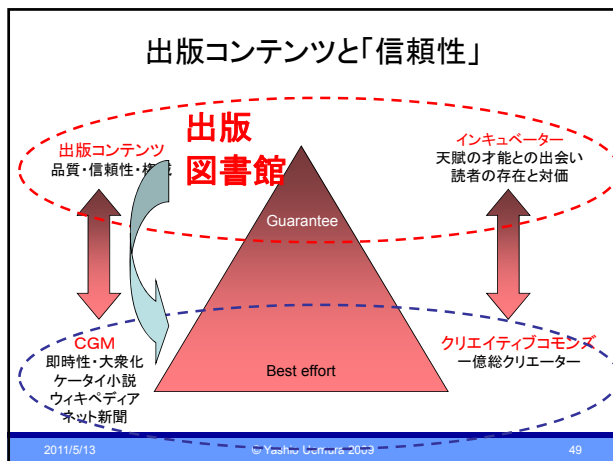


紙を担保  
書籍の持つ信頼性を担保している

2011/5/13

© Yashio Uemura 2009

48



ペーパーメディアはなくなるか・・・

文字は残る。

信頼性と速報性の役割分担

The best way to predict the future is to invent it !

未来を予測する最良の方法は、未来を創りだすことだ！

アラン・ケイ

2011/5/13 © Yashio Uemura 2010 50

## 2010年度研修会の総括と回顧

研究部 研修委員長 伊原 千秋

### 1. 2010年度研修会の開催について

#### ○ テーマ

「本の歴史、本の未来 ―電子書籍時代を迎えて―」

2010年11月4日（木）～11月5日（金） 於：慶應義塾大学

#### ○ 開催趣旨

日常業務への対応に迫られる図書館員の自らを見直す機会とするため、図書館において不変の部分、すなわち、本の歴史をテーマとした。また、2010年度は電子書籍元年と呼ばれ、今後発行される本についても変化が予想されるということで本の未来についてもとりあげることにした。

#### ○ 参加者数

参加者はのべ74大学76名。

#### ○ プログラム

別紙のとおり、基調講演・講演：6件

#### ○ 今年度特徴的な事項

##### ・ 参考文献の事前通知について

前年度に引き続き、受講決定者への参考文献の提示と講演者への質問の事前受付について通知した。今回も前年同様、質問はなかった。

##### ・ 来年度事務局および会場校担当者の手伝い

会場校の慶應義塾大学の他に、来年度事務局を担当する東京農業大学、会場校となる専修大学からも計3名の方にお手伝いしていただいた。

##### ・ 研修会および懇親会での参加者の積極的な参加

今回の研修会では参加者の積極的な参加を掲げた。研修会の最後に2名の参加者に感想を話していただいた。また、懇親会でも参加者の多数の方に大学の紹介や1日目の講演会の感想等を述べていただいた。

### 2. 2011年度研修会に向けて

#### ○ 研修会のあり方について

2010年度は研修会のあり方についてあまり議論する時間がなかった。2011年度は時間をとって検討してみたい。

#### ○ 研修会日程、場所について

10月27日（木）～28日（金）に専修大学生田キャンパスで行うことが決定済みである。

#### ○ 2011年度研修委員会

2011年度より事務局が東京理科大学から東京農業大学に替わるため、委員会メンバーが1名変更になり、新メンバーと一緒に検討することになる。

以 上

2010年度私立大学図書館協会東地区部会研究部  
**決 算 報 告 書**  
(2010年4月1日～2011年3月31日)

**収入の部**

単位：円

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差異 (A-B)	摘 要
部会交付金	2,926,900	2,936,000	△ 9,100	①13,000円 × 0.7 × 257 校 加盟館追加3校分 (27,300円) 570,000円 部会長校より研修分科会支援金
研修会参加費収入	270,000	228,000	42,000	参加費：③3,000円 3,000 × 76 名
研究会参加費	150,000	96,000	54,000	意見交換会参加費：③3,000円 3,000 × 32 名
雑 収 入	1,000	350,206	△ 349,206	預金利息、相互協力研究分科会廃止および 文献探索研究分科会より経費返還
小 計	3,347,900	3,610,206	△262,306	
前年度繰越金	2,562,792	2,562,792	0	
合 計	5,910,692	6,172,998	△262,306	

**支出の部**

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差異 (A-B)	摘 要
研究会開催費	400,000	319,088	80,912	研究会 (交流会) 11月12日開催 (於 慶應義塾大学)
研修会開催費	700,000	689,695	10,305	研修会 11月4・5日 (於 慶應義塾大学)
運営委員会費	100,000	99,995	5	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	83,425	76,575	年2回開催 (第1回5月21日於関東学院大学・ 第2回11月12日於慶應義塾大学)
分科会助成金	760,000	605,000	155,000	基本助成： 300,000 円 ( 30,000 × 10 分科会) 割増助成： 305,000 円 (⑤5,000×正会員61名 [上限13万円/分科会])
特別助成金	620,000	570,000	50,000	研修分科会 (2009年度新設)
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	9,550	40,450	研修分科会打合せ会議・会合費
印 刷 費	350,000	239,085	110,915	研究部報告書：500部
通 信 費	100,000	99,220	780	研修会案内通知，交流会案内通知，研修分科会 募集通知発送
運 営 事 務 費	50,000	52,742	△ 2,742	
小 計	3,390,000	2,867,800	522,200	
予 備 費	2,520,692	75,495	2,445,197	廃会分科会返還経費より報告書PDF化
次年度繰越金	0	3,229,703	△ 3,229,703	
合 計	5,910,692	6,172,998	△ 262,306	

2010年度私立大学図書館協会東地区部会研究部決算報告は、以上の通りです。

2011年3月31日

東地区部会研究部担当理事校

東京理科大学図書館



**監 査 報 告 書**

2010年度に係る決算報告書及び附属書類について、その証憑書類及び帳簿を監査いたしました結果、当該決算報告書は適正に表示されていると認めます。

2011年4月5日

東地区部会監事校

中央大学図書館



2011 年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部  
活 動 計 画 （案）

（2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日）

1. 研究部活動方針

- 1) 研究活動
- 2) 研修活動
- 3) 研究部ホームページの安定的運用

2. 活動計画

1) 運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議。  
年 8 回程度開催。

2) 運営委員・研究分科会代表者合同会議

研究分科会活動計画・運営その他について協議。  
2011 年 5 月、11 月の年 2 回開催。

3) 研究会

「研究分科会報告大会」（研究分科会活動成果発表）の開催。  
2011 年 12 月開催予定。会場未定。

4) 研修委員会

研修会開催（年 1 回）のため、年 8 回位開催予定。

5) 研修会

2011 年 10 月 27～28 日 於：専修大学

6) 研究分科会

10 研究分科会が、月例研究会・夏期研究合宿等の活動を実施する。

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| (1) 分類研究分科会         | (6) 西洋古版本研究分科会       |
| (2) 逐次刊行物研究分科会      | (7) 和漢古典籍研究分科会       |
| (3) パブリック・サービス研究分科会 | (8) 情報リテラシー教育研究分科会   |
| (4) レファレンス研究分科会     | (9) Lーラーニング学習支援研究分科会 |
| (5) 理工学研究分科会        | (10) 研修分科会（単年度活動）    |

休会：図書館運営戦略研究分科会、企画広報研究分科会

以 上



2011年度私立大学図書館協会東地区部会研究部

予 算 (案)

2011年4月1日～2012年3月31日

収入の部

単位：円

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	摘 要
部会交付金	2,366,000	2,926,900	△ 560,900	@13,000円 × 0.7 × 260校
研修会参加費収入	300,000	270,000	30,000	参加費：@3,000円 3,000 × 100 名 × 1 回
研究会参加費	0	150,000	△ 150,000	2011年度は研究分科会報告大会のため未計上
雑 収 入	1,000	1,000	0	預金利息
小 計	2,667,000	3,347,900	△ 680,900	
前年度繰越金	3,229,703	2,562,792	666,911	
合 計	5,896,703	5,910,692	△ 13,989	

支出の部

科 目	本年度予算 (A)	前年度予算 (B)	差異 (A-B)	摘 要
研究会開催費	500,000	400,000	100,000	研究分科会報告大会開催
研修会開催費	700,000	700,000	0	2011年度は1回開催
運営委員会費	100,000	100,000	0	
運営委員・分科会 代表者合同会議	160,000	160,000	0	年2回開催（5・11月）
分科会助成金	650,000	760,000	△ 110,000	基本助成：300,000 円 （30,000 × 10 分科会） 割増助成正会員 350,000 円 （5,000 × 70 名）
特別助成金	450,000	620,000	△ 170,000	研修分科会支援金（400,000円）
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	50,000	0	研究部活動（運営委員会・研修委員会含む）
印 刷 費	350,000	350,000	0	研究部封筒：3000枚 研究部報告書：500部
通 信 費	100,000	100,000	0	
運営事務費	100,000	50,000	50,000	研究部担当理事校交代初年度のため増額
予 備 費	2,636,703	2,520,692	116,011	
合 計	5,896,703	5,910,692	△ 13,989	

## 《関係規程》

### 私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)  
(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)  
(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)  
(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)  
(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)  
(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)  
(2000 年 6 月 9 日 改訂)  
(2004 年 6 月 18 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下会則という）第 33 条第 1 項第 3 号、第 39 条及び第 40 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下東地区部会という）に研究部（以下研究部という）を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下研究部担当理事校という）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 39 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は各研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は本研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は本研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 本研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名
- ② 運営委員 8 名  
(東地区部会役員校 3 名 東地区加盟校 5 名)

第 7 条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、本研究部を代表し、かつこれを統轄する。

第 8 条 運営委員は、隔年 4 月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて本研究部の運営に当たる。

第9条 研究部には、本研究部の運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第10条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他本研究部の運営に関する事項

第11条 本研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第12条 研究部の運営について必要な事項は別に定めることができる。

第13条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

## 附 則

- 1 本細則は昭和29年4月1日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和34年5月8日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和35年10月14日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和44年2月18日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和63年6月28日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は2001年4月1日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は2004年6月18日よりこれを実施する。

# 私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する者若干名をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を発足するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更新年度の前年 12 月までに示さなければならない。

第 7 条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第 3 条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。

第 8 条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。

- 2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえ、各研究分科会の会員として登録する。

第 9 条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があった場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。

- 第 10 条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。
- 第 11 条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月末までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。
- 第 12 条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。
- 第 13 条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。
- 第 14 条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。
- 第 15 条 研究分科会代表者は、毎年 2 回（5 月・11 月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。
- 第 16 条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

#### 付 則

- 1 本申し合わせは、2004 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005 年 4 月 1 日から施行する。

# 私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和 56 年 4 月 1 日 制定)

(平成 2 年 4 月 1 日 改正)

(平成 8 年 3 月 28 日 改正)

第 1 条 この規則は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下研究部という）に、研修委員会（以下委員会という）を設置することを定める。

第 2 条 前条の目的達成のため委員会は、次の活動を行う。

- (1) 研修会等に関する情報の収集、提供
- (2) 研修会等の企画、実施
- (3) 関連する機関、団体との連絡・協力
- (4) その他目的達成のために必要な活動

第 3 条 委員会は 6 名の委員をもって構成し、うち 1 名は研究部担当理事校（以下担当理事校という）から選出する。

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任はさまたげない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は担当理事校の担当期間とする。

第 5 条 委員に欠員が生じた場合はすみやかに補充するものとし、その任期は前任者の残任期間とする。

第 6 条 委員会は研修会等を企画・実施する際、その必要に応じて、実行委員若干名を置くことができる。

第 7 条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は委員会を招集し、議事を進行する。

第 8 条 委員長及び委員は東地区加盟館から研究部担当理事（以下担当理事という）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

第 9 条 委員長は委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年 2 回以上報告しなければならない。

第 10 条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第 11 条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、原則として受益者負担とする。

第 11 条 委員会の運営に関する事項は委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第 12 条 この規則の改廃については研究部運営委員会の承認を必要とする。

## 附 則

この規則は平成 8 年 4 月 1 日より施行する。